

鹿児島県史料集 (1)


薩藩政要録

卷	頁	段	行	誤	正
卷一	二	上	二	進人數之事	進人數之事
〃	三	上	四	諸役座	諸役座
〃	七	上	一六	文録	文録
〃	七	上	二〇	飯野・杉水流	飯野・杉水流
〃	一六	上	二四	宝永六年 丑三月	宝永六年己丑三月
〃	一七	上	一	左近將監	左近將監
〃	二二	上	二〇	常珠院	常珠寺
〃	三三	上	七	薩州下向	薩州下向仕
〃	三四	上	八	前姉夫人	前御夫人
〃	三八	上	一八	兼屋男 正忠	兼屋男 正忠
卷二	五三	上	二	後綱貴	綱貴
〃	五九	下	一九	御隱御居方勤	御隱御居方勤
〃	六〇	下	一五	江御家老	御家老
〃	六二	下	一五	戊午	戊午
〃	六四	下	六	久親	久親
〃	六九	下	九	被渡度候事	被渡度候事
卷三	八二	下	九	野尻之内	野尻之内
〃	八四	上	一三	千石より内ハ	千石より内之
〃	一〇〇	上	一	御着屋方	御着屋方
〃	一〇二	上	二四	御着屋方	御着屋方
卷四	一〇七	下	一四	内男貳万	内男貳万
〃	一一〇	上	四	樺山	樺山
〃	一一五	上	一四	御記録所	御記録所
〃	一二〇	下	一七	御側役格	御側役格
〃	一二一	上	一七	御小姓組番頭当地頭	御小姓組番頭番頭
〃	一二六	下	一〇	百石以下右御役料	百石以下 御役料
〃	一二八	上	二一	右之通被定置	右之通被定置
〃	一二九	下	二一	御記録奉行	御記録奉行
〃	一三〇	上	二七	出候事故	出候事故
〃	一三一	下	三三	相応之者無之家	相応之者無之家
〃	一三八	上	八	兼而 行跡	兼而之行跡
〃	一二八	上	二	兼而 行跡	兼而之行跡

卷	頁	段	行	誤	正
卷四	二二九	上	四	諸人教師匠	諸人教師匠
〃	一三〇	上	三	享保三亥七月	享保三亥七月
〃	一三〇	下	七	可申渡候	可申渡旨
〃	一三一	下	一〇	可申渡候	可申渡旨
〃	一三二	下	二	可被申渡候	可被申渡旨
〃	一三五	下	九	致相統有之	致相統者有之
〃	一三五	上	一七	差廻	差追
〃	一三五	下	一三	申出与頭繼、書ヲ以	申出、与頭繼書ヲ以
〃	一三五	下	一三	年元服	年元服
卷五	一三七	上	一四	比志島村者	比志島村ハ
〃	一四五	下	二	高九千	高九千
〃	一五一	上	一〇	式ケ村	式ケ村
〃	一五九	下	四	西之表村	西之表村
〃	一六〇	上	二六	鳥津勸負	鳥津勸負
〃	一六二	上	一六	六斗九才九合	六斗九才九合
卷六	一七〇	上	二九	一代御小姓組	一代御小姓組
〃	一七三	上	二六	栗野大川	栗野大川
〃	一七八	上	一三	為可尋之、石見	為可尋之、石見
〃	一七五	上	六	稱褒	稱褒
〃	一七五	下	七	川上式部	川上式部
〃	一八一	下	二九	此以前	此以前
〃	一八四	上	二八	正日より	正日より
〃	一九〇	下	五	下小本菱紙	下小本菱紙
〃	一九二	上	一六	他市来	但市来
〃	一九五	下	二九	御願	御願

薩  
藩  
政  
要  
錄

鹿兒島県史料刊行会



要目録

一 沖列の...  
 二 桑平...  
 三 沖...  
 四 清...  
 五 勅...  
 六 一...

文政十一庚子年改

右 同 卷 頭 (本文1頁)

陸藩政要録

共六冊

陸藩政要録 (五里本) 卷一表紙

<p>親島郡 高... 七箇村</p> <p>鯉澤郡 高... 七箇村</p> <p>揖尾郡 高... 七箇村</p> <p>給穀郡 高... 七箇村</p>	<p>河邊郡 高... 七箇村</p> <p>阿多郡 高... 七箇村</p> <p>日吉郡 高... 七箇村</p> <p>鹿嶋郡 高... 七箇村</p>
---	---

同 上 部 分 (本文5頁)

① 昔之在實音春六分重之也  
 山卷行所  
 ② 實音春六分重之也  
 沙板石  
 ③ 昔之在實音春六分重之也  
 町卷所  
 ④ 昔之在實音春六分重之也  
 多秋後運上後村松山  
 ⑤ 昔之在實音春六分重之也  
 年合右松石海

① 楊島在法所  
 沙石方  
 ② 昔之在實音春六分重之也  
 楊島法所  
 ③ 昔之在實音春六分重之也  
 左後仁音  
 ④ 昔之在實音春六分重之也  
 四卷厚用  
 ⑤ 昔之在實音春六分重之也  
 清葉四用  
 ⑥ 昔之在實音春六分重之也  
 度方方便  
 ⑦ 昔之在實音春六分重之也  
 一海柳

① 昔之在實音春六分重之也  
 山卷行所  
 ② 實音春六分重之也  
 沙板石  
 ③ 昔之在實音春六分重之也  
 町卷所  
 ④ 昔之在實音春六分重之也  
 多秋後運上後村松山  
 ⑤ 昔之在實音春六分重之也  
 年合右松石海

楊島在法所  
 沙石方  
 ① 昔之在實音春六分重之也  
 楊島法所  
 ② 昔之在實音春六分重之也  
 左後仁音  
 ③ 昔之在實音春六分重之也  
 四卷厚用  
 ④ 昔之在實音春六分重之也  
 清葉四用  
 ⑤ 昔之在實音春六分重之也  
 度方方便  
 ⑥ 昔之在實音春六分重之也  
 一海柳

## 刊 行 の 辞

鹿児島県史料集を出版することは、県立図書館としても重要な仕事であると、前々から考えていたが、予算がともうことで意にまかせなかつたのである。が、三十四年度からは、何とか年一冊ぐらいなら続けて出版出来そうは見込がったのである。

しかし、この仕事は学者の方々の御協力を得なければどうにもならぬので、鹿児島県史料刊行会をつくり、東京大学史料編纂所の竹内理三、林田真三郎両先生、鹿児島大学の北川鉄三、桃園恵真、原口虎雄、五味克夫、甲南高校の村野守次、鹿児島市教育委員会の芳即正、南日本新聞社の川越正則、鹿児島毎日新聞社の福満武夫の諸先生をわずらわして、その委員になつていただいたのである。

けれど役所仕事のことなので、予算のわくにしばられて、御迷惑のかけどおしで、奉仕の形で御協力をいただき、ようやく「薩藩政要録」を、第一輯として出版するはこびになつたのである。

諸先生方には御苦労のみおかけして、何等おむくい申すような事も出来なかつたことを深くお詫びするとともに、終始こころよく御協力下さつた事に、厚く感謝いたす次第である。

この刊行にあつては、鹿児島大学附属図書館所蔵玉里文庫の「薩藩政要録」を利用させていただいたのであるが、これは同図書館長尾崎忍、同館長補佐竹内実次両氏の御厚意によるものであることを記して感謝の意を表する次第である。

鹿児島県立  
図書館長

久 保 田 彦 穂

## 例言

一、本書は文政十一年改編の薩藩政要録（原名要用集）六卷、並びに嘉永四年以後の改編にかかる薩藩政要録（原名要用集）一卷を収めたものである。

一、前者については鹿児島県立図書館所蔵本、及びその原本である鹿児島大学附属図書館所蔵玉里文庫本（旧江田氏蔵本）により後者については鹿児島県立図書館所蔵本（旧遠矢氏蔵本）によつた。

一、後者は原表紙を逸しているが、後表紙に「花山家伝家 薩藩政要録（要用集）卷六」とあり、内容からみて前者、即ち玉里本卷六の改編であることは明らかである。記載の事項や数字に相違のあることは、前者が文政九年現在の資料をもとに作成されたものであるのに対し、後者が嘉永四年現在の資料によつて作成されたことによるものであろう。したがつて重複する項目も多いので、今、その部分については省略し、相違する項目についてのみ掲載した。又対校の便宜上、各項目の番号を玉里本政要録にしたがつて一々括弧で示した。

一、刊行に当つてはつとめて原本の体裁を存したが、都合により適宜改めた箇所もある。即ち一九・三七項の人名配列を二段組とした如きである。（この場合頁数の前後にかかわらず上段が先、下段が後の順序である。）

一、原本に用いられている文字のうち、一部を便宜、普通の活字に改め、誤りの明らかな文字については訂正を施した。又「島」・「嶋」等は「島」に統一した。

一、変体仮名は、すべて普通の平仮名に改め、「者」は「ハ」に、「ろ」は「より」に「茂」は「も」に「与」は「と」とした。

一、校訂に当り、本文中に読点（、）と並列点（・）とを加えた。

一、本書の校訂は主として桃園恵真・五味克夫が当つた。

# 目次

## 薩藩政要録一

### 要用集目錄

一	御判物高并御目錄高之事	五
二	京竿以來御檢地高作様之事	七
三	神社仏閣寺院勢之事	八
四	諸寺門首并山伏袈裟頭之事	八
	附神主之事	八
五	勅願所之事	九
	附一國一ヶ寺之事	九
六	御先祖様御菩提所并有由緒寺院之事	一〇
	附御家御代々御正忌日御夫人御正忌日之事	一〇
七	薩藩政要録二	
	御目見寺社并山伏之事	三九
	附寺高之事	三九
八	長日相勤寺之事	四五
九	達貴間住職被仰付寺院之事	四六
	附御家老承住職申渡候寺院之事	四六
一〇	御元祖以來御居城之事	四六
一一	御閑狩并吉野御牧之事	四八
一二	御城代相勤候人之事	四九
一三	貴久公以來御家老職相勤候人之事	四九
一四	家久公以來御談合役御詰役御側役若御年寄若年寄相勤候人之事	五八
一五	光久公以來横目頭大御目附大目附格相勤候人之事	六三
一六	御檢地高之事	七〇
一七	諸給地出物米之事	七二
一八	半出物米高之事	七四
	薩藩政要録三	

## 一九

御直并御前元服且又元服之御礼御内証元服	七五
被仰付候人数家筋連名次第之事	七五
二〇 資格被相定候人并家筋連名次第之事	七六
附家付年頭八朔御太刀進上人数之事	七六
二一 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事	七九
二二 島津之御称号被下置候面々二男以下名字拜領被仰付候事	七九
二三 御家之字名乘來候面々二男以下名乘之字拜領被仰付候事	八〇
附実名遠慮之字被仰付渡候事	八〇
二四 御一門并独礼之面々御城代御家老を始諸士以下之者共迄妻手札帳面等書様之次第被相究候事	八三
二五 御分國堅横并延町間之事	八三
二六 他領境目番所并辺路番之事	八三
二七 津口番所之事	八四
二八 異國方番所并遠見番所之事	八四
二九 火立番之事	八五
三〇 御武具之事	八五
三一 御納戸御道具之事	八七
三二 御馬并御馬具之事	九二
三三 塩焔并硫磺員數之事	九六
三四 御數寄屋御道具之事	九六
三五 置米置銀之事	九七
三六 高式百石以上土人数并依人躰持高員數被相究候事	九七
三七 諸役座より相納寄銀之事	一〇二
薩藩政要録四	
三八 御家老組并御小姓組番頭小番新番御小姓組人躰之事	一〇三
三九 宗門手札御改人数総之事	一〇五
四〇 前々移地頭在番被仰付置候郷并当時移地頭押等被仰付置候郷之事	一一二
四一 御飯屋并御茶屋之事	一一三
四二 誓詞日之事	一一三



四三	御家老寄合日之事	一一三
四四	評定所式日之事	一一三
四五	犬迫物稽古日之事	一一四
四六	御使式日之事	一一四
四七	表方支配諸御役座等之事	一一四
四八	御勝手方支配諸御役座等之事	一一五
四九	御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事	一一五
五〇	御役被仰付次第之事	一一五
五一	御城代御家老御側詰若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘定奉行御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事	一一六
五二	諸御役人御役料米被下様之事	一一八
五三	諸御役座書役小役人持高依員數役料米并支度料銀等不被下候事	一一一
五四	先祖之勲功且又其身依功代、御切米被下候人之事	一一二
五五	御扶助米被下置候人之事	一一二
五六	一世御養料被下置候人之事	一一三
五七	諸御役分高員數之事	一一四
五八	諸御役料米并御切米御扶持米其外御國中諸払銀米員數之事	一一四
五九	琉球拜借銀之事	一一四
六〇	御國粟種之事	一一五
六一	諸士跡目并隱居家督嫡子成養子之儀定被置事	一一五
六二	達貴聞縁与之事	一一五
六三	諸士子共半元服前髮取之事	一一五
六四	諸人訴訟之事	一一六
薩藩政要錄五		
六五	諸郷郡分地頭附并郷士人跡持高之事	一一七
附琉球道之島道程之事		
六六	鹿兒島中諸屋敷數之事	一一七

六七	濃州勢州尾州川、御普請御手伝之事	一六八
六八	兩御目附衆被差越候事	一六九
六九	諸座附与力并足輕御口之者御小人御広敷附足輕御數寄屋仕坊主其外諸座附人数之事	一六九
七〇	御牧數諸郷牛馬數并御馬近日執之事	一七二
七一	御船數之事	一七三
七二	浦數并浦人数之事	一七六
七三	年々江戸御籠米并江戸大坂行船數之事	一七七
七四	金山之事并金山有所之事	一七八
七五	銀山有所之事	一八〇
七六	銅山有所之事	一八〇
七七	錫山有所之事	一八一
七八	鑛山有所之事	一八一
七九	鉛有所之事	一八一
八〇	水碓有所之事	一八二
八一	硫磺并明礬有所之事	一八二
八二	椎皮炭粉山餅山之事	一八二
八三	甌島網方之事	一八二
八四	母駄他國不出事	一八三
八五	他國不出品之事	一八三
八六	御勝手方証文を以他國出品之事	一八三
八七	他國出御利潤有之品之事	一八三
八八	桜島并諸所垂熾方御利潤銀員數之事	一八五
八九	樟腦方御利潤銀之事	一八五
薩藩政要錄六(嵯山家伝家遠矢氏旧藏)		
		一八七

(原表紙)

薩藩政要録一

(共六冊)

(原寸縦二八釐、横二〇・五釐)

(異筆) 「文政十一庚子年改」

要 用 集 一 目 録

- 〔一〕(朱) 御判物高并御目録高之事
- 〔二〕(朱) 京竿以来御檢地高作様之事
- 〔三〕(朱) 神社仏閣寺院数之事
- 〔四〕(朱) 諸寺門首并山伏袈裟頭之事
- 〔五〕(朱) 附神主之事
- 〔六〕(朱) 勅願所之事
- 〔七〕(朱) 附先祖様御菩提所并有由緒寺院之事
- 〔八〕(朱) 附御家御代、御正忌日御夫人御正忌日之事

要 用 集 二 目 録

- 〔七〕(朱) 御目見寺社并山伏之事
- 〔八〕(朱) 附寺高之事
- 〔九〕(朱) 長日相勤寺之事

- 〔九〕(朱) 達 貴聞住職被 仰付寺院之事

附御家老承住職申渡候寺院之事

- 〔十〕(朱) 御元祖以来 御居城之事

- 〔十一〕(朱) 御閑狩并吉野御牧之事

- 〔十二〕(朱) 御城代相勤候人之事

- 〔十三〕(朱) 貴久公以来御家老職相勤候人之事

- 〔十四〕(朱) 家久公以来御談合役御詰役御側役若御年寄若年寄相勤候人之事

- 〔十五〕(朱) 光久公以来横目頭大御目附大目附格相勤候人之事

- 〔十六〕(朱) 御檢地高之事

- 〔十七〕(朱) 諸給地出物米之事

- 〔十八〕(朱) 半出物米高之事

要 用 集 三 目 録

- 〔十九〕(朱) 御直并 御前元服且又元服之御礼御内証元服被 仰付候人数家筋連名次第之事

- 〔三十一〕(朱) 家格被相定候人并家筋連名次第之事
- 〔三十一〕(朱) 附家付年頭八朔御太刀進入數之事
- 〔三十一〕(朱) 島津周防殿島津因幡殿御取立一所之地被下置候次第之事
- 〔三十一〕(朱) 島津之御称号被下置候面々二男以下名字拜領被 仰付候事
- 〔三十一〕(朱) 御家之字名乘来候面々二男以下名乘之字拜領被 仰付候事
- 〔三十一〕(朱) 附実名遠慮之字被 仰渡候事
- 〔三十四〕(朱) 御一門并独礼之面々御城代御家老を始諸士以下之者共迄妻手札帳面等書様之次第被相究候事
- 〔三十五〕(朱) 御分国豎横并廻町間之事
- 〔三十六〕(朱) 他領境目番所并辺路番之事
- 〔三十七〕(朱) 津口番所之事
- 〔三十八〕(朱) 異国方番所并遠見番所之事
- 〔三十九〕(朱) 火立番之事
- 〔四十〕(朱) 御武具之事
- 〔三十一〕(朱) 御納戸御道具之事
- 〔三十二〕(朱) 御馬并御馬具之事

- 〔三十三〕(朱) 塩焔并硫磺員數之事
  - 〔三十四〕(朱) 御數寄屋御道具之事
  - 〔三十五〕(朱) 置米置銀之事
  - 〔三十六〕(朱) 高式百石以上士人数并依人躰持高員數被相究候事
  - 〔三十七〕(朱) 諸役座より相納寄銀之事
- 要 用 集 四 目 録
- 〔三十八〕(朱) 御家老組并御小姓組番頭小番新番御小姓組人躰之事
  - 〔三十九〕(朱) 宗門手札御改人数繰之事
  - 〔四十〕(朱) 前々移地頭在番被 仰付置候郷并当時移地頭押等被 仰付置候郷之事
  - 〔四十一〕(朱) 御飯屋并御茶屋之事
  - 〔四十二〕(朱) 誓詞日之事
  - 〔四十三〕(朱) 御家老寄合日之事
  - 〔四十四〕(朱) 評定所式日之事

〔四十五〕  
〔朱〕 犬追物稽古日之事

〔四十六〕  
〔朱〕 御使式日之事

〔四十七〕  
〔朱〕 表方支配諸御役座等之事

〔四十八〕  
〔朱〕 御勝手方支配諸御役座等之事

〔四十九〕  
〔朱〕 御側支配并若年寄大目附支配諸御役座等之事

〔五十〕  
〔朱〕 御役被 仰付次第之事

〔五十一〕  
〔朱〕 御城代御家老御側詰若年寄大目附大番頭寺社奉行御勘定奉行御小姓組番頭当番頭御側表御用人町奉行御側役迄御役料高并御役料米被下候人之事

〔五十二〕  
〔朱〕 諸御役人御役料米被下様之事

〔五十三〕  
〔朱〕 諸御役座書役小役人持高依員數役料米并支度料銀等不被下候事

〔五十四〕  
〔朱〕 先皇之勲功且又其身依功代、御切米被下候人之事

〔五十五〕  
〔朱〕 御扶助米被下置候人之事

〔五十六〕  
〔朱〕 一世御養料被下置候人之事

〔五十七〕  
〔朱〕 諸御役分高員數之事

〔五十八〕  
〔朱〕 諸御役料米并御切米御扶持米其外御國中諸払銀米員數之事

〔五十九〕  
〔朱〕 琉球拝借銀之事

〔六十〕  
〔朱〕 御國藥種之事

〔六十一〕  
〔朱〕 諸士跡目并隱居家督嫡子成養子之儀定被置事

〔六十二〕  
〔朱〕 達 貴聞縁与之事

〔六十三〕  
〔朱〕 諸士子共半元服前髮取之事

〔六十四〕  
〔朱〕 諸人訴訟之事

要用集 五目録

〔六十五〕  
〔朱〕 諸郷郡分地頭附並郷士人躰持高之事  
附琉球道之島道程之事

要用集 六目録

〔六十六〕  
〔朱〕 鹿兒島中諸屋敷數之事

〔六十七〕  
〔朱〕 濃州勢州尾州川、御普請御手伝之事

〔六十八〕  
一 兩御目附衆被差越候事

〔六十九〕

一 諸座附与力并足輕御口之者御小人御広敷附足輕御数寄屋仕坊主其外諸

座附人数之事

〔七十〕

一 御牧数諸郷牛馬数并御馬追日執之事

〔七十一〕

一 御船数之事

〔七十二〕

一 浦数并浦人数之事

〔七十三〕

一 年々江戸御統米并江戸大坂行船数之事

〔七十四〕

一 金山之事并金山有所之事

〔七十五〕

一 銀山有所之事

〔七十六〕

一 銅山有所之事

〔七十七〕

一 錫山有所之事

〔七十八〕

一 鍊山有所之事

〔七十九〕

一 鉛有所之事

〔八十〕

一 水晶有所之事

〔八十一〕

一 硫磺并明礬有所之事

〔八十二〕

一 椎皮炭粉山餅山之事

〔八十三〕

一 鯛島網方之事

〔八十四〕

一 母駄他国不出事

〔八十五〕

一 他国不出品之事

〔八十六〕

一 御勝手方証文を以他国出品之事

〔八十七〕

一 他国出御利潤有之品之事

〔八十八〕

一 桜島并諸所垂蠟方御利潤銀員数之事

〔八十九〕

一 樟腦方御利潤銀之事

〔朱〕 御判物高並御目錄高之事

一 薩摩大隅兩國並日向諸県郡高六拾万五千石余

外硫球高拾貳万三千七百石

右 將軍家光公之御判物寬永十一年八月四日於京都

御頂戴

一 將軍家綱公之御判物寬文四年四月五日御頂戴

一 將軍綱吉公之御判物貞享元年九月廿一日御頂戴

一 將軍家宣公之御判物正徳二年四月十一日御頂戴

一 將軍吉宗公之御判物享保二年九月十二日御頂戴

一 將軍家重公之御判物延享三年十月十一日御頂戴

一 將軍家治公之御判物宝曆十一年十月廿一日御頂戴

右六行

家光公之御判物御高不相替候

貞享元年九月廿一日牧野因幡守樣本多淡路守樣より出候目錄高之事

薩摩國一円

伊佐郡

高三万八千四百壹石三斗六升貳合四勺七才

〔朱〕

〔但寛文四年之御目錄ニ伊佐郡を伊作郡と書違有之候付、伊佐郡と御

改被 仰付度旨、光久公御代依御願貞享元年九月廿一日 將軍綱吉公

御代之御目錄伊佐郡と被相改候〕

薩摩郡

高四万貳千七百拾九石壹斗三升四合七勺五才

鹿児島郡

高三万三百三拾九石六斗九升四合二勺

日置郡

高五万六千六百四拾八石四升三合九勺

阿多郡

貳拾箇村

高貳万三千五百七拾石四斗七升五勺

河辺郡 三拾五箇村

高三万五千四拾五石七斗壹升八合

甕島郡 貳箇村

高貳千七百九拾壹石三斗八升五合

顯娃郡 七箇村

高壹万五千九百三拾九石三斗八升四合七勺

揖宿郡 七箇村

高壹万六千八百五拾七石五升六合七勺

給黎郡 六箇村

高壹万四百六拾四石貳斗七合

〔朱〕

〔但寛文四年 將軍家綱公御代之御目錄ニ知覧郡を給黎郡ニ被相籠、

薩摩拾三郡と御書附出候付、貞享元年 將軍綱吉公之御判物出候

節、知覧郡之儀可被 仰上哉之由違 貴聞候処、太閤秀吉公之御

朱印、節用集ニ薩摩拾四郡と有之迄ニ而慥成証文無之、其上御取

持之和名抄ニ無之上ハ相違間敷候間、被 仰上間敷候、拾三郡ニ

成候と而御高減ニ而も無之候、那持杯ニハ相替候旨、光久公被仰

出御願御延引候〕

谿山郡 六箇村

高壹万五千四拾七石八斗九升五合五勺

出水郡 七箇村

高貳万三千七百三拾五石貳斗五升六合

高城郡 八箇村

高八千四百四拾五石九斗九升壹合四勺

大隅國一円

菱刈郡 拾三箇村

高九千九百八拾六石八斗五升六合

桑原郡 三拾貳箇村

高貳万八千八百貳拾四石四升三合

九手始

三拾九箇村

高貳万六千六百四拾三石四斗六升貳合

〔但一〕寛文四年之御目錄ニハ始羅郡を始羅と書違候而有之候付、右之訳光久公御代被 仰上、貞享元年九月廿一日出候 將軍綱吉公御代之御目錄始羅郡ニ被相改候

右之通ニ候処、正徳二年四月十一日出候御目錄始羅郡と又ニ被書記候、然処同年秋浦ニ添御高札被相建候、右書揚帳始羅郡と書記可差出候哉、始羅郡と書記可差出候哉、此以前より鉄炮改帳又ハ御国絵図等始羅郡と書記被差出事候得共、右相違付、書揚帳式通ニ相調被差上候処、右舛之儀諸方ニも有之、段々被申出御方有之候得共、不埒明候得ハ此御御願有之候而も急ニ片付間敷候、追付御判物御改可有之候、其節御願可然と此節ハ何之無沙汰、始羅郡之帳差出可然と於江戸相談相究、始羅郡と書候帳差出相納候由到來有之候

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ右相違之訳被 仰出、始羅郡と書記相渡候事

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

一 右朱書之通字違有之候処、享保二年十月廿八日相渡候御目錄ニハ

都合六拾万五千八百六拾三石六斗三升

外琉球国諸島拾五島

高拾貳万三千七百石

右拾五島左ニ相記

大 島 鳥廻五拾九里拾町 鹿兒島より百四拾三里

高壹万四千五百貳拾石壹斗貳升九勺五才

德之島 鳥廻七里三町 鹿兒島より百七拾九里

高壹万三千六百九拾九石壹斗九升貳合八勺

沖永良部島 鳥廻拾里十八町 鹿兒島より貳百三十四里半

高五千八百貳拾八石八斗壹升四合五勺壹才

与論島 鳥廻三里五町 鹿兒島より貳百四十七里半

高貳千四百貳拾七石七斗五升九合壹勺八才

喜界島 鳥廻六里貳拾町 鹿兒島より百五十八里

高壹万四千八百八拾六石六斗九升壹合四勺三才

合高四万六千九百三拾七石五斗七升八合八勺七才

但万治二年御引並竿

沖繩島 鳥廻七拾四里 鹿兒島より貳百九拾五里半

高六万貳千九拾九石六斗壹升六合七勺四才

惠平屋島 鳥廻四里貳拾六町 鹿兒島より貳百八拾貳里半

高五百四拾壹石六斗貳升五合五勺四才

伊是那島 鳥廻貳里拾八町 鹿兒島より貳百八十里三拾四町

高七百五拾石貳斗六勺四才

伊惠島 鳥廻四里七町 鹿兒島より貳百七拾四里半

高三千六百四拾三石四升貳合九勺七才



計羅摩島 鳥廻三里  
鹿兒島より三百貳里半

高貳百三石四合壹勺三才

戸無島 鳥廻壹里六町  
鹿兒島より三百貳里半

高四拾五石壹斗五升四合九勺

粟島 鳥廻貳里拾貳町  
鹿兒島より貳百九拾四里半

高七百貳拾七石四斗三升六合四勺六才

宮古島 鳥廻拾壹里  
鹿兒島より三百八拾八里半

高壹万貳千四百五拾八石七斗八升八合八勺七才

久米島 鳥廻六里貳十町  
鹿兒島より三百四拾三里半

高參千六百七拾七石七斗九合九勺六才

八重山島 鳥廻拾六里拾七町  
鹿兒島より四百四十壹里半

高六千六百三拾七石三斗貳升壹合六才

合高九万八千八百八拾三石九斗壹合貳勺七才

右之拾島ハ國司領

(朱) 京竿以来御檢地高作様之事

文錄五年之京竿高總帳之惣高

一 高頭六拾万五千八百六拾三石余

薩隅並日向諸県郡

右京竿之御檢地帳無御座候付、高之作様委細ニ相短不申候、乍然日州飯

野、杉水流村京竿御檢地帳壹冊于今有之候付、右杉水流村高頭を以京竿

之高總ニ引合候得ハ田畠ニ相掛候分米壹石を高壹石ニ為相定と相見得申

候、但琉球園並道之島ハ京竿之御檢地帳無御座候付、高之作様相知不申候

慶長十五年之竿

一 高頭拾壹万三千四拾壹石九斗六升余

琉球園

右如京竿上中下之村田畠成位、分米大豆を以相定高如此之由古帳相見得

申候

慶長之新竿粗三俵石にして壹石五升ニ而高壹石ニ作ル

一 高頭六拾壹万九千五拾五石八斗余

薩隅並日向諸県郡

右慶長十六七年之間ニ内檢御竿入有之、御檢地帳高究之通、粗大豆貳石

を分米壹石ニ成ル、高作候得ハ惣高三拾七万七千九百七拾四石八升六合

五勺之管ニ而大分ニ御高引入候付、御檢地以後粗壹石五升ニ而高壹石ニ

賦、高頭右之通六拾壹万九千五拾五石八斗余ニ為被相究ニ而可有之哉、

慶長十九年五月十四日之日付ニ而右高頭並高之作様を書付候一紙御支配

所江有之候を以右之通相考申候、凶田帳無御座候付、委細之儀不相知之

由候

寬永十年竿并慶安五年御船手竿

薩隅並日向諸県郡

右寬永十年之御檢地帳ニハ粗壹石五升ニ而高壹石ニ為相究帳有之候得共

凶田帳ニハ粗九斗六升ニ而高壹石ニ相究有之候、然ハ最前ハ粗壹石五升

ニ而高作候得ハ御高引入候付、御檢地以後ニ粗九斗六升ニ高作替為有之

と考申候、且又慶安五年御船手竿と申儀、諸浦町屋敷並塩浜高計を御船

手方より御檢地為有之と凶田帳ニ相見得申候

寬永元年新竿内檢粗壹石五升ニ而高壹石ニ作ル

一 高頭四万三千貳百五拾石七斗六升余

琉球道之島

右寬永元年より御藏入之故、為收納内檢高壹石付粗三俵賦之高ニ相定候

由古帳相見得申候

寬永十二年元高百石付七石三斗六升五合壹才宛盛増

一 高頭九万八千八百八拾三石九斗余

琉球国司領

御朱印高二不足付如是盛増為有之由古帳相見得申候

万治御内檢竿粗大豆九斗六升を以高壹石二作ル

一 高六拾万九千三百七拾八石八斗七升余

薩隅並日向諸県郡

享保御内檢竿粗大豆九斗六升を以高壹石二作ル

一 高七拾貳万四千四拾石貳斗貳升余

薩隅並日向諸県郡

万治御内檢竿元高百石付三石六斗八升貳合五勺宛盛増

一 高九万四千貳百三拾石七斗余

但高之作様不相知候、享保御内檢竿無之候

琉球国司領

享保御内檢竿粗大豆壹石五升を以高壹石二作ル

一 高五万七千七百五拾六石六斗四升余

琉球道之嶋

〔三〕

(朱) 神社仏閣寺院敷之事

一 神社四千貳百九拾六社

内 三拾社 鹿兒島

九社 諸郷

三百五拾五社 内 貳拾九社 鹿兒島

三千九百貳社 内 貳拾九社 鹿兒島

三千八百拾三社 内 八拾九社 鹿兒島

一 堂三千九百三拾五字

内 貳拾四字 鹿兒島

貳字 諸郷

八拾八字 内 貳拾七字 鹿兒島

六拾壹字 諸郷

御物修甫

寺社方修甫

修甫無構

御物修甫

寺社方修甫

三千八百貳拾壹字 内 六拾貳字 鹿兒島 修甫無構

一 寺院千五拾七ヶ寺

内 貳拾八ヶ寺 拾七ヶ寺 鹿兒島

拾壹ヶ寺 諸郷 御物修甫

貳百七拾五ヶ寺 内 拾九ヶ寺 鹿兒島

貳百五拾六ヶ寺 内 貳百五拾六ヶ寺 鹿兒島

七百五拾四ヶ寺 内 八拾五ヶ寺 鹿兒島

六百六十九ヶ寺 諸郷 修甫無構

〔四〕

(朱) 諸事門首並山伏袈裟頭之事

天台宗武州東叡山寛永寺円頓院直末法曼派山門玉照院兼帯

鹿兒島 大雄山 仏日寺 着座 南泉院

真言宗小野方京都 醍醐三寶院殿 兩末寺大覚寺院家尊寿院兼帯

鹿兒島 経田山 宝成就寺 着座 大乘院

曹洞宗能州諸嶽山総持寺末寺我山五哲之内通幻派下石屋派

鹿兒島 玉龍山 着座 福昌寺

真言宗郡山厚地花尾権現別当職当分大乘院兼帯

郡山 花尾山 着座 平等王院

浄土宗京都華頂山大谷寺智恩院末寺鎮西派

鹿兒島 養泉山 無量寺 着座 不断光院

時衆宗相州藤沢山清浄光寺無量寿院末寺

鹿兒島 松峯山 無量寿院 着座 浄光明寺

真言宗広沢方京都大内山仁和寺宇多院末寺

坊津 如意珠山 竜巖寺 着座 一乘院

天台宗武州東叡山寛永寺円頓院末寺法曼派国分正八幡宮別当

国分 鷲峯山 靈鷲山寺 着座 弥勒院

臨濟宗五山派京都惠日山東福寺末寺

鹿兒島 瑞雲山 着座 大竜寺

禪宗黃檗派山州宇治黄檗山万福寺末寺南源派

鹿兒島 元持山 着座 寿国寺

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

志布志 秘山 密教院 宝満寺

天台宗武州東叡山寛永寺門頼院末寺穴太派日州天台宗一寺

高原 霧島山 華林寺 神徳院

天台宗江州比叡山延暦寺止観院末寺穴太派薩州天台宗一寺

野田 龜翁山 西性院 山内寺

真言宗 護国山 大楽寺 安養院

鹿兒島 臨濟宗五山派京都東山建仁寺末寺

国分 靈鷲山 正興寺

臨濟宗京都正法山妙心寺末寺関山派

志布志 龍興山 大慈寺

臨濟宗五山派京都瑞雲山太平興国南禅寺末寺当分大竜寺兼帶

伊集院 泰定山 広濟寺

臨濟宗五山派京都惠日山東福寺末寺

野田 鎮国山 感応寺

法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺

鹿兒島 本長山 正建寺

真言宗小野方京都五百仏山根米寺智積院末寺

出水 加志久利山 惣特院 幸善寺

山州宇治黄檗山末寺禅宗黄檗派下木庵派

鹿兒島 万徳山 千眼寺

法華宗富士門派宇頭職房州中谷山妙本寺末寺

高岡 松尾山 本永寺

法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺

国分 鷲峯山 観持院 門首 速寿寺

浄土宗鎮西派京都華頂山大谷寺智恩院末寺

帖佐 如意珠山 願成寺

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

国分 梅壘山 無量寿院 門首 正国寺

天台宗本山派山伏薩隅日袈裟頭飯限山別当職

大崎 飯限山 飯福寺 照信院

真言宗当山派山伏薩隅日袈裟頭

鹿兒島 雲海山 宝泉坊 般若院

鹿兒島 鹿兒島諏訪大宮司 本田 播磨 守

鹿兒島 鹿兒島福ヶ迫諏訪神主 井上 長次郎

郡山花尾山神主 井上 志摩 守

水引八幡新田宮執印職 執 印 吉 太

宮内八幡山

右惣山号之儀上野より御尋有之候得共、惣山号無之旨、弥勒院より申出

置候、享保六丑七月

〔朱〕勅願所之事附一區一ヶ寺之事

当禁裏御所仙洞御所勅願所真言宗小野方京都醍醐三宝院殿嵯峨大覚寺殿  
阿末寺大覚寺院家尊寿院兼帶

鹿兒島 経田山 宝成就寺 着座門首 大乘院

後奈良院勅願所曹洞宗能州諸嶽山総持寺末寺叡山五哲之内通幻派下石屋

鹿兒島 玉龍山 着座門首 福昌寺

鹿兒島 玉龍山 着座門首 福昌寺

後奈良院勅願所真言宗広沢方京都大内山仁和寺宇多院末寺  
坊津 如意珠山 竜巖寺 着座門首 一乘院

華嚴帝勅願所律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺  
志布志 秘山 密教院 門首 宝満寺

正親町院勅願所時衆宗相州藤沢山清淨光寺無量壽院末寺  
出水 行法山 一心院 専修寺

臨濟宗京都正法山妙心寺末寺関山派  
志布志 龍興山 門首 大慈寺

右由緒書人王九十七代 光明院依 勅願、曆応三年御建立、広恵之二字を賜 勅号大慈広恵禪寺と号、開山ハ 勅諭仏智大通禪師と申候由、然共勅書ハ無之候、為祈願所可致精誠旨 尊氏卿 義詮卿御直判之書付有之、就中文安元年八月可為十刹列旨古文書有之由御記録所相知、且又龜山帝御不予之節、於京都東山当寺開山降魔之儀有之、其以後十刹列之御教書并尊氏卿より御制札等于今有之、古来より 勅願所と申伝候

真言宗大乘院末寺  
水引 医王山 正知院 泰平寺

右寺四海泰平万民為利益とて人皇四十三代 元明天皇御草創靈窟にして天皇御手自薬師如来之像を御彫刻、和銅元年当寺<sup>五</sup>御安置則泰平を以寺号と被成、比叡山中堂薬師、京都因幡堂之薬師、当寺之薬師を日本之三薬師と崇敬候由泰平寺由緒書相見得候  
右通 天皇御草創候得ハ 勅願所無疑候得共、往古之事候得ハ文書之内勅書ハ不相見得候

曹洞宗清水楞嚴寺末寺隅州之一ヶ寺  
園分 円通山 園分寺

真言宗大乘院末寺薩州之一ヶ寺  
水引 国山 威徳院 園分寺  
右式ヶ寺 聖武帝之 勅願ニ而日本国裏一國一ヶ寺御建立之内ニ而御座候  
臨濟宗関山派京都妙心寺末寺隅州之一ヶ寺

加治木 太平山 安国寺

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺薩州之一ヶ寺  
中郷 太平山 安国寺

右式ヶ寺 將軍尊氏公御願ニ而一國一ヶ寺御建立之内ニ而御座候  
天台宗武州東叡山寛永寺門頓院末寺穴太派  
高原 霧島山 華林寺 門首 神徳院

天台宗江州比叡山延暦寺止観院末寺穴太派  
野田 龜翁山 西性院 門首 山内寺

右兩寺寛文五年神徳院より山内寺を末寺と書出候付而其以後山内寺より由緒古跡之訳を以申出趣有之、違 貴聞候処、山内寺ハ由緒有之古跡條神徳院末寺と難申候、御領内ニ而ハ神徳院ハ日州之一寺、山内寺ハ薩州之一山ニ被仰付、兩寺別立候様有之度旨、上野明王院<sup>五</sup>被仰聞、兩執当覚王院・仏頂院<sup>江</sup>右之趣相違候処、思召之通、兩國之一寺御極可被成旨兩執当より被申候由明王院より被申遣候故、兩國天台宗之一寺元禄四年被仰渡候

〔朱〕御先祖様御菩提所並有由緒寺院之事

附御家御代々御正忌日御夫人御正忌日之事

天台宗武州東叡山寛永寺門頓院直末法曼派着座門首

一 大雄山 仏日寺 鹿兒島 南泉院

一 東照宮大権現御鎮座 家康公元和二丙辰四月十七日 薨御

御影御束帯 秀忠公寛永九壬申正月廿四日 薨御

一 台徳院贈正一位大相国 家光公慶安四辛卯四月廿四日 薨御

一 大猷院贈正一位大相国 家綱公延宝八庚申五月八日 薨御

一 嚴有院贈正一位大相国 綱吉公宝永六己丑正月十日 薨御

一 常憲院贈正一位大相国

一 文照院贈正一位大相國 家宣公正徳二壬辰十月十四日 薨御

右 御五代之 御牌銘ハ東叡山第五世大明院一品公弁親王准三后御真跡

一 有章院贈正一位大相國 家繼公正徳六丙申四月晦日 薨御

右 御牌銘東叡山第六世崇保院准三后一品公寬親王 御染筆

一 有徳院贈正一位大相國 吉宗公寛延四年辛未六月廿日 薨御

右 御牌銘右同第七世隨自意院准三后一品公遵親王 御染筆

一 惇信院贈正一位大相國 家重公宝暦十一年辛巳六月十二日 薨御

右 御牌銘右同第八世一品公啓法親王 御染筆

一 浚明院贈正一位大相國 家治公天明六年壬午九月八日 薨御

右 御牌銘右同第十世一品公延法親王 御染筆

將軍家公文五通

大願寺記録写意通

右 大願寺文書ニ而候処、南泉院之儀廢跡御再興之儀故、右文書相納有之候

一 大雄山 御宮並南泉院御位牌殿之儀薩州鶴田紫尾山大願寺元来之天台宗ニ而 足利將軍 義滿公御自筆医王宝殿之額迄為被遺置寺 光久

公雖被引移置、地面も狭、彼是不宜候付、依 吉貴公之命、宝永七年庚寅四月御再興、寺山院号東叡山准后より被改候、和州吉野山学頭願王

院権僧正智周住職ニ而常院室被仰付、且御領国天台宗触頭ニ而御座候 高五百五石九斗六升四合五勺八才

鹿兒島 実相院

右同 觀樹院

右同 吉祥院

右三ヶ寺高百石宛

愛宕山 十輪院

小林 門岳寺

一 紫尾山 神興寺 留田 祁答院

一 高式拾八石壹斗六升六合六勺六才 伊集院 来迎院

一 清泰山 普慶寺

一 高式拾九石九斗九升六合六勺七才 右来迎院之儀ハ高原神徳院末寺之廢寺来迎院号跡を以正徳五末年再興

一 寬陽院様御位牌享保元申九月来迎院ニ御安置

一 岩劔山 神宮寺 重富 円明院

一 霧島山 金剛院 都城 明観寺

一 高三拾八石四斗五升

一 円覚山 法界寺 花岡 真如院

一 高三拾石

右九ヶ寺南泉院門中

真言宗小野方京部醍醐三宝院殿嵯峨大覚寺殿而末寺厚地花尾権現別当職ニ而平等王院兼帶着座門首

一 経田山 宝成就寺 鹿兒島 大乗院

一 開山俊盛法印

一 陸奥守貴久公天文年中御創建国家之御祈願所と御定候、此寺伊集院宝莊殿寺を移し大乗院と被号候

一 伊集院宝莊殿寺之儀、応永廿五年 久豊公御代御創建 尊像書籍等御安置、小野嫡流始祖と御定、薩隅日三州之法務支配仕候様被仰付置候処、忠治公御代ニ至り宗門年々繁栄、毎年十月十四日門徒集会般若

理趣之真文を誦誦仕来候処、貴久公御代遠方御祈願之 御志願 思召ニ難叶、天文年中本尊并書籍法流迄被召移、大乗院と被号、国家之御祈願所と御定、当分之門前地ニ御建立有之、第三世久替代、只今之地

ニ被引移置、宝永年中本堂護摩堂鐘樓仁王門等都而御建立有之候 一 高八百七拾五石三斗四升五合四勺九才

右門中

真言宗大乗院末寺

一 霧島山 錫杖院

一 開山慶胤上人 曾於郡 華林寺

一 欽明帝之御宇慶胤上人此山を開て神殿を建立す、其後神火発而山悉焼失、歷多年、性空上人登当嶺再興す、然其性空上人を為開山、其後文明十六年迄退転之間、凡式百六拾年

一 中興開山兼慶法印、文明十六年甲辰年真言密宗之徒兼慶 忠昌公之命を受而此山ニ登、社跡を求而神殿を再興すと旧記に相見得申候

一 高五百四拾四石九斗七合式勺九才  
真言宗大乘院末寺  
一 神志山 金胎寺 鹿兒島 抱真院

一 高百拾五石三斗三升四合六才  
真言宗大乘院末寺

一 如意山 願成就寺 伊作 海藏院

一 開山広範律師、小野三宝院定濟方之法派伝来、御当国ニ相伝、開基之年月不相知候

一 高五拾九石  
真言宗大乘院末寺  
一 白鳥山 金剛乘院 飯野 満足寺

一 性空上人開基  
一 白鳥神社六座ハ 日本武尊を奉崇候、性空上人康保年中、此山ニ来而修法練行す、時ニ老翁一人忽然と現、性空ニ向而曰、我ハ日本武尊也、白鳥と化而此山ニ来住事久と云々、於此上人山之半腹ニ靈廟を建

而祭之、山を白鳥と申候ハ此謂也、性空又此寺を建而為別当寺、其後天台之徒、致退転、応永十五戊子年真言宗光尊法印再興

一 高百四拾三石五斗式升三合  
真言宗大乘院末寺

一 神護山 觀音寺 鹿兒島 宝持院

一 高五拾石  
真言宗大乘院末寺

一 愛宕山 宝幢寺 鹿兒島 勝軍院

一 高拾五石  
真言宗大乘院末寺

一 神照山 鹿兒島 普賢院

一 高三拾石  
真言宗大乘院末寺

一 高五拾石 鹿兒島 潮音院

一 高五拾石 鹿兒島 善聚院

一 高五拾石 鹿兒島 延寿院

一 高五拾石 鹿兒島 護国院

一 高五拾石 鹿兒島 柿本寺

一 高五拾石 鹿兒島 千手院

一 高五拾石 鹿兒島 文珠院

一 高五拾石 鹿兒島 善行院

一 高四拾九石五斗七升式合式勺九才  
真言宗大乘院末寺

一 高拾石 鹿兒島 西寿院

一 高拾石 鹿兒島 威光院

一 高拾石 鹿兒島 宝珠院

一 高拾石 鹿兒島 多樂寺

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 福藏院

真言宗大乘院末寺

高岡 高福寺

一 高拾六石

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 藥師院

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 永福寺

真言宗大乘院末寺

鹿兒島 松本寺

一 高三拾貳石八斗五升七合八才

真言宗大乘院末寺

郡山厚地 曼荼羅寺

一 高貳拾五石

真言宗大乘院末寺

郡山厚地 本地院

一 高貳拾五石

真言宗大乘院末寺

郡山厚地 多聞院

一 高貳拾五石

真言宗大乘院末寺

郡山厚地 普賢院

一 高貳拾五石

真言宗大乘院末寺

今和泉 福寿院

真言宗大乘院末寺

一 平安山 八流寺

一 高貳拾七石

真言宗大乘院末寺

一 五峯山 龍護院

國分 金剛寺

一 高五拾三石

真言宗大乘院末寺

一 大勝山 聖御院 伊集院 莊嚴寺

一 高四拾三石

真言宗大乘院末寺

一 摩尼山 千手院 始良 幸田寺

一 高三拾六石

真言宗大乘院末寺

一 霧島山 華林寺 高原 錫杖院

一 高百拾六石四斗壹升四合五勺七才

真言宗大乘院末寺

一 觀現山 平嶺石寺 隈之城 金剛院

一 高三拾壹石

真言宗大乘院末寺

一 冠嶽山 鎮国寺 串木野 頂峰院

一 高四拾三石八斗貳升八勺

真言宗大乘院末寺

一 稻荷山 四方寺 飯野 保寿院

一 高貳拾七石九斗壹升八合七勺五才

真言宗大乘院末寺

一 狗留孫山 多宝院 飯野 端山寺

一 開山、葉上僧正、開基年間不相知候

一 当山麓より三里、山上ニ至而其長さ拾五尋、囲七尺四方、又高き事

五尋にして囲ハ相同じ自然之ニ長石、深谷之中より屹立而空裏ニ聳ゆ、

縁記曰、是ハ上古ニ健甃婆謂ニ龍王之ために狗留孫仏、觀音大士建給

ふ石卒都婆也、仍山を狗留孫と号、後建仁寺開山、葉上僧正、中華ニ有

之日、於医王山、觀音大士之蒙示、帰朝而此山ニ来り、卒都婆を拜し、

谷傍之山嶺、一宮を立而弥陀薬師觀音之尊像を安置し、号三所権現、

又宮傍に右寺を建而為別当寺、始天台宗、今ハ新義之密宗ニ而候

- 一 高三拾四石式斗七升八勺四才  
真言宗大乘院末寺
- 一 春日山 三摩地院 諸県郡高城 東竜寺
- 一 高九石三斗六升六合  
真言宗大乘院末寺
- 一 東霧島山 金剛仏作寺 諸県郡高城 勅詔院
- 一 高拾貳石  
真言宗大乘院
- 一 馬連山 福性院 加久藤 二宮寺
- 一 高五拾石  
真言宗大乘院末寺
- 一 医王山 正知院 水引 泰平寺
- 一 開山并開基之年月不詳
- 一 本尊藥師ハ 元明帝御手自医王善逝之像を彫刻給而和銅元年 勅を降而御安置候、一國一仏之由候、鹿苑院義満公台翰之医王宝殿之額有之
- 一 高貳拾壹石八斗  
真言宗大乘院末寺
- 一 無量寿山 深川院 末吉 光明寺
- 一 高貳拾六石  
真言宗大乘院末寺
- 一 小牧山 法藏寺 財部 仏性院
- 一 高拾四石  
真言宗大乘院末寺
- 一 宝来山 淨菩提院 園分宮内 正高寺
- 一 開山一慶上人、貞和四戊子年開基
- 一 正八幡宮御本地所、三ヶ所之内准臘觀音  
真言宗大乘院末寺
- 一 密藏山 丈陸寺 志布志 大性院
- 一 高六拾五石七斗七升六合四才

- 真言宗大乘院末寺
- 一 雲林山 宝龜院 加世田 今泉寺
- 一 高貳拾七石  
真言宗大乘院末寺
- 一 野間山 龍泉寺 加世田 愛染院
- 真言宗大乘院末寺
- 一 牛王山 密教院 大口 郡山寺
- 一 高貳拾六石  
真言宗大乘院末寺
- 一 神龜山 水引 觀樹院
- 真言宗大乘院末寺
- 一 国山 威徳院 水引 国分寺
- 一 開山不詳、養老元年創立
- 一 聖武帝之 勅願ニ而日本国裏一ヶ寺、御建立之内ニ而御座候
- 一 右寺控護之 天満天神宮ハ往古 天曆帝依 勅、応和年中御建立、其後及破損之時、可造營之旨、国司ニ賜 院宣、其外 御教書等之写数通有之候
- 真言宗大乘院末寺
- 一 光林山 吉祥院 加久藤 不動寺
- 一 開山光林法印、開基之年月不相知候
- 一 涼山幻生 義弘公御 御遺骨一壺、奉納御座候
- 一 高貳拾五石式斗九升壹合六勺六才  
曹洞宗能州諸嶽山總持寺末寺、叡山五哲之内通幻派下石屋派
- 一 玉龍山 鹿兒島藩座門首 福昌寺
- 一 開山石屋真梁和尚 伊集院長門忠國之十一男応永三十年 癸卯五月十一日丹州永沢寺寂年七十九
- 一 応永元申戌年、元久公御建立
- 一 高千三百六拾壹石四斗七升九合壹勺三才  
内百七拾石、享保六年辛丑十二月廿四日增高  
右ハ從 元久公御寄附



後奈良院勅願所

但勅願所之由緒、後奈良院御宸書有之候

勅願之文字、勅願所福昌寺之六字、後奈良院宸翰

氏久公 嘉慶元年丁卯閏五月四日、御逝去  
御法名 龍岳玄久大禪定門、御位牌殿五被遊御安置候

元久公 応永十八辛卯八月六日、御逝去  
御法名 恕翁玄忠大禪定門、御影御廟所福昌寺

貴久公 元龜二辛未六月廿三日、御逝去  
御法名 大中大良等庵主、御影御廟所南林寺、御廟所福

昌寺

義久公 慶長十六辛亥正月廿一日、御逝去  
御法名 實明存忠庵主、御影御廟所妙谷寺、御廟所福

昌寺

義弘公 元和五己未七月廿一日、御逝去  
御法名 松齡自貞庵主、御廟所伊集院妙円寺、御廟所

福昌寺

久保公 文祿二癸巳九月八日、御逝去  
御法名 一唯恕參大禪定門、御廟所谷山皇德寺、御廟所福

昌寺

藏久 天正二十壬辰七月十八日、御卒去  
御法名 心岳良空大禪伯、御牌所帖佐心岳寺、御廟所福

昌寺

家久公 寛永十五戊寅二月廿三日、御逝去  
御法名 慈眼院殿花心琴月大居士、御影堂福昌寺二被成御座、御

仏餉高三百石被召附置候得共、為御引替安永四未七月、銀三百枚被  
召附置、右利銀壹貫五百目年、御渡方被仰付候

光久公 元禄七年甲戌十一月廿九日、御逝去  
御法名 寛陽院殿泰雲慈温大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石被召附置候得共、為御引替、安永四未七月銀百五拾枚被召  
附、右利銀壹貫目年、御渡方被仰付候

綱久公 寛文十三癸丑二月十九日、御逝去  
御法名 泰清院殿岡山良無大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石被召附置候得共、為御引替、安永四未七月、銀百五拾枚被  
召附、右利銀壹貫目年、御渡方被仰付候

綱貴公 宝永元年甲申九月十九日、御逝去  
御法名 大玄院殿昌道元新大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百石被召附置候得共、為御引替、安永四未七月銀百枚被召附置、右  
利銀八百目年、御渡方被仰付候

継豊公 宝曆十庚辰九月廿日、御逝去  
御法名 宥邦院殿円鑑亭盈大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石、御香奠銀六貫七百拾六匁三分八厘九毛

但御祠堂銀同前被召附置候

宗信公 寛延二己巳七月十日、御逝去  
御法名 慈德院殿俊巖良英大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石、御香奠銀六貫六百九匁九分四厘壹毛

但御祠堂銀同前被召附置候

重年公 宝曆五乙亥六月十六日、御逝去  
御法名 円徳院殿寛満良義大居士、御牌御廟所福昌寺、御仏餉高

百五拾石、御香奠銀五貫九百拾七匁三分壹厘

但御祠堂銀同前被召附置候

敬外欽公大姉 氏久公御夫人御逝去年月不相知、伊集院  
長門守忠國女、御牌仏殿被遊御座候

輪桂貞玉大姉 家久公第三  
之御女、御牌福昌寺、室之間二被成御座候、御仏餉

米式斗四升八年、御渡方有之候

陽和院殿本嶽自勝大姉 光久公御夫人、宝永八辛卯八月十二日  
御逝去、平松中納言時庸御女

御牌御廟所福昌寺、御仏餉米六石、銀十枚

淨岸院殿信譽清仁祐光大禪定尼 継豊公御夫人、前大樹綱吉公御養女、実  
清閑寺大納言濃定卿御女、安永元壬辰十

二月五日 御牌御廟所福昌寺  
御逝去

真米拾五石四斗壹升式勺起

赤米三石式斗六升三合式勺起

錢式拾四貫六百三拾式文  
右三行、御仏餉料高百石所務

真修院殿幸延妙栄日長大姉 繼久公御夫人、松平隠岐守定頼女、御牌御廟  
所福昌寺、御仏餉米六石 天和二壬戌十一月七日御逝去

蘭室院殿身安貞法大姉 吉貴公御実母、二階堂十左衛門宣行女、御牌御廟所  
福昌寺、御仏餉米六石、銀拾枚 天和三癸亥二月十九日、御逝去

靈龍院殿洗頭妙能日淵大姉 吉貴公御夫人、松平越中守定重女、御牌御廟  
所福昌寺、御仏餉米六石、銀十枚 元文四己未八月五日御逝去

智光院殿心顔貞鏡大姉 重年公御夫人、宝曆四甲戌閏二月二日、御廟所江戸大  
門寺、御牌所福昌寺、御仏餉料米六石、銀五枚 日、御逝去、島津大学久尚女

正覚院殿貞範妙雅大姉 重年公加治木家江被成御座候節、御夫人、重豪公御実  
母、島津備中貴備女、延享二乙丑十一月七日、御逝去  
御廟所加治木長年寺、御牌所福昌寺

右 正覚院様御位牌、惠燈院<sup>五</sup> 御安置有之候得共、明和五年戊子六  
月六日福昌寺御靈屋<sup>五</sup> 御遷座

御仏餉米五石ハ御香奠銀四拾四匁式分八毛  
右 正覚院様御仏餉米并御香奠銀として福昌寺<sup>五</sup>被召附置候

慈照院殿円心靈珠大姉 重豪公御夫人、明和己丑九月廿六日、御牌所福昌  
寺、御廟所 江戸大門寺、御仏餉料米三石、銀五枚 御逝去、徳川刑部卿宗尹卿女

玉貌院殿華山妙巖大姉 重豪公後御夫人、安永四乙未十月廿六日、御牌所福  
昌寺、御廟所 江戸大門寺、御仏餉米三石、銀五枚 御逝去、甘露寺前大納言短長卿女

久山妙栄大姉 元久公御夫人、応永九壬午十二月十日、御牌福昌寺仏殿<sup>五</sup>被成  
御座候 一日、御逝去、伊集院氏娘之由候

心広慶安大姉 家久公御夫人、光久公御実母寛永二乙丑、御牌所惠燈院、御  
廟所福昌寺 七月廿二日、御逝去、島津備前忠清女

曹源院殿惠山永泉大姉 光久公前御夫人、繼久公御実母、万治元戊戌、御牌  
六月十一日、御逝去、伊勢大隅守貞豊女  
所惠燈院、御廟所福昌寺、御靈屋之儀ハ宝永六年丑三月 吉貴公御建立

嶺松院殿寒心貞操大姉 重年公御実母、島津求馬久房女、天  
明八年戊申十一月十九日、御逝去  
御牌御廟所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚

芳蓮院殿華萼清心大姉 齊宣公御夫人、佐竹右京大夫義和女、御廟所江戸大  
門寺、御牌所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚 寛政八年丙辰六月八日御逝去

春光院殿心月清涼大姉 齊宣公御実母、堤中納言代長卿女、御廟所江戸大  
門寺、御牌所福昌寺、御仏餉米三石、銀五枚 文化八年辛未六月十三日御逝去

賢章院殿玉輪惠光大姉 齊興公御夫人、松平相摸守齊那妹、御廟所江戸大  
門寺、御牌所福昌寺 文政七年甲申八月十六日御逝去

福昌寺門中  
曹洞宗丹州永沢寺末寺

法智山 伊集院 妙円寺  
一 開山石屋和尚、明德元庚午年創立  
一 義弘公 元和己未七月廿一日、御逝去、御 御牌御影、妙円寺<sup>五</sup> 御安置  
法名、松齡自貞庵主、御廟所福昌寺

一 高三百七拾五石  
一 京都相国寺内林光院<sup>五</sup> 義弘公御木像被成御座候、是ハ泉州境之田  
那辺屋道与事、平生被掛 御目を、其上関ケ原乱後別而御墾意申上  
候、夫より節、御國<sup>五</sup> 罷下候、道与事、老衰仕、罷下儀難成由申上候  
得ハ 御肖像御作らせ可被下と被 仰聞仏師康巖と申者を被召寄、  
毎日御鎖之間ニ御出候而御作らせ、御名判迄被遊被下候、惟新様御  
逝去之後、庵室を建立仕、号 松齡院と、奉安置 御肖像、道与一  
世奉拜候、道与死後、俗家ニ奉安置候事、恐多存候而道与孫粟津右  
近弟致出家、右林光院住持ニ而候付、彼寺<sup>五</sup> 奉 安置候由御座候

曹洞宗福昌寺末寺  
一 松原山 鹿兒島 南林寺  
一 開山心巖良信和尚、弘治三丁酉年創立  
一 貴久公 元龜二辛未六月廿三日、御逝去、御 御牌御影南林寺<sup>五</sup> 御安置  
法名、大中良等庵主、御廟所福昌寺

一 円信院殿実溪妙蓮大師、元龜三壬申十二月廿四日御逝去、義久公後御夫人、種子島左近將時時免女、御牌

并御石塔御座候  
高四百六石、御仏餉料  
内式拾五石、妙蓮様御茶湯元

一 大中様御牌、志布志永泰寺ニも被遊、御立候様子ハ右、御代三ヶ国  
乱候付、一統被遊、御下知度旨、被、思召上候処、無程治り候故、  
一ヶ国一所ツ、大中様御牌御立可被成由、御遺言ニ而永泰寺ハ薩  
隅ニ相向候寺地故、三ヶ国御守護之由候

曹洞宗福昌寺末寺  
覚照山 鹿兒島 妙谷寺

一 開山桂山和尚、文正・応仁之間、上伊敷村当分之不動堂地ニ創立  
義久公 慶長十六辛亥正月廿一日、御逝去、御建立ニ而御牌・御画像妙谷  
寺ニ 御安置、御影ハ本尊釈迦如来

一 高三百八拾五石五斗式升五勺三才、御仏餉料  
此寺初ハ只今之不動堂地ニ有之候を慶長元年ニ御引せ被成、新地ニ  
御建立之由申伝候

一 三ヶ国ニ壹ヶ寺宛、龍伯様御寺ニ可被成由ニ而薩州ハ出水龍光寺、  
隅州ハ国分龍昌寺、日州ハ高岡之龍福寺之由候得共、龍昌寺計、御  
牌御立候、龍光寺ハ上代より有之寺ニ候、龍昌寺・龍福寺ハ、龍伯  
様御建立之寺ニ而候、大龍寺ハ、御城被移御座候時、大中様・龍  
伯様被成御座候所故、両公之、御名之上之字を取、号大龍寺と、国  
分宮内正興寺文之和尚住職被仰付候、両公御牌有之候

曹洞宗福昌寺末寺  
太平山 鹿兒島 興國寺

一 開山泰雲和尚、永正五戊辰年創立  
忠昌公 永正五戊辰二月十五日、御逝去、御牌并御石塔御座候  
御法名円室源鑑大禪定門

一 御仏餉料、古銀拾枚

一 持明彭窓庵主、寛永七庚午十月五日、御逝去、国分様と申候、御牌並御画像  
被成御座候  
家久公御夫人、光久公御養母、御廟所福昌寺

一 高貳百石  
右 持明様御仏餉料

一 常照院殿觀了日脱大師、寛文十三癸丑正月五日、御逝去、綱御牌御安置、  
貴公前御夫人、松平左兵衛督信平女  
御仏餉米六石

一 円了院殿惠心幻智禪童女、享保二十乙卯十月七日、御牌・御廟所興國寺、  
御逝去、繼豊公御女

一 右寺、初ハ只今之大興寺之地ニ有之、中比当御城之近辺ニ而候由申  
伝候

曹洞宗福昌寺末寺 鹿兒島 惠燈院

一 開山石屋真梁和尚、応永年中創立  
久豊公 応永三十二乙巳正月廿一日、御逝去、御法名  
義天存忠大禪定門、穆佐悟性寺ニも御牌、御安置

一 寿山妙久大師、久豊公御夫人、伊東大和守祐安女  
御逝去年月不相知

一 無染了心大師、久豊公後御夫人、寛政三亥四月  
御追号

一 光相院殿宝岳惠勝大師、正徳五乙未十一月廿九日、御逝去、御石塔京都大徳  
寺、吉貴公御女、近衛右大臣家久公後御簾中、御仏  
餉米、御牌惠燈院  
六石、御牌惠燈院

一 心広慶安大師、寛永二乙丑七月廿二日、御逝去、家久公御夫  
人、光久公御実母、鳥津備前忠清女、御牌所惠燈院  
御廟所福昌寺、御仏餉料高五拾石

一 曹源院殿惠山永泉大師、万治元戊戌六月十一日、御逝去、光久公前御  
夫人、綱久公御実母、伊勢大隅守貞豊女、御牌  
所惠燈院、御廟所福昌寺、御仏餉高貳拾石

一 天真院殿蘭溪霜湖大禪童子、宝永五戊子十月廿三日、御早世、御石塔蘭室院  
殿御廟所脇ニ有之候、吉貴公御二男忠五郎様

御牌所惠燈院、御廟所福昌寺、御祠堂古銀式貫目

明藏院殿釋尊輝光大禪童女 寶永四丁亥十月廿九日、御逝去、御石塔闌室院殿御廟所脇ニ有之候、吉貴公御女 幹姫様

御牌所惠燈院、御廟所福昌寺、御祠堂古銀式貫目

幻光大禪童女 承応二癸巳五月廿六日、御牌所惠燈院御逝去、光久公御女

幻覺大禪童子 延宝九辛酉六月廿三日、御逝去、綱貴公御子 御牌所惠燈院御石塔福昌寺、綱貴公御廟所脇ニ有之候

御祠堂料銀拾枚

照雲院殿桂藏惠月大禪童女 重蒙公御女、悟姫様、明和元甲申七月廿六日、御逝去 御牌所惠

燈院、御廟所福昌寺、円徳院様御廟所脇ニ被成御座候、御祠堂錢六拾九貫三百五拾貳文被召付候

真如院殿月峯妙輝大姉 真合院様御女、明和八年卯八月十日、御逝去 御牌所惠燈院、御祠堂銀式枚被召附置候

蓮心院殿清質妙香大禪童女 安永七戊戌五月二日、御天亡、重蒙公御女於克様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀廿五枚

翠黛院殿松屋惠吟大禪童女 安永七年戊戌六月十三日、御天亡、重蒙公御女、於厚様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀拾五枚

青林院殿幻質靈苗大禪童子 天明二年壬寅三月廿三日、御天亡、重蒙公御子 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾五枚

芙蓉院殿牧窓知玉大禪童女 天明四年甲辰七月廿六日、御天亡、重蒙公御女、牧姫様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

香樹院殿秋露幻清大禪童子 天明四年甲辰七月廿九日、御天亡、重蒙公御子龜五郎様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

義光院殿天真祐明大禪童子 天明六年丙午四月十一日、御天亡、重蒙公御子感之助様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

淨信院殿本因即妙大師 天明八年戊申四月廿日、御逝去、重蒙公御女 敬姫様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

麗珠院殿本光惠明大禪童子 寛政八年丙辰七月五日、御天亡、重蒙公御子為次郎様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

天苗院殿玉質潤光大禪童子 寛政九年丁巳三月七日、御天亡、重蒙公御子乘之助様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

幻住院殿真如淨空大禪童子 寛政十年戊午三月廿九日、御天亡、齊宣公御子剛之進殿 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

蓬窓院殿惠旭秀光大禪童子 寛政十一年己未七月廿日、御天亡、重蒙公御子蓬之進様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

宝池院殿運岸清心大禪童子 享和元年辛酉四月十二日、御天亡、齊宣公御子織之介様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

光容院殿妙台惠鏡大禪童女 享和元年辛酉八月十七日、御天亡、齊宣公御子壽姫様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

宝台院殿瑤琴幻湖大禪童子 文化元年甲子三月二日、御天亡、重蒙公御子豹治郎様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

瑞光院殿月心秋桂大禪童女 享和二年壬戌九月十七日、御天亡、齊宣公御女於美壽様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

香雲院殿華質幻舜大禪童女 文化六年己巳八月十四日、御天亡、齊宣公御女於幹様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

麗岱院殿紅露雪顔大禪童女 文化八年辛未正月八日、御天亡、重蒙公御女富姫様 御牌所惠燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

靈舍院殿義相理演大禪童子 文化九年壬申二月廿日、御逝去、御牌所惠 齊宣公御子武五郎殿

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚、御廟所御燈明料百三拾目 文化十三年丙子六月三日、御天亡、御牌所惠 齊興公御子

蓮珠院殿夢幻夷如大禪童子 齊興公御子

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚 文化十三年丙午八月十日、御天亡、御牌所惠 齊興公御子智姫様

智桂院殿紗雲幻香大禪童女 齊興公御子智姫様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

陽台院殿春岸幻明大禪童子 文政二年己卯正月廿日、於江戸、御牌所惠 御天亡、齊宣公御子清次郎殿

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

瑤池院殿綠台淨惠大禪童子 文政二年己卯四月十三日、於江戸、御牌所惠 御天亡、齊興公御三男諸之助様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

智涼院殿蓮草沱心大禪童女 文政三年庚辰六月十七日、於江戸、御牌所惠 御天亡、齊宣公御女瑞姫様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

麗苗院殿秋質幻香大禪童子 文政三年庚辰八月十六日、御天亡、御牌所惠 齊興公御子珍之助様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

光臨院殿浮玉幻藻大禪童子 文政四年辛巳四月七日、御天亡、御牌所惠 齊興公御子唯七郎様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

宝珠院殿浮光幻影大禪童子 文政六年癸未二月十一日、御天亡、高輪大輿左 近様御方ニ而御出生之御男子、齊興公御養善次 郎様 御牌所惠 燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

天如院殿紅山玉露大禪童子 文政九年丙戌十月廿六日、御天亡、御牌所惠 齊宣公御子信八郎様

燈院、御石塔福昌寺、御仏餉料銀式拾枚

高七拾石

惠燈院之儀ハ福昌寺後見職ニ而鹿兒島三ヶ寺並之格式ニ被仰付置 候、惠燈院ハ福昌寺之西方丈ニ而石屋禪師開基ニ而惠燈院之号ハ福昌

寺院号之由寺伝候

曹洞宗田布施常珠寺末寺

龍護山 加世田 日新寺

一 開山泰翁脊仙和尚、開基年月不詳

一 忠良公 永祿十一戊辰十二月十三日、御逝去、御在世之時、保泉寺薩州家寺 梅岳常潤在家菩薩 日新齊 影堂御廟所ニ而御座候

但常潤院ハ日新寺隱居之地ニ而諸御用筋当住より引請、相勤來申 候、寺役勤行之儀ハ隱居有之候節ハ隱居より相勤、鑑司之節ハ鑑 司之僧より相勤申事御座候

一 高三百三拾五石壹斗六升六合六勺六才 日新寺

一 高六拾九石六斗八升九合五勺八才 常潤院

曹洞宗能州總持寺末寺

一 永谷山 谷山 皇德寺

一 開山無外円照和尚、貞治五壬寅年創立、無外和尚ハ為皇子之故、皇 帝之皇之字を以号皇德寺

一 久保公 文祿二年癸巳九月八日、御逝去、御法 名一唯怨參大禪定門、義弘公御嫡男 御牌所皇德寺、御廟所福昌寺 於朝鮮國御逝去故、御遺骸御帰朝被成候

一 高百石、御仏餉料

曹洞宗福昌寺末寺

一 太平山 田布施 常珠寺

一 開山仲翁和尚、応永十八辛卯年開基

一 天勇玄機大禪定門 相模守友久主、明応二年癸巳三月十 日御卒去、相州家之元祖 御牌・御石塔御座 候

一 高拾六石

曹洞宗福昌寺末寺

一 法城山 市來 竜雲寺

一 開山心巖良信和尚、寛正三年壬午年創立

一 高拾六石

曹洞宗福昌寺末寺

一 法城山 市來 竜雲寺

一 立久公 文明六年午四月朔日、御逝去、御牌・御石塔御座候  
御法名節山玄忠大禪定門

一 茂山妙才大師 文明十七年乙巳十一月十七日、御逝去、立久公御牌・御石塔  
後御夫人、忠昌公御母堂、梶原三郎太郎弘純女

一 御座候

一 高參拾七石

曹洞宗福昌寺末寺

福寿山

伊集院 梅岳寺

一 開山三枝舜有和尚、開基年月不詳候

一 日新公 永祿十一戊辰十二月十三日、御逝去、御影・御牌御座候  
梅岳常潤在家菩薩

一 寬庭芳宥大師 日新公御夫人、永祿六癸亥十一月九日、御逝去、御牌・御石塔御座候

一 高七拾五石

曹洞宗福昌寺末寺

新豊山

志布志 永泰寺

一 開山代賢守仲和尚、天正七己卯三月建立

一 貴久公 元龜二辛未六月廿三日、御逝去、大中良等庵主、御牌御立被成候

御仏餉米四石

一 高拾七石九斗五升貳合壹勺

曹洞宗能州総持寺末寺、峨山五哲之内大源派

一 万年山

市来 金鐘寺

一 開山了堂真覚和尚、永和三丁巳年建立

一 高八石

曹洞宗福昌寺末寺、福昌寺内

一 開山石屋真梁和尚、開闢之地薩州吉利岩井田深固院初開之地ニ而候

深固院

得共、文明三辛卯年福昌寺東嶺当分之地ニ被引移候

一 忠国公 文明二庚寅正月廿日、御逝去、御法名大岳玄

譽大禪定門、御廟所加世田杉本寺格護六角堂

一 心華開安大師 忠国公御夫人、新納、御牌・御石塔御座候  
近江忠臣女

一 英光院殿寛樹円明大師 綱貫公御女、近衛大納言家久公前御簾中、宝永二乙酉十月五日、御逝去、御仏餉米六合、京都大徳寺江御石塔、御牌御座候

有之 御牌御座候

一 智江院殿円月寿相大師 光久公御女、織田因幡守信盛室、正徳元辛卯七月廿日、御卒去、智性院様御牌ハ、御兄弟中様より被建置

候、御石塔江戸大円寺ニ有之

一 高七石

曹洞宗福昌寺末寺

一 仏智山

鹿兒島郡 津友寺 吉田

一 開山竹居和尚、応永二拾癸巳年創立

一 忠治公 永正十二乙亥八月廿五日、御逝去、御牌・御廟所御座候  
御法名蘭窓津友大禪定門

一 吉田氏、初吉田領地之時、此寺了心寺と申候処、吉田入 御手候刻

御寺ニ被召成、寺号御改被成候由

一 高貳拾石

曹洞宗福昌寺末寺

一 西峯山

鹿兒島 隆盛院

一 開山天祐和尚、永正十六己卯年創立

一 忠隆公 永正十六己卯四月四日、御逝去、御牌・御画像・御石塔御座候  
御法名興岳隆盛大禪定門

一 伊作興焉寺ニ伊作家より 忠隆公御牌御建被置候

一 勝久公御法名大翁妙蓮豊後沖之浜ニ而天正元癸酉十月十五日、御逝去

御牌何方ニも無御座候故、中将綱貫公より 勝久公之御牌、隆盛院

江御安置

一 勝久公御石塔

一 重蒙公思召を以、御再興被 仰出、文化十一年甲戌九月御成就

一 高九石貳斗壹升四合五勺九才

一 御切米六石

曹洞宗福昌寺末寺

文明山

園分 竜昌寺

一 開山石屋和尚、慶長十年、開基石屋和尚を勸請為開山

一 義久公貫明存庵主御牌有之候

一 御牌御安置之訳、相知不申候

一 高三拾三石

曹洞宗福昌寺末寺

松齡山

加治木 長年寺

一 開山勸諡仏光普照禪師代賢守仲和尚、寛文九年己酉閏十月、兵庫忠

朗殿、中興之施主ニ而御座候

一 松齡自貞庵主 義弘公

一 実窓芳真大姉、家久公御母堂

一 右 御雨靈御位牌、從 家久公、御安置被遊候

一 源室林桃大姉、家久公御女

一 月清妙心大姉、家久公御女寛永十一年

甲戌八月十八日

一 右 御雨靈御位牌并御廟所、從 家久公御安置被遊候、此以前ハ

一 御靈屋小坂延、唐戸ニ而候由書留相見得申候得共、当分ハ 御靈屋

一 破懷仕、御石塔迄ニ而御座候

一 輪桂貞玉大姉 家久公御女、寛永九年壬申三月五日、御位牌、從

一 家久公被遊御安置候

一 花心琴月大居士 家久公

一 持明彭窓庵主 家久公御夫人

一 右、御雨靈御位牌、兵庫忠朗殿より御安置有之候

一 寛陽院殿泰雲慈温大居士 光久公

一 泰清院殿関山良無大居士 綱久公

一 真修院殿幸延妙栄日長大姉 綱久公御夫人

一 大玄院殿昌道元新大居士 綱貴公

一 右、御牌三代目之兵庫久任殿より御安置有之候

一 正覚院殿貞範妙雅大姉 延享二乙丑十一月七日、

御逝去

一 御牌・御廟所長年寺、銀拾枚御香花並金燈燭燭対宛、取仕立料とし

て宝曆七丑年、被召付置候、寛政八年辰四月、從 重蒙公、御祠堂

銀之 思召ニ而銀百枚被召付候

一 長年寺之儀本ハ鳳凰山大樹寺と申候而加治木城之下ニ御座候、其時

一 分ハ開基之年月、開山施主、相知不申候、加治木為菩提所、松齡様

一 御位牌御立、家久公毎々被遊 御仏詣候処、寺地不勝手、殊御屋形

一 より鬼門ニ相当候付、家久公御意を以、寛永十四年之秋、当分ニ

地ニ被召移候

一 松齡山長年寺と被相改候儀ハ寛文九己酉閏十月、御分園中、寺院本

一 末御改之時分、兵庫忠朗殿より福昌寺特峯和尚江被申達、右之通被

一 相改候、旨趣ハ大樹寺帖佐天福寺末寺ニ而候処、松齡様・琴月様御

一 牌被成 御立、加治木菩提寺之儀候故、天福寺末寺を被相除、福昌

一 寺十八世、勸諡仏光普照禪師代賢守仲和尚、長年寺開山ニ勸請ニ而

一 御座候、特峯和尚書物有之候、然ハ兵庫忠朗殿、中興之施主ニ而御

座候

一 十王繪十幅

一 右、從 義弘公、被遊御寄附候

一 義弘公肥後表 御出陣之節、御手ニ入候為 御証契宇土庄鎮守三所

一 大明神有之候洪鐘一口被遊 御寄進、于今長年寺ニ格護仕候

一 高百石八斗三升九合五勺八才

曹洞宗福昌寺末寺

一 広海山 地藏院

鹿兒島 良英寺

一 寛延四年末九月、中興開山、福昌寺先住修門竜鱗和尚

一 慈徳院様御引導相動候一筋を以、配下之廃寺地藏院再興之願申出、

一 引移建立、改号良英寺

一 宥邦院様御牌、妙心院様思召有之、御安置

一 慈徳院様御牌、福昌寺修門和尚より 御安置申上候

一 妙心院殿実法道徹六禪定尼 天明四年甲辰正月廿三日、御牌・御石塔御

座候 御卒去、宗僧公、御実母

一 高百七拾石

右從 妙心院様、御寄附

銀十枚

米五石

右為御祠堂料、年々御物方より被相渡候

曹洞宗福昌寺末寺福昌寺内

月香院

一 開山人王百七代 正親町院勅諭、仏光普照禪師代賢守仲和尚、開基之年月不詳候

一 月香妙雲大師 元和九年癸亥六月十四日、家久公御妾中丸と唱申候相良日向長辰女、鳥津安芸久雄母堂

一 穉露童子 寛文六丙午十一月十六日 光久公御子

右兩 御牌御安置候、此寺初ハ良等院と号、歳久御建立之由候得共

一 貴久公御牌并御画像御安置

一 歳久御牌御安置

一 高三拾石

曹洞宗福昌寺末寺

福昌寺内 花舜軒

一 開山喜冠菴慶和尚、開基年月不詳候

一 花舜妙香大師 永祿二巳未十一月十八日、御逝去、御牌所として此寺御建立

一 建立

一 花窓貞春大師 寛永十三丙子正月十七日、死去、家久公御妾、家村彦岐守重治女

一 右位牌も御座候

一 高三拾石

曹洞宗福昌寺末寺

鹿兒島 源舜庵

一 高三拾石

曹洞宗福昌寺末寺

鹿兒島 上山寺

曹洞宗福昌寺末寺

一 達磨山

出水

龍光寺

一 開山在天和尚、開基年月不詳候

一 施主薩州家園久

一 高拾石

曹洞宗田布施常珠寺末寺

一 千秋山

伊集院

雪窓院

一 開山二株桂林和尚、永祿十丁卯十二月、貴久公御創建之由棟札相見

得申候

一 雪窓妙安大師 義久公、義弘公御母堂、天文十三甲辰八月十五日、御卒去、入来院禪正重隠女 御位牌所ニ而御座候

一 高百石

曹洞宗福昌寺末寺

一 智額山

大口

成就寺

一 高拾石

曹洞宗越前宅良慈眼寺末寺

清水

楞嚴寺

一 仏頂山

曹洞宗能州總持寺末寺

一 兜卒山

飯野

長善寺

一 高貳拾石

曹洞宗飯野長善寺末寺

一 龜城山

飯野

幻生寺

一 開山常室梵膺和尚、開基年月不相知候

一 涼山幻生 天正四年丙子十一月廿二日、御早世 義弘公御子、龜壽様御牌所

一 御牌御建被成候、加久藤不動寺ニハ 幻生様御遺骨一靈奉納有之候

一 高貳拾石

曹洞宗福昌寺末寺

一 竜護山

帖佐

総禪寺



一 開山起宗興和尚、文明年中開基

一 心岳良空大禪伯 天正二十年壬辰七月十八日、御卒去 御牌・御石塔有之候  
左衛門督歳久入道晴襄

一 高三拾貳石 御仏餉料

曹洞宗福昌寺末寺

一 福城山

栗野 徳元寺

一 開山竹居和尚、開基年月不相知候

一 蘭桂純香大禪定門 文祿四年乙未七月四日、御早世、  
義弘公御子久四郎忠清主

一 高貳拾石

曹洞宗能州總持寺末寺

一 大定山

蒲生 永興寺

一 高五拾四石七升三合

曹洞宗市來金鐘寺末寺

一 忠徳山

川辺 宝福寺

一 開山字堂覚<sup>記</sup>禪師ハ薩州日置郡藤原氏より出、父を久木崎光惠入道  
と申候、母懷妊之時、胸間<sup>記</sup>字之相を現す、依之刺染して<sup>記</sup>を為諱  
禪師加州瑞川寺之竹窓智藏に随従して法を学ひ、智藏之法を嗣て応  
永二十一甲午年本國に還り、先鳥帽子岳に居、又熊嶽に入て後遂に  
此寺を建立、其年月不詳候

一 高五拾八石六斗貳升貳合七勺壹才

曹洞宗田布施常珠院末寺

一 龍豊山

川辺 玉泉寺

一 開山第掃祚庵和尚

一 陸奥守忠國公御女玉泉智芳大師明応五年丙辰七月三日 御逝去、此  
寺為 智芳大師御建立

一 高七石五斗

曹洞宗福昌寺末寺

一 安泰山

指宿 源忠寺

一 高拾貳石

曹洞宗川辺宝福寺末寺

一 如意山

谷山 清泉寺

曹洞宗福昌寺末寺

一 平原山

穎娃 証恩寺

一 高貳拾五石三斗八合三勺

曹洞宗肥後悟真寺末寺明峯派

一 永谷山

川辺郡山田 善積寺

一 開山東峯和尚、大源和尚之弟子、開基年月不詳候

一 伝称、東峯此山に住時、山中に毒蛇有て人民を悩、毒氣烟火燃降伏  
するものなし、東峯彼窟前に座禪する事三日、毒蛇忽脱苦身、生天  
と云々、今件之窟寺裏にあり、俗に蛇を呼謬て此寺を鬼窟寺と唱、  
上総介貞久公法徳を 御感有て薩隅日三州に勸化御免為被仰付置事  
候得共、延享元子年迄勸化取摘有之、同二丑年御引取被仰付候

一 高拾三石七斗壹升六合貳勺五才

曹洞宗伊集院妙円寺末寺

一 瑞氣山

伊作 善勝寺

一 開山愚岳妙智和尚、文明年中創立

一 徳埜禪公大禪定門 伊作河内守久逸主御菩提所、御牌・御影御安置、  
久逸主於加世田御戦死被成、園田新右衛門と申者奉討候、其時御着  
御鎧之袖致拜領、子孫治左衛門と申者頂戴仕置候由

一 高三拾壹石壹斗

曹洞宗田布施常珠寺末寺

一 千手山

阿多 大平寺

一 開山吸江善庵和尚、天文八年創立

一 忠幸主 日新公之御養父、大年道登号一願齋 御牌・御石塔御座候  
天文八年己亥七月朔日、御逝去

一 高貳拾壹石七斗五升

曹洞宗福昌寺末寺

一 滝水山

帖佐 心岳寺

一 開山代賢和尚、慶長四年己亥開基

一 心岳良空大禪伯 天正廿年壬辰七月十八日、御卒去、  
左衛門督歳久入道晴襄

一 高貳拾壹石七斗五升

曹洞宗福昌寺末寺

一 滝水山

帖佐 心岳寺

一 開山代賢和尚、慶長四年己亥開基

一 心岳良空大禪伯 天正廿年壬辰七月十八日、御卒去、  
左衛門督歳久入道晴襄

一 高貳拾壹石七斗五升

曹洞宗福昌寺末寺

右 藏久御切腹之所故、義久公此寺を御建立被遊候、御牌并御切腹之所御石塔有之候、御死骸ハ帖佐總禪寺ニ葬り、御石塔有之候、御廟所ハ福昌寺<sup>五</sup>御建被成候、依 台命御首上京被成、聚楽辰橋ニ島首候、島津圖書入道紹益在京仕候故、十余日過候而 殿下之執權<sup>五</sup>得内意、忍取候而淨福寺内宝林庵<sup>五</sup>葬り御石塔御座候

曹洞宗福昌寺末寺

一 宝陀山 始良 舍利寺

一 開山福昌寺三代仲翁和尚、元久公、正長二己酉年創立  
御嫡子、

一 久山妙栄大姉 元久公之御夫人、御牌并御妹之御牌御座候、仲翁和尚右寺ニ遷化共、又伊集院之内徳重村<sup>五</sup>遷化共而説申伝候

一 高拾三石

曹洞宗能州總持寺末寺

一 曹溪山 高山 瑞光寺

一 高貳拾石 曹洞宗福昌寺末寺

一 真金山 高岡 法華嶽寺

一 開山代賢守仲和尚、開基年月不詳候

一 栗師如来ハ百濟国之沙門日羅安置共、又ハ伝教大師作共有之、雖一決候、異他靈仏ニ而御座候

一 高八拾壹石壹斗四升壹合六勺七才

曹洞宗天真派下上野長源寺末寺希明派下

一 永泰山 福山 大安寺

一 開山勝嚴和尚、開基年月不相知候

一 心翁大安大居士 右馬頭忠將、永祿四辛酉七月十二日 御牌所  
福山於廻之城戰死

一 高拾九石七斗五升九合貳勺九才

曹洞宗福昌寺末寺

一 医王山 鹿兒島 薬王寺

一 高拾五石貳斗八合三才

曹洞宗飯野長善寺末寺 飯野 宗江院

一 開山梵芳永紹和尚、開基年月不相知候

一 湖月宗江大禪定門 義弘公御子、万千代様 御牌被成御立候

一 高拾八石

曹洞宗福昌寺末寺

一 太平山 鹿兒島 大徳寺

一 実峰妙恵大姉 忠国公 伊集院大隅守濃久に嫁せられ候処、濃久出奔之後、為尼、永正四丁卯年此寺を創建、開基ニ而御牌御座候

曹洞宗伊集院梅岳寺末寺

一 宝蔵山 鹿兒島 笑岳寺

一 高貳拾貳石壹合

曹洞宗川辺宝福寺末寺

一 久木山 伊集院 破鞋庵

一 開山宇堂寛巳和尚、応永九年建立、宇堂之事跡宝福寺由緒之場相見得候故略之

一 高八斗

曹洞宗谷山皇徳寺末寺

一 補陀山 谷山 慈眼寺

一 高拾五石貳斗四升六勺貳才

曹洞宗伊集院妙円寺末寺塔司 芳真軒

一 開山妙円寺十五世昌庵祐繁和尚、慶長十五年庚戌十一月創立

一 実窓芳真大姉 家久公御母、慶長十二丁未二月朔 御牌御安置御廟所有  
日御逝去、宰相様と申候

一 義弘公御影御安置、京都大仏師光巖作

一 高七拾五石

曹洞宗鹿兒島郡吉田津友寺末寺

一 貫明様御靈骨御奉納并御牌御立有之候 国分 徳持庵

一 御仏餉米式石  
曹洞宗出水龍光寺末寺

一 太平山

出水 大通寺

一 義虎位牌所

一 施餓鬼料米式石

曹洞宗大口成就寺末寺

一 小苗代山

大口 永福寺

一 開山并開基之年月不相知候、中興開山法道伝和尚

一 藥師如来ハ伝教大師之作ニ而往古より一國一仏と称候、依之 道忍  
公文永元年甲子二月八日田地御寄進被成、且又源直冬貞和六年正月

七日藥師田地寄進有之候処、天正年中毀破之節被召上候

曹洞宗清水楞嚴寺末寺

一 門通山

園分 園分寺

一 開山行基菩薩之由、其後代春と申僧中興、年月不相知候、今ハ越前

宅良慈眼寺末寺、天眞派楞嚴寺末寺ニ而御座候

一 聖武帝之 勅願ニ而日本國裏一國一ヶ寺 御建立之中ニ而御座候

曹洞宗福昌寺末寺

一 洗心山

穆佐 悟性寺

一 開山龍慶和尚、開基年月不詳

一 義天存忠六禪定門久豊公御牌以前より被成御座候、御石塔も悟性寺

境内<sup>ナ</sup>有之候段申伝之場所有之候得共、穿而不相知候処、安永三、甲

午年右場所ニ而骸骨掘出候付、右之所<sup>ナ</sup>相埋ミ石碑被相建、御牌を

も御調替、屹と御安置有之、御仏餉米として御米三石ツ、御物方よ

り年々被下候旨、同六年丁酉五月被仰渡候、寺高相込都合六石ニ而

御座候

一 高三石

一 虎岳山

園分 円菴院

一 蓮昌妙守庵主

慶長八年癸卯十一月十二日、御卒去、義  
久公御嫡女薩州義虎室御平様と申候

御牌所 龍伯公御建被成候

真言宗厚地花尾権現別当職当分大乘院兼帯

一 花尾山 郡山着座門首 平等王院

一 開山永金阿闍梨建保六年開基

一 花尾山御建立之時、三拾六坊を御建、本寺を平等王院と被号、御本

尊ハ從 頼朝公 忠久公<sup>ニ</sup>御附屬之御家御相伝谷渡五指量榮染明王

弘法大師作御安置候處、勝久公御代致廢壞、本尊之儀ハ鹿兒島護摩

所<sup>ニ</sup>御安置、毎年六月朔日於 御城開帳御祈禱有之候

一 丹後御局御牌御安置有之候得共、勝久公之御時、寺院破壞ニおよひ

御牌杯も紛失仕候哉、御局之御法名相知不申候

御石塔・御茶毗所有之候、市来金鐘寺<sup>五</sup> 從古代御局之御牌有之、御

法名桃源妙悟大師、嘉祿三年丁亥十二月十二日 御逝去と書記有之

候由、金鐘寺由緒帳ニ相見得候

一 三拾六坊之内円融院一ヶ寺之寺跡為有之由候

貴久公御治世ニ罷成 神廟ハ御修復候得共、寺院御再興不相調候、

弘治二年伊集院室柱巖寺を鹿兒島ニ御移被改大乘院、厚地村被成御

寄附、神廟を擁護御させ恒例之御祭于今御座候、前中村綱貴公花尾

山<sup>ニ</sup>平等王院并脇坊本地院・円融院・多聞院・普賢院此五院御再興

可被遊旨、元祿十七甲申二月被 仰出置候、依之宝永五年之春 吉貴

公平等王院一字御再興被成、大乘院兼帯ニ而佐多豊前久遠より被差

上候愛染明王 弘法大師作、毎年六月朔日、於平等 一 鉢平等王院<sup>ナ</sup>御安

置、同年六月本地院御再興、同六年二月曼荼羅寺 前号円 御再興、同

年十一月普賢院御再興、享保八年卯四月多聞院御再興、一ヶ寺高式

拾五石宛御寄附被成候

一 高式拾石

淨土宗鎮西派京都智恩院末寺

一 養泉山 無量寺 鹿兒島着座門首 不断光院

一 開山清譽上人、永祿五壬戌年開基  
一 忠良公 貴久公 義久公御相談之上、為被遊御建立寺ニ而御座候

一 実窓芳真大姉 久保公 家久公御母堂慶長十二年丁未二月朔日、御卒去、義弘公御夫人宰相様と申候、広瀬某女実園田清右衛門女

御牌御建被成候、本堂之阿弥陀ハ、家久公之御意ニ而大姉之為御影御造立被遊候由ニ而仏鉢之内御証書有之由候

一 將軍家宣公之御父 清陽院殿 甲府宰相從三位 左馬頭綱重公延宝六戊午九月十四日贈正一位大相國 御牌殿

吉貴公御建立被遊、正徳二年辰九月十四日御牌御安置、文化十四丑年 重豪公思召を以御再建被 仰付候

一 重豪公御寿像文政九戌年御安置  
一 高式百石  
一 浄土宗鎮西派不断光院末寺

鹿兒島 称名院

時衆宗相州藤沢山清浄光寺末寺

一 松峯山 無量寿院 鹿兒島着座門首 浄光明寺

一 開山宣阿説誠和尚、文治年中創立

一 忠久公 御元祖御法名得仏道阿弥陀仏、嘉禄三年丁亥六月十八日、御逝去

一 御尊像從 吉貴公享保八癸卯六月 御安置

一 忠時公 二代御法名道仏仁阿弥陀仏文永九年壬申四月十日、御逝去

一 久経公 三代御法名道忍義阿弥陀仏弘安七年甲申閏四月廿一日、御逝去

一 忠宗公 四代御法名道義仲阿弥陀仏正中二年乙丑十一月十二日、御逝去

一 貞久公 五代御法名道鑑道阿弥陀仏貞治二年癸卯七月三日、御逝去

右御五代之御牌寺ニ而御座候

一 貞嶽院殿元光明一房 忠久公御夫人畠山次郎重忠第六女、十一月朔日、御逝去

一 得台院殿忍西生一房 忠時公御夫人伊達判官入道念性妹、正月廿三日、御逝去

一 浄温院殿妙智神一房 久経公御夫人相馬小次郎左衛門尉胤綱第三女、八月廿二日、御逝去

一 理玄院殿惠照見一房 忠宗公御夫人、三池奎助入道道智女、四月十日、御逝去

一 梅林院殿法麗聞一房 貞久公御夫人、大友因幡守親時入道道徳女、七月九日、御逝去

一 右御五代之 御夫人御逝去年、并御法名不相知、御牌無御座候処、享保十一年午十一月浄光明寺寂翁依願御法名致追号 御牌奉安置候、同十二年未八月又、寂翁より御忌日之御回忌分而難仕 神勅之御闋、宗門之法式を以御月日相究申出、弥御隨之通御月日 御牌ニ記置、自今御廻向仕候様被 仰渡候

一 吉貴公 浄国院殿鑑阿天清道黒大居士、延享四丁卯十月十日、御逝去、御仏餉高百五拾石

一 吉貴公御牌并御廟所浄光明寺被 召建候儀ハ、御家御元祖様御五代御位牌被成御座事候得ハ、到後年御寺之為を被為 思召為被 召建事ニ候

一 玉泉院殿澄玄心光大童女 吉貴公御女、享保十一丙午五月三日、御天亡

一 瑞仙院殿松嶽貞高太姉 繼豊公前御夫人、松平長門守吉元女、享保十二丁未三月廿日、御逝去、御仏餉料米三石銀五枚

一 月桂院殿心一献珠太姉 繼豊公御実母名越右膳恒被妹、延享元年甲子七月三日、御逝去、御仏餉料高式拾五石

一 右御四靈御牌并御廟所浄光明寺 慈光院殿仏心惠証太姉御牌所浄光明寺 御廟所江戸大門寺

一 享和元年辛酉十月晦日御卒去、重豪公御妾 大樹家首公御簾中 茂姫様御母堂市田喜内貞行女 御仏餉料米三石銀五枚

一 浄光明寺ハ、御五代之御牌所ニ而弘安七年 忠時公十三年之忌景ニ当り 久経公御建立被成候、御廟所ハ本立寺ニ而御座候

一 遊行五十世扶存上人、享保十七子十一月御領内巡行之節、浄光明寺二十世券門 寺格永足下転位日本國中於時衆宗門三四ヶ寺之内之由候

一 高四百四石六斗六升式合四勺九才

一 時衆宗浄光明寺末寺

一 清水山 五道院

一 開山不知中興開山覚阿智海和尚 鹿兒島 本立寺

得仏様

道仏様

道忍様

道義様

道鑑様

右 御五代之御廟所ニ而御座候、御法名御逝去之年月浄光明之場ニ有之、此寺初ハ 御道号之上字を取、五道院と号、院号迄ニ而候処光久公より君子務本、本立而道生と有之故、本立之両字を以寺号を御付被遊、夫より本立寺と唱申候

時衆宗浄光明寺末寺塔司

海蔵院

時衆宗浄光明寺末寺塔司

江月院

時衆宗相州藤沢山末寺

護信院

吉水山 称名院

曾原郡 念仏寺

一 高三拾石

時衆宗相州藤沢山末寺

志布志 海德寺

一 高式石三斗四升三合五勺

時衆宗相州藤沢山末寺

國分 常念寺

一 仏光山

時衆宗相州藤沢山末寺

伊集院 龍泉寺

一 竹林山

時衆宗相州藤沢山末寺

一 白龜山 安養院

加世田 淨福寺

一 応永元甲戌年遊行十二世尊觀法親王開基

一 寬庭芳宥大姉 貴久公御母黨、永祿六癸亥十一月九日、御卒去、鳥津薩摩守重久女 御位牌所として 日

新公御建立被遊候、伊集院梅岳寺、御牌・御石塔御座候

一 高七斗

時衆宗相州藤沢山末寺

一 法昌山 福寿院 限之城 称名寺

一 曆応三年庚辰正月遊行七世陀阿上人開基

一 宗久公 貞久公之御嫡子、曆応三年庚辰正月廿四日、御早世、御法名久阿弥陀仏

一 師久公 永和二年丙辰三月廿一日、御逝去、御法名定山道貞大禪定門

右御牌所ニ而 宗久公之御石塔御茶毗所有之候

一 師久公御石塔

一 重豪公 思召を以御再建被 仰出、文化十一年甲戌年十月御成就

一 高三石

時衆宗相州藤沢山末寺

一 大法山 口称院 大口 専念寺

時衆宗相州藤沢山末寺

一 弥勒山 宝泉院 末吉 光福寺

時衆宗相州藤沢山末寺

一 現王山 正覚院 本城 大林寺

時衆宗相州藤沢山末寺

一 海宝山 清水院 泊 法光寺

一 高三斗

時衆宗相州藤沢山末寺

一 法水山 梅窓院 伊作 西福寺

一 開山覚阿三念、大永六丙戌年開基

一 梅窓妙芳大姉 日新公御母黨、大永五年乙酉十月十日、御卒去、新納駿河守是久女

御牌・御石塔御座候

一 高三拾石三斗

一 高三拾石三斗

時衆宗相州藤沢山末寺

一 大河内山 西方院 谷山 妙榮寺

時衆宗相州藤沢山末寺

一行法山 一心院 出水 專修寺

一 開山其阿上人、永正七年創建

一 正親町院勅願所

一 高卷石九斗四升七合九勺三才

真言宗広沢方京都仁和寺末寺

一 如意珠山 龍巖寺 坊津着座門首 一乘院

一 右寺八百濟国之沙門日羅之創建、年月不知候

中興成門上人

一 後奈良帝勅願所ニ而 宸翰之 勅額を下賜り、西海金剛峯寺と被号候

一 御室御所院家摩尼珠院兼帶

一 清和天皇勅書 一乘院六代頼政法印、独座堂上、忽然と而一僧手小束子來而謂曰、斯是眞一乘院書也、政曰公誰 黙而不知所去、緇之則以大法師空海贈法印大和尚勅書

一 近衛信輔公自ラ般若心經并唯識三十頌を書而御寄附、且復 天満天神之像一軀を自刻而鎮護之神に御崇候

一 高式百七拾石式斗六升三合六勺八才

真言宗坊津一乘院末寺

一 開闢山 普門寺 瓢蛙 瑞応院

一 開山智通僧正、白雉三千子年開基

一 開闢宮別当職

一 高式百六石

真言宗坊津一乘院末寺

一 金峯山 觀音寺 田布施 金藏院

一 開山日羅、推古天皇之御宇創建

一 金峯山別当職

一 本尊日羅之作、弥勒菩薩之石像ニ而候

一 高百貳拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 千台山 真乘院 鹿兒島 大興寺

一 開山頼政僧都、永正五年辰六月創建

一 將軍 義教公御舍弟嵯峨大覚寺御門跡 義昭大僧正御隠謀致露頭候付、日州福島<sup>五</sup>落下、忍御座候段、將軍家<sup>江</sup>相聞得、忠国公<sup>五</sup>御下

知有之、福島於永徳寺、僧正御切腹ニ而候、其後 忠治公為御菩提所、右寺御建立ニ而僧正之御牌御立被成候、僧正之坊官別垂讀岐坊

宥善殉死仕、彼牌も有之候

一 大覚寺殿御仏餉料、琉米拾五石

一 右同為御法事料、三月十三日、七月十三日米四石兩度相渡候

一 高三拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 摩尼山 五大院 高山 高崇寺

一 高拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 龍溪山 神照寺 鹿兒島 智恵光院

一 高七拾石

真言宗坊津一乘院末寺

一 水精山 華藏院 阿多 上宮寺

一 高式石五斗

真言宗坊津一乘院末寺

一 明星山 淨運院 加世田 杉本寺

一 開山法印広範、開基年月不詳

一 忠国公 文明二庚寅正月廿日、御逝去 御廟所六角堂、御牌所福昌寺内深固御法名大岳玄眷

一 天治宗武州東叡山寛永寺門頓院末寺法曼派国分正八幡宮別当

一 鷲峯山 靈鷲山寺 国分宮内 着座門首 弥勒院

一 開山性空上人、開基年月不知、中古廢懷

一 吉貴公依 御志願、享保六丑二月御再興之儀、於武州江府被 仰出

伊集院来迎院惠英<sup>五</sup>住職被仰付、東叡山院室格<sup>ニ</sup>而大僧都 勅許之儀御願且猶父之儀石井宰相行康卿<sup>五</sup>御頼被成候事

一 住持惠英、享保六年丑二月廿四日東叡山御本坊<sup>五</sup>院室并住職之御礼申上、院室大僧都之令旨頂戴、東叡山六世一品公寛親王

一 同年十二月弥勒院寺格着座門首大竜寺之上被仰付候

一 陽和院殿本嶽自勝大姉 寛永八辛卯八月十二日、御逝去、光久公御夫 御位 人、平松中納言時庸卿御女

一 牌弥勒院より御安置仕、御廻向可申上旨享保九辰十二月被仰付候、御牌御願所福昌寺<sup>ニ</sup>而御座候

一 高三百壹石九斗五升三合壹勺貳才

天台宗国分弥勒院末寺

一 慈雲山 安寧寺 鹿兒島 竜洞院

一 高百六拾壹石六斗六升四勺三才

天台宗国分弥勒院末寺

一 竹林山 衆聚院 清水 台明寺

一 高拾三石八斗二升三合三勺三才

天台宗国分弥勒院末寺

一 高牧山 願成院 小根占 安樂寺

天台宗国分弥勒院末寺

一 菩提山 西雲寺 園分 正善院

天台宗国分弥勒院末寺

一 補陀落山 正護寺 弥勒院山中 密常院

天台宗国分弥勒院末寺

一 芳野山 法輪院 鹿兒島 憲英寺

一 高三拾石貳斗七升八勺三才

臨濟宗五山派京都東福寺末寺

一 瑞雲山 鹿兒島着座門首 大龍寺

一 開山文之和尚 慶長七年創建

一 右寺ハ当御城被為移候時、大中公・龍伯公被成御座候地故、寺地被召成 両公之 御名之上之字を御取、被号大龍寺、国分宮内正興寺

文之和尚住職被 仰付候

而公之御牌被成御座候

一 日本国中一派十刹之寺<sup>ニ</sup>而 將軍家公文頂戴

一 御切米三拾石

一 禪宗黄檗派下南源派山州宇治黄檗山万福寺末寺

一 元持山 鹿兒島着座門首 寿国寺

一 開山宇治黄檗山万福寺天光普照国師隱元和尚を勸請、享保十四西五月開基

一 二代南源・三代鉄梅 玄黙本師 為中興 四代千指 玄黙受 業師 右隱元より千指迄勸請住持

一 五代之住持玄黙、江州彦根生縁、同所国昌寺千指之学業弟子、大坂福島妙徳寺鉄梅之伝法弟子

一 山号寺号之儀住持玄黙より元持山寿国寺と願申出、願之通被成御免候、享保十四西八月

一 本寺山城宇治黄檗山万福寺直末寺成、享保十四西五月黄檗山十二世唐僧杲堂和尚代

一 本尊釈迦座像一躰從 縁豊公御寄進、享保十六亥三月

一 大玄院様御牌住持より 御安置仕候様被 仰渡候、享保十四西十月

一 信証院殿寿国綱宗元持大禪尼 綱貴公後御夫人、宝曆六丙子正月晦日、御逝去、江田五兵衛国重女 御肖像

一 御僧形御位牌光嚴堂<sup>五</sup>御安置、御願所寿国寺

一 銀拾五貫目

一 右ハ 信証院様御祠堂銀として御存生之内より寺社方<sup>五</sup>被相渡置、脇方借付相成、右利銀年々寿国寺<sup>五</sup>相渡来申候

一 信解院殿方広浄玄大禪尼 綱貴公御女、予州松山城主松平飛禪守定英夫人、後御離別、明和八辛卯六月八日、御卒去

一 御肖像御位牌双牌堂<sup>五</sup>御安置、御願所寿国寺、御仏餉料銀五枚、米三石ツ、年々御物方より相渡候

一 顯徳院殿順誉和光慈観大居士 信解院様御子、予州松山城主松平隠岐守定禱、宝曆十三癸未三月十九日、御卒去

一 御牌 信解院様 御存生之内双牌堂<sup>五</sup>御安置

御祠堂銀百貫文

右 信解院様より 御寄附

銀壹貫五百目

右 顯徳院様為御法事料 信解院様より明和七寅正月寺社方<sup>五</sup> 被差

出置、右之利足を以御法事執行被 仰付候

一 蓮亭院殿香鑪玉容大姉 齊宣公後御夫人、丹羽加賀守長貴女 御廟所江戸瑞

聖寺 御牌所寿国寺 文化十二年乙亥六月廿三日、御逝去

一 右寺ハ御領国<sup>五</sup> 綱貴公黄檗宗門御取建之 御志を被為継、信証院

様より 吉貴公<sup>五</sup> 被 仰進訳有之、雖為 御隠居、為 御名代真言

宗大乘院末寺西田了性寺末院廢寺地藏院を被成御再興、寺格之儀ハ  
着座無之門首出水幸善寺同格之門首被仰付、寺高四百八拾石被召付  
候、享保十四酉年より元文元辰秋之間、寺家并光嚴堂天王堂惣門迄  
成就、文化十二年亥八月 重蒙公 思召を以着座門首被仰付候

一 高四百八拾石

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

一 秘山

密教院

志布志門首

宝満寺

一 開山英基和尚、正和五年開基

一 花園帝之 勅願所

一 如意輪觀音ハ運慶作、元応二年南都西大寺より為奉降臨、殊勝之靈  
仏、且又仏舍利ハ曆応三年左兵衛督源朝臣直義奉 院宣於扶桑一國  
一 基之塔婆を建安置之、其一ニ而御座候

一 御讓位付 院參可仕旨申来、寛延元成辰七月宝満寺二十世住持円秀

上京仕、奉拜 龍顔候、且又寛延三年午四月 仙洞様 御院号  
崩御之 桜町院

節、御焼香之儀申来、翌四年末六月円秀上京仕、於泉涌寺献経御焼

香仕候、禁裏<sup>五</sup> 御目見仕候儀無御座候

一 高四拾五石三斗六升八合三勺三才

天台宗武州東叡山寛永寺門頓院末寺穴太派

一 霧島山

花林寺

錫杖院

高原門首

神徳院

右日天台宗一寺

一 性空上人開基以來十八世迄天台之別院として無本寺ニ而候処、寛文

五乙巳年 將軍家綱公台嶺之御門首ニ被仰違、諸山之台徒本末を定

諸寺之法派與旨を御極候、仍同年八月東叡山御門跡輪王寺宮一品親

王尊敬之直末ニ被属候

一 高百六拾四石八斗六升七合七勺一才

天台宗近江比叡山延暦寺止観院末寺穴太派

一 龜翁山

西性院

野田門首

山内寺

右薩州天台宗一寺

一 兩寺寛文五年神徳院より山内寺を末寺と書出候付而其以後山内寺よ

り由緒古跡之訳を以、段々申出趣有之、達 貴聞候処、山内寺ハ有

由緒古跡候間、神徳院末寺とハ難申儀候條、御領内ニ而神徳院ハ日

州之一寺、山内寺ハ薩州之一山、被仰付、兩寺別立候様有之度旨、

上野明王院<sup>五</sup> 被仰聞、兩執当覚王院仏頂院<sup>五</sup> 右之趣相違候処、思召

之通兩國之一寺御極可被成旨兩執当より被申候由明王院より被申遣

候故、兩國天台宗之一寺ニ元禄四年被仰付候

一 開山性空上人、康保年間創立

一 御元祖忠久公御入国之時、此寺を御祈願所ニ被成候、住職世々叡山

之免状を賜而僧官昇進有之候

一 野田若宮別当 御神像并社頭御造立付、山内寺を別  
当寺ニ被仰付候、文政八酉八月

一 高式石

真言宗

一 護国山 大薬寺

鹿兒島門首

安養院

一 右寺初号東福寺 開山并開基年月不詳候

一 陸奥守氏久公信州諏訪大明神を鹿府ニ 御勸請候而崇社と被成候、

此時此寺を御修造ニ而鑿阿和尚を為中興開山、別当職ニ被補、大薬

寺安養院と被号候ハ貞和年間ニ而御座候

一 正一位諏訪別当職

一 高百九拾九石九斗九升七合四勺九才

一 右院大乘院末寺ニ而候処、古来より之御寺ニ而諏訪社別当職をも相



勤候記を以、文政八年酉十一月門首寺領山内寺次ニ被仰付候  
真言宗安養院末寺

一 鳳凰山 遍照院 市来 大日寺

一 高三拾九石壹升四勺壹才

一 右寺大乘院末寺ニ而候処、安養院門首被仰付候付、文政九年戌正月  
安養院末寺被仰付候

臨濟宗五山派京都建仁寺末寺

一 靈鷲山 園分宮内門首 正興寺

一 開山門応禪師、永仁年中創建十刹之寺ニ而 將軍家代、公文御座候  
一 正八幡宮御本地三ヶ所之内本地釈迦如来

臨濟宗園分宮内正興寺末寺

一 雲長山 大村 大応寺

一 高六石

臨濟宗関山派京都妙心寺末寺

一 龍興山 志布志門首 大慈寺

一 開山勅謚仏智大通禪師

一 右寺ハ 光明院依 勅願、曆応三年御建立、仏惠之二字を賜、大慈  
仏惠禪師と号候旨申伝候

一 高五百八拾壹石七斗五升五合壹才

臨濟宗関山派志布志大慈寺内

即心院

一 開山剛中和尚創立年間不詳候

一 氏久公 齡岳玄久大禪定門、嘉慶元年丁卯閏五月四日、御逝去 御牌所

一 敬外欽公大姉 氏久公御逝去年月不相知候 伊集院長門忠國女

御石塔有之候、御仏餉米八石

一 大始良龍翔寺ニモ 氏久公御夫婦并御姫溪月宗江大姉御石塔有之候  
、氏久公御靈骨奉納置候、溪月宗江大姉尼ニ御成候而龍翔寺御住職

為被成由候、京都東福寺内即宗院ニモ 氏久公御牌 御安置、右即

宗院ハ御当家より御建立共、又は即心院開山剛中自分之遺當共、不  
詳候、剛中ハ 氏久公御婦依僧之由候

一 高拾五石

臨濟宗志布志大慈寺末寺

大始良 龍翔寺

一 高壹石

一 御仏餉米三石

一 文政七年申閏八月 齡岳様・其外様御取建被仰付候処、別而貧寺ニ  
而掃除方等も不行届趣ニ而被召付置候寺高井御仏餉米、外ニ御切米  
三石六斗被召付置候旨、被仰渡候

臨濟宗志布志大慈寺末寺

高山 昌林寺

一 高拾貳石

臨濟宗五山派京都瑞雲山太平興國南禪寺末寺

当分大龍寺兼帶

一 泰定山 伊集院門首 広濟寺

一 開山蒙山智周和尚、日本申刹之一ツニ而候、開基之年月不詳候、二  
代南仲和尚開基ニ而蒙山ハ勸請開山之由候

一 高貳百三拾三石壹斗壹升七合七勺壹才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 東光山 坊泊 海卯寺

一 開山光叟和尚、延文二丁酉年創建

一 忠国公 大岳 御牌御立被成候 玄蒼

一 高拾石八升三合三勺三才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 高貳石

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 仏母山 伊作 多宝寺

一 開山益堂和尚、開基年月不相知候

一 越山道超大禪定門 明應三年寅七月十八日、御卒去、日新公御美父、伊作又四郎善久主 御牌并御石塔、其外

伊作家代々之 御牌被成御座候

一 椿窓妙英大師 天正十一年癸未閏正月十五日、御卒去、日新公御女 御牌被成御座候、加治

木椿窓寺も御牌所二而御座候

一 高式拾八石八斗四升五合八勺四才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 海雲山

山川 正龍寺

一 開山虎森和尚、為人唐薩州下着、此時 陸奥守元久公此寺を御創建

二而虎森住職有之候、開基年月不相知候

一 高三拾七石六斗六升九勺六才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 瑞香山

阿久根 蓮華寺

一 開山高標和尚、応永五年草創

一 中興開山南溪和尚 將軍義輝公之公帖を賜、從是相統而 將軍家之

公文を賜、雖然致断絶候、準佳例其以後 御当家之公文を賜而住職

相勤候

一 高式石式斗七升八勺四才

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 清月山

坊津 広大寺

一 高四石

臨濟宗五山派伊作多宝寺末寺

一 青峯山

伊作 天徳寺

一 開山夷松玄昌和尚、建保元年八月造建

一 伊作氏忠親主下野守及伊作家代々御菩提所二而候、御石塔有之候、

代々之御牌雖有之、度々火災二而今ハ無御座候

臨濟宗五山派伊集院広濟寺末寺

一 太平山

中郷 安國寺

一 開山淨妙通叟和尚、曆応二年創建

一 右寺ハ 將軍尊氏公御願二而一國一ヶ寺御建立之中薩州之内一寺二而御座候

一 高壹石

臨濟宗京都妙心寺末寺

一 太平山

加治木 安國寺

一 開山嵩山大本禪師、康永年中創建

一 右寺ハ 將軍尊氏公御願二而一國一ヶ寺御建立之内隅州之一寺二而御座候

臨濟宗五山派京都東福寺末寺

一 鎮国山

野田門首 感応寺

一 建久年中本田石見守親常草創

一 開山千光國師

一 忠久公 忠時公 久経公 忠宗公 貞久公御五代之御石塔御座候

一 得仏大禪定門 嘉祿三年丁亥六月十八日

一 道仏大禪定門 文永九年壬申四月十日

一 道忍大禪定門 弘安七年甲申閏四月廿一日

一 道義大禪定門 正中二年乙丑十一月十一日

一 道鑑大禪定門 貞治二年癸卯七月三日

一 右文化十年酉十月 重豪公 思召を以御位牌殿御造次 御五代様御

位牌御安置被仰出、御成就有之、翌戌十月廿八日右之通御安置

一 忠宗公 貞久公

一 右御牌被成御座候処、右之通被相改、御安置有之候

一 御元祖忠久公初而御入国之時野田之内ニ 御着船被遊候而暫野田之

木牟礼之城ニ被成御座、鹿兒島<sup>島</sup> 御在城被遊候而も掛而木牟礼

御在城之由候、夫故 御石塔御座候哉、感応寺ハ御下向前本田氏龍

下、建立為仕寺ニ而大伽藍之由申伝候

一 高式石

法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺

一 本長山

鹿兒島門首 正建寺

一 開山蓮信院日尚、慶長年中開基

一 華鮮院殿妙尊大姉 綱久公御母堂曹源院様御母堂

一 兩足院殿妙覺大姉 妙尊大姉母堂

一 右兩牌明曆三酉年十一月從 曹源院様御安置御寄附高有之候処、當時ハ右高御代官支配ニ而納米御代官より申請事御座候

一 常照院様 綱貴公前御夫人、松平左衛門督信平御母堂  
寛文十三年丑正月五日、御逝去

一 月桂院様 繼豊公御実母、延享元年子七月三日  
御逝去

一 心空院様 上杉家  
御女

右之通 御位牌被成御座候

一 正建寺触下

一 一乘山

鹿兒島 妙頭寺

一 高百石

今和泉 日潤寺

真言宗京都智積院末寺出水加志久利別当

一 加志久利山 惣持院

出水門首 幸善寺

一 開山京都智積院僧正快存、為中興二代鹿兒島安養院有敵、享保六丑年御再興

一 幸善寺ハ栗野<sup>五</sup>有之候廢寺ニ而元來鹿兒島大乘院末寺ニ而候処、享保六丑年從 吉貴公御再興ニ而智積院直末寺ニ被成候

一 高式百五拾八石五斗八升六合七勺壹才  
内六拾石ハ加志久利神領

真言宗幸善寺末寺

一 宝池山 無量寿院

出水 成願寺

一 高三拾壹石八斗七升三合九勺六才

一 禪宗黃檗派下木庵派山州宇治黃檗山末寺

一 万徳山

鹿兒島門首 千眼寺

一 文化二年丑九月依願大幻<sup>五</sup>再興被仰付候

一 重豪公御寿像文化三年寅四月七日御安置被遊候

一 金三百兩

右 御隠居料之内より 重豪公御寄附

一 同五拾兩

右為修甫料右同断 御寄附

一 千条山を万徳山と号依願被仰付候、文化二年丑二月

一 高三百石

一 右寺ハ寿国寺末寺ニ而候処、文化二年乙丑十一月黃檗山直末ニ相成、文化三年寅三月寺格御目見寺被仰付、文化四年卯十一月於虎之間、寺社奉行申渡之寺格被仰付、又々文化十二年亥八月 重豪公 思召を以門首寺被仰付候

一 豊国山

千眼寺門中 西田寺

一 右弥勒院末寺ニ而候処、文化四年卯十一月 思召を以改宗被仰付、

一 千眼寺末寺被仰付候

一 天寿山

右同 延命院

一 右大乘院末寺ニ而候処、文化四年卯十一月右同断末寺被仰付候

一 右同

了性寺

一 右廢破寺ニ而候処、文化十三年右同断被 仰付候

一 法華宗富士門派房州妙本寺末寺

一 松尾山

高岡門首 本永寺

一 開山日蓮上人弟子日周上人

一 右寺ハ日蓮上人文応元庚申年身延山ニ寺家建立時、法華富士門徒之本寺脇之惣門ハ学頭職政所と被定置候、其後富士山ニ本寺を被立置時、学頭も右同前被立置候、其時之住持大少輔阿闍梨日堅、其後上総國長狭右学頭を被引直候時、中興開山日朝上人ニ而候、其比西國方之末寺本寺遠國故、諸事不自由付、為押仕置、本寺代として右日朝上人被差下候付、学頭之靈仏本尊諸遺物等被笈下、建武年中佐土原因師山に学頭建立ニ而長享二年都於郡城下池之尾ニ被立置、夫より又天文二年之比、日泉上人代ニ内山ニ被引直候、於此所寺家炎上ニ而諸文書学頭之遺物等悉燒失候、其後高岡之内浦之名<sup>五</sup>相立候、身延山学頭建初之時被定置候役故、東西諸國法華富士門徒之諸寺本

永寺より支配担任例法ニ而只今迄勤来候

一 御切米拾石寺統料として年々相渡候

法華宗京都本能寺撰州尼ヶ崎本興寺末寺

一 鷲釜山 勸持院 園分門首 遠寿寺

一 開山権大僧都日実法印、永禄三庚申年開基

一 龍伯様御牌

一 持明様御牌

一 円信院殿実溪妙蓮大師 元龜三年壬申十二月廿三日、御逝去、御牌・御種子島左近將監時莞女、義久公御夫人

石塔、御仏餉米八石

浄土宗京都智恩院末寺

一 如意珠山 帖佐門首 願成寺

一 開山運眷上人

一 文禄四末十月 惟新公栗野より帖佐 御移之節、只今之寺地ニ朝鮮御出陣為御祈願、阿弥陀堂御建立可被遊旨被 仰出置、朝鮮より御

帰朝ニ而御建立

一 惟新公御牌本堂<sup>五</sup>被遊御座候

一 芳真様御牌客殿<sup>五</sup>御安置

一 千鉢阿弥陀仏之内式鉢 惟新様御自作、五拾六鉢ハ島津兵庫入道女并宰相と御書付有之、残ハ朝鮮御供之衆其外志有之寄進ニ而裏ニ銘

々施主之仮名書付有之

一 高三拾石

律宗南都秋篠山宝塔院西大寺末寺

一 梅靈山 無量寿院 園分宮内門首 正国寺

一 開山円秀和尚、元徳年中創建

一 正八幡宮御本地所三ヶ所之内本阿弥陀如来

浄土宗京都智恩院末寺

一 松月山 靈鷲山 加治木 本誓寺

一 開山運眷上人、慶長二年開基

一 右運督事筑後國善道寺住職ニ而罷在、天正十二年龍造寺隆信没落之

後、彼国之僧俗諸方<sup>五</sup>致退散候、其時分新納旅庵事、出家ニ而肥後

國八代庄嚴寺住持ニ而御座候、右運督旅庵<sup>五</sup>心易候付、庄嚴寺<sup>五</sup>參

旅庵許状を取、薩州<sup>五</sup>罷下、泊法光寺<sup>五</sup>罷居、翌十三年如肥州、罷

掃候処、肥後國最早属 御家候而運督事、甲斐宗運館ニ而始而 惟

新様<sup>五</sup> 御目見仕候、然処肥後之内合志之郡、住吉光明寺を被下候、

此寺智恩院末寺之由御座候、天正十五年関白秀吉公肥後隈元<sup>五</sup> 御

動座之内、運督重而薩州<sup>五</sup>向仕、不断光院<sup>五</sup>罷居、翌十六年飯野

<sup>五</sup>參上仕、新納旅庵御取次を以、寺地之願申上候処、御免被仰付、

帖佐願成寺開基仕、慶長元年不断光院<sup>五</sup>入院、其翌年加治木本誓寺

開基仕、右外ニも寺地之願段ニ申上候由

一 義弘公 御牌并御影像御建被遊御座候

右之由緒を以元文二年巳九月 御目見寺ニ被仰付候

一 高拾四石五升

天台宗本山派山伏飯隈山別当職薩隅日袈袈頭

一 飯隈山 飯福寺 大崎門首 照信院

一 開山覚進上人弘安三年叡山より来而新熊野権現を建立候由、其後歴

数代妻帯、朝元別当職相統ニ而日本國中本山式拾八人之先達衆往古

より 勅住ニ而御座候、朝元別当職之年間不相知候

一 高四百七拾壹石三斗九升三合七勺五才

本山派山伏大崎飯隈山坊中 大崎 仲之坊

一 高百壹石壹斗四合壹勺七才

本山派山伏大崎飯隈山末寺瀬戸尾権現別当

一 新熊山 三藏院 吉松 内小野寺

真言宗当山派山伏薩隅日袈袈頭

一 雲海山 宝泉坊 門首 般若院

鹿兒島諏訪大宮司 本 田 幡 磨 守

鹿兒島福ヶ迫諏訪神主 井 上 長 次 郎

郡山花尾山神主

井上 志摩守

右長次郎亡曾祖父左膳并志摩守亡父駿河守事、天明七年未八月神主職被仰付、家順ハ諷訪大宮司ハ官有無之無差別兩家上ニ被仰付、福ケ追諷訪神主・花尾山神主家順右之通被仰付、座順ハ時々之可為官順旨被 仰渡候

水引新田八幡宮執印職

執印 吉太

〔朱〕

御代、御忌日

御元祖

一 忠久公

嘉祿三年丁亥六月十八日

御逝去

二代

一 忠時公

文永九年壬申四月十日

御逝去

三代

一 久経公

弘安七年甲申閏四月廿一日

御逝去

四代

一 忠宗公

正中二年乙丑十一月十二日

御逝去

五代

一 貞久公

貞治二年癸卯七月三日

御逝去

貞久公御嫡子

一 宗久公

曆応三年庚辰正月廿四日

御早世

六代

一 師久公

永和二年丙辰三月廿一日

御逝去

六代

一 氏久公

嘉慶元年丁卯閏五月四日

御逝去

七代

一 元久公

応永十八年辛卯八月六日

御逝去

八代

一 久豊公

応永三十二年乙巳正月廿一日

御逝去

九代

一 忠国公

文明二年庚寅正月廿日

御逝去

十代

一 立久公

文明六年庚寅四月朔日

御逝去

十一代

一 忠昌公

永正五年戊辰二月十五日

御逝去

十二代

一 忠治公

永正十二年乙亥八月廿五日

御逝去

十三代

一 忠隆公

永正十六年己卯四月四日

御逝去

十四代

一 勝久公

天正元年癸酉十月十五日

御逝去

十五代

一 實久公

元龜二年辛未六月廿三日

御逝去

十六代

一 義久公

慶長十六年辛亥正月廿一日

御逝去

十七代

一 義弘公

元和五年乙未七月廿一日

御逝去

義弘公御嫡子  
一 久保公

文祿二年癸巳九月八日

御早世

十八代  
一家久公

寬永十五年戊寅二月廿三日

御逝去

十九代  
一 光久公

元祿七年甲戌十一月廿九日

御逝去

光久公御嫡子  
一 綱久公

寬文十三年癸丑二月十九日

御逝去

二十代  
一 綱貴公

宝永元年甲申九月十九日

御逝去

二十一代  
一 吉貴公

延享四年丁卯十月十日

御逝去

二十二代  
一 繼豐公

宝曆十年庚辰九月廿日

御逝去

二十三代  
一 宗信公

寬延二年己巳七月十日

御逝去

二十四代  
一 重年公

宝曆五年乙亥六月十六日

御逝去

〔朱〕

御代、御夫人御忌日

忠久公御母堂比企判官能員妹

一 丹後御局

嘉祿三年丁亥十二月十二日

御逝去

御法名不相知

忠久公御夫人畠山次郎重忠第六女

一 貞嶽院殿元光明一房

御忌日 安貞二年戊子十一月朔日

忠時公御夫人伊達判官入道念性妹

一 得台院殿忍西生一房

御忌日 正月廿三日

久経公御夫人相馬小次郎左衛門尉胤綱第三女

一 淨温院殿妙智神一房

御忌日 八月廿二日

忠宗公御夫人三池奎助入道道智女

一 理玄院殿惠照見一房

御忌日 四月十日

貞久公御夫人大友因幡守親時入道道徳女

一 梅林院殿法麗聞一房

御忌日 七月九日

師久公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

氏久公御夫人伊集院長門守忠国女

一 敬外欽公大姉

右 御逝去年間不相知

元久公御夫人伊集院氏娘之由候

一 久山妙栄大姉

応永九年壬午十二月十一日

御逝去

久豊公御夫人伊東大和守祐安女

一 寿山妙久大姉

久豊公後御夫人御父姓名不相知

一 無染了心大姉

忠国公御夫人新納近江忠臣女

一 心華開安大姉

立久公前御夫人御父姓名不相知

一 鏡堂妙円大姉

右 御四靈様 御逝去年間不相知

立久公後御夫人梶原三郎太郎弘純女

一 茂山妙才大姉

文明十七年乙巳十一月十七日

御逝去

忠昌公御夫人大友豊前守政親女

一 天真妙幸大姉

右 御逝去年間不相知

忠治公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

忠隆公

一 御夫人不相知

勝久公

一 御夫人

右 御逝去年間御法名并御父姓名不相知

貴久公御夫人入来院禪正重聰女

一 雪窓妙安大姉

天文十三年甲辰八月十五日

御逝去

義久公御夫人 日新公御女

一 華舜妙香大姉

永祿二年己未十一月十八日

御逝去

義久公後御夫人種子島左近將監時堯女

一 円信院殿美溪妙蓮大姉

元龜三年壬申十二月廿四日

御逝去

家久公御母堂広瀬某女実園田清左衛門女

一 実窓芳真大姉

慶長十二年丁未二月朔日

御逝去

家久公御夫人 光久公御養母 義久公御母

一 持明彭窓庵主

寛永七年庚午十月五日

御逝去

家久公後御夫人 光久公御母堂島津備前忠清女

一 心窓慶安大姉

寛永二年乙丑七月廿二日

御逝去

光久公前御夫人 綱久公御母堂伊勢大隅守貞豊女

一 曹源院殿惠山永泉大姉

万治元年戊戌六月十一日

御逝去

光久公後御夫人平松中納言時庸女

一 陽和院殿本嶽自勝大姉

宝永八年辛卯八月十二日

御逝去

綱久公御夫人松平隱岐守定頼女

一 真修院殿孝延妙栄日長大姉

天和二年壬戌十一月七日

御逝去

綱貴公前御夫人松平左兵衛督信平女

一 常照院殿觀了日脱大姉

寛文十三年癸丑正月五日

御逝去

吉貴公御母堂二階堂十左衛門宣行女

一 蘭室院殿身安貞法大姉

天和三年癸亥二月十九日

御逝去

綱貴公後御夫人江田五兵衛国重女

一 信証院殿寿国総宗元持大禪尼

宝曆六年丙子正月晦日

御逝去

吉貴公御夫人 継豊公御養母松平越中守定重女

一 靈龜院殿潜顕妙能日淵大姉

元文四年己未八月五日

御逝去

継豊公御実母名越右膳恒渡妹

一 月桂院殿心一献珠大姉

延享元年甲子七月三日

御逝去

継豊公前御夫人松平長門守吉元女

一 瑞仙院殿松嶽貞高大姉

享保十二年丁未三月廿日

御逝去

繼豐公後御夫人 大樹綱吉公御養女栗清閑寺大納言濕定卿女

一 淨岸院殿信督清仁祐光大禪定尼

安永元年壬辰十二月五日

御逝去

宗信公御実母渋谷善三左衛門貫臣女

一 妙心院殿実法道徹大禪定尼

天明四年甲辰正月廿三日

御逝去

重年公御実母島津求馬久房女

一 嶺松院殿寒心貞操大姉

天明八年戊申十一月廿日

御逝去

重年公御夫人島津大学久尚女

一 智光院殿心顔貞鏡大姉

宝曆四年甲戌閏二月二日

御逝去

重豪公御実母島津備中實儔女

一 正覚院殿貞範妙雅大姉

延享二年乙丑十一月七日

御逝去

重豪公前姉夫人徳川刑部卿宗尹卿女

一 慈照院殿円応靈珠大姉

明和六年己丑九月廿六日

御逝去

重豪公後御夫人甘露寺大納言規長卿女

一 玉貌院殿華山妙巖大姉

安永四年乙未十月廿六日

御逝去

齊宣公前御夫人佐竹右京大夫義和女

一 芳蓮院殿華蕤清心大姉

寛政八年丙辰六月八日

御逝去

齊宣公御実母堤中納言代長卿女

一 春光院殿心月清涼大姉

文化八年辛未六月十三日

御逝去

齊宣公後御夫人丹羽加賀守長貴女

一 蓮亭院殿香顔玉容大姉

文化十二年乙亥六月廿三日

御逝去

齊興公御夫人松平相摸守齊邦妹

一 賢章院殿玉輪惠光大姉

文政七年甲申八月十六日

御逝去



(原表紙)

薩藩政要錄 二

(共六冊)

(原寸縦二八糎、横二〇・五糎)

(朱) 御目見寺社並山伏之事

附 寺 高 之 事

天台宗

一 大雄山 仏日寺

高五百五石九斗六升四合五勺八才

着座門首鹿兒島

南泉院

高百石

南泉院寺中 觀樹院

高百石

右 同 吉祥院

高百石

南泉院寺中 実相院

高百石

愛宕山 十輪院 小林 円岳寺

一 紫尾山 神興寺

高貳拾八石壹斗六升六合六勺六才

田 田 祁答院

一 清泰山 普慶寺

高貳拾九石九斗九升六合六勺七才

伊集院 来迎院

一 岩劍山 神宮寺

霧島山 金剛院

重 富 円明院 明観寺

高三拾八石四斗五合

一 円覚山 法界寺

高三拾石

華 岡 真如院

右九ヶ寺南泉院門中

天台宗

一 霧島山

華林寺 錫杖院

門首高原

神徳院

高百六拾四石八斗六升七合七勺壹才

天台宗

一 龜翁山 西性院

高貳石

門首野田

山内寺

天台宗

一 鷲峯山 靈鷲山寺

高三百壹石九斗五升三合壹勺貳才

着座門首園分

彌勤院

一 竹林山 衆聚院

高拾參石八斗三升三合三勺三才

清水 台明寺

一 慈雲山 安寧寺

高百六拾壹石六斗六升四勺三才

彌勤院末寺 正善院兼帶 鹿兒島 龍洞院

一 高牧山 顯成院

高百六拾壹石六斗六升四勺三才

小根占 安樂寺

一 菩提山 西雲寺

高百六拾壹石六斗六升四勺三才

園 分 正善院

一 補陀落山 正護寺

高百六拾壹石六斗六升四勺三才

彌勤院山中 密常院

一 芳野山 法輪院

高百六拾壹石六斗六升四勺三才

吉野村 憲英寺

一 如意珠山 龍巖寺

高百七拾石貳斗六升三合六勺八才

一乘院

一 開闢山 普門寺

高百七拾石貳斗六升三合六勺八才

穎 娃 瑞心院

一 千台山 真乘院

高百七拾石

鹿兒島 大興寺

一 摩尼山 五大院

高百七拾石

高山 高崇寺

一 龍溪山 神照寺

高百七拾石

鹿兒島 智恵光院

一 水精山 華藏院

高百七拾石

阿 多 上宮寺

一 金峯山 観音寺

高百貳拾石

田布施 金藏院

真言宗広沢方

右六ヶ寺彌勤院門中

着座門首坊津

一乘院

右六ヶ寺一乘院門中

真言宗

一 華尾山 郡山厚地 平等院

高式拾石

右大乘院兼帶

真言宗小野方 着座門首鹿兒島

一 經團山 宝成就寺 大乘院

高八百七拾五石三斗四升五合四勺九才

一 神応山 金胎寺 鹿兒島 抱真院

高百四拾五石三斗三升四合六才

内

三拾石神明領

一 霧島山 錫杖院 曾於郡 華林寺

高五百四拾四石九斗七合式勺九才

一 如意山 願成就寺 伊作 海蔵院

高五拾九石

一 神護山 觀音寺 鹿兒島 宝持院

高五拾石

飯野趣訪別当寺  
大乘院坊中

延寿院

飯野諏訪領高五拾石格護

一 高五拾石 鹿兒島 潮音院

一 五峯山 竜護院 鹿兒島 柿本寺

一 高五拾三石 國分 金剛寺

一 郡山厚地 多聞院

一 高式拾五石 國分 正高寺

一 宝来山 淨菩提院 加世田 今泉寺

一 雲林山 宝亀院

高式拾七石

一 太岳山 垂護寺 鹿兒島 善聚院

小城権現領高五拾石

一 神照山 鹿兒島 普賢院

高三拾石

一 鹿兒島 永福寺

一 鹿兒島 松本寺

高三拾式石八斗五升七合八才

一 鹿兒島 護國院

一 郡山厚地 普賢院

高式拾五石

一 大勝山 聖御院 大乘院坊中 文珠院

一 高四拾三石 伊集院 莊嚴寺

一 高四拾九石五斗七升式合式勺九才 大乘院坊中 善行院

一 高式拾五石 郡山厚地 本地院

一 春日山 三摩地院 諸県郡高城 東龍寺

一 高九石三斗六升六合 限之城 金剛院

一 觀現山 平嶺石寺 申木野 頂峯院

一 高三拾壹石 鎮国寺 帖佐 增長院

一 冠嶽山 東嶽神領高四拾三石八斗式升八勺 高原 錫杖院

一 平安山 八流寺

一 高式拾七石 霧島山 華林寺

高百拾六石四斗壹升四合五勺七才  
 無量寿山 深川院 末吉 光明寺  
 高貳拾六石  
 神龜山 水引 觀樹院  
 小牧山 法嚴寺 財部 仏往院  
 高拾四石  
 東霧山 金剛仏作寺 諸県郡高城 勅詔院  
 愛宕山 宝幢寺 大乘院坊中 威光院  
 愛宕領高拾五石 鹿兒島 勝軍院  
 宝珠山 威徳院 大乘院坊中 福藏院  
 高拾六石 高岡 高福寺  
 医王山 多樂寺 鹿兒島 宝珠院  
 高五拾石 大乘院坊中 千手院  
 春日神領高拾石 鹿兒島 西寿院  
 医王山 正智院 水引 泰平寺  
 高貳拾壹石八斗 始良 幸田寺  
 摩尼山 千手院 飯野 保寿院  
 高三拾六石 高貳拾七石九斗壹升八合七勺五才  
 稻荷山 西方寺 飯野 保寿院  
 野間山 竜泉寺 加世田 愛染院  
 白鳥山 全剛乘院 飯野 満足寺  
 高百四拾石五斗貳升三合  
 牛王山 密教院 大口 郡山寺  
 高貳拾六石 加久藤 二宮寺  
 馬連山 福性院

高五拾石  
 狗留孫山 多宝院 飯野 端山寺  
 狗留孫領高三拾四石貳斗七升八勺四才  
 密嚴山 丈隆寺 志布志 大性院  
 高六拾五石七斗七升六合四才  
 今和泉 福寿院  
 右四拾九ヶ寺大乘院門中  
 眞言宗 門首鹿兒島  
 一 護国山 大樂寺 安養院  
 高百九拾九石九斗九升七合四勺九才  
 一 鳳凰山 遍照院 市来 大日寺  
 高三拾九石壹升四勺壹才  
 右壹ヶ寺安養院末寺  
 眞言宗 門首出水 幸善寺  
 一加志久利山 惣持院  
 高貳百五拾八石五斗八升六合七勺壹才  
 内六拾石加志久利神領  
 一 宝池山 無量寿院 出水 成願寺  
 高三拾壹石八斗七升三合九勺六才  
 右壹ヶ寺幸善寺門中  
 律宗 門首志布志 宝満寺  
 一 秘山 密教院  
 高四拾五石三斗六升八合三勺三才  
 律宗 門首困分 正国寺  
 一 梅霊山 無量寿院 着座門首鹿兒島  
 臨濟宗五山派 大竜寺  
 一 瑞雲山  
 臨濟宗五山派 門首困分 正興寺  
 一 靈鷲山 大村 大応寺  
 一 雲長山

高六石  
右三ヶ寺正興寺門中

臨濟宗五山派

一 泰定山 門首伊集院 広濟寺

一 瑞雲山 高貳百三拾三石壹斗壹升七合七勺壹才

一 高貳石 伊集院 善福寺

一 仙母山 伊作 多宝寺

一 高貳拾八石八斗四升五合八勺四才

一 海雲山 山川 正龍寺

一 高三拾七石六斗六升九勺六才

一 東光山 坊泊 海印寺

一 高拾石八升三合三勺三才

一 瑞香山 阿久根 蓮華寺

一 高貳石貳斗七升八勺四才

一 清月山 坊津 広大寺

一 青峯山 伊作 天徳寺

一 右七ヶ寺広濟寺門中

一 鎮国山 門首野田 感応寺

一 高貳石 門首野田 感応寺

臨濟宗関山派

一 龍興山 門首志布志 大慈寺

一 高五百八拾壹石七斗五升五合壹才

一 大慈寺山中 即心院

一 高拾五石

一 神護山 高山 昌林寺

一 高拾貳石

一 大始良 龍翔寺

右三ヶ寺大慈寺門中

曹洞宗

着座門首鹿兒島

一 玉龍山 高千三百六拾壹石四斗七升九合壹勺三才 福昌寺

一 法智山 高三百七拾五石 伊集院 妙円寺

一 松原山 鹿兒島 南林寺

一 高四百六石

一 覺照山 鹿兒島 妙谷寺

一 高三百八拾五石五斗貳升五勺三才

一 太平山 鹿兒島 興国寺

一 高貳百石

一 高七拾石 福昌寺内 惠燈院

一 龍護山 加世田 日新寺

一 高四百四石八斗五升六合貳勺四才 内六拾九石六斗八升九合五勺八才常潤院

一 永谷山 谷山 皇徳寺

一 高百石 田布施 常珠寺

一 太平山 市来 龍雲寺

一 法城山 市来 龍雲寺

一 高三拾七石 伊集院 梅岳寺

一 福寿山 伊集院 梅岳寺

一 高七拾五石 志布志 永泰寺

一 新豊山 志布志 永泰寺

一 高拾七石九斗五升貳合壹勺 市来 金鐘寺

一 万年山 市来 金鐘寺

一 高八石 福昌寺会中 深固院

一 高八石 福昌寺会中 深固院

高七石	鹿兒島郡	津友寺
高式拾石	吉田	
西峯山	鹿兒島	隆盛院
高九石式斗壹升四合五勺九才		
文明山	國分	龍昌寺
高三拾三石		
松齡山	加治木	長年寺
高百石八斗三升九合五勺八才		
広海山	鹿兒島	良英寺
高百七拾石		
高三拾石	福昌寺会中	月香院
高三拾石	福昌寺会中	花舜軒
龍護山	帖佐	總禪寺
高三拾式石		
平源山	穎娃	証恩寺
高式拾五石三斗八合三勺		
忠徳山	川辺	宝福寺
高五拾八石六斗式升式合七勺壹才		
永泰山	福山	大安寺
高拾九石七斗五升九合式勺九才		
千秋山	伊集院	雪窓院
高百石		
千手山	阿多	大年寺
高式拾壹石七斗五升		
仏頂山	清水	楞嚴寺
高六石		
太平山	鹿兒島	大徳寺

瑞氣山	伊作	善勝寺
高三拾壹石壹斗		
	鹿兒島南林寺塔司	源舜庵
高三拾石		
安泰山	指宿	源忠寺
高拾式石		
大定山	蒲生	永興寺
高五拾四石七升三合		
龍豊山	川辺	玉泉寺
高七石五斗		
宝蔵山	鹿兒島	笑岳寺
高式拾式石壹合		
久木山	伊集院	破鞋庵
高八斗		
医王山	鹿兒島	薬王寺
高拾五石式斗八合三才		
補陀山	谷山	慈眼寺
高拾五石式斗四升六勺式才		
永谷山	川辺郡	善積寺
高拾三石七斗壹升六合式勺五才		
重宝山	鹿兒島	上山寺
滝水山	帖佐	心岳寺
兜卒山	飯野	長善寺
高式拾石		
高拾八石	飯野	宗江院
如意山	谷山	清泉寺
真金山	高岡	法華嶽寺
高八拾壹石壹斗四升壹合六勺七才		

一 智額山	大口	成就寺
一 高拾石		
一 福城山	栗野	徳元寺
一 高貳拾石		
一 曹溪山	高山	瑞光寺
一 高貳拾石		
一 達磨山	出水	龍光寺
一 高拾石		
一 宝陀山	始良	含粒寺
一 高拾三石		
一 龜城山	飯野	幻生寺
一 高貳拾石		
一 淨土宗		
右五拾ヶ寺福昌寺門中		
一 養泉山 無量寺	門首鹿兒島	不断光院
一 高貳百石		
一 淨土宗		
右老ヶ寺不断光院門中		
一 如意珠山	門首帖佐	願成寺
一 高三拾石		
一 松月山 靈鷲院	加治木	本誓寺
一 高拾四石五升		
一 法華宗		
一本長山	門首鹿兒島	正建寺
一一乘山	鹿兒島	妙頭寺
一 高百石		
一 右武ヶ寺正建寺触下	今和泉	日潤寺
一 法華宗		

一 松尾山	門首高岡	本永寺
一 法華宗		
一 鷲峯山 觀持院	門首園分	遠寿寺
一 時衆宗	着座門首鹿兒島	
一 松峯山 無量寿院		淨光明寺
一 高四百四石六斗六升貳合四勺九才		
一 清水山 五道院	鹿兒島	本立寺
一 竹林山	淨光明寺會中	海藏院
一 高七斗	鹿兒島	護信院
一 福寿山 無量院	伊集院	龍泉寺
一 高貳石三斗四升三合五勺	志布志	海徳寺
一 弥勒山 宝泉院	末吉	光福寺
一 海宝山 清水院	坊泊	法光寺
一 高三斗		
一 法水山 梅窓院	伊作	西福寺
一 白龜山 安養院	加世田	淨福寺
一 高七斗		
一 吉水山 称名院	曾於郡	念仏寺
一 高三拾石		
一 法昌山 福寿院	限之城	称名寺
一 高三石		
一 現王山 正覚院	本城	大林寺
一 仏光山	国分	常念寺
一 大法山 口称院	淨光明寺會中	江月院
一 大河内山 西方院	大口	専念寺
一 右拾六ヶ寺淨光明寺門中	谷山	妙樂寺

禪宗黃檗派  
一元持山 門首鹿兒島 壽國寺

高四百八拾石  
内貳百石寺社方支配

一 大機山 鹿兒島 月船寺

高貳拾石壹斗七升六合八勺七才  
右壹ヶ寺寿國寺触下

禪宗黃檗派  
一 万徳山 門首鹿兒島 千眼寺

高三百石

一 豊園山 鹿兒島 西田寺

一 天寿山 鹿兒島 延命院

右三ヶ寺千眼寺門中

本山派山伏天台宗  
一 飯隈山 飯福寺 門首大崎 照信院

高四百七拾壹石三斗九升三合七勺五才  
大崎飯隈山坊中 仲之坊

一 高百壹石壹斗四合壹勺七才 吉 松 内小野寺

一 新熊山 三藏院 右二ヶ寺照信院門中

当山派山伏真言宗  
一 雲海山 門首鹿兒島 般若院

鹿兒島越訪大官司 本 田 播磨守

高三拾石

鹿兒島福ヶ追趣訪神主 井 上 長次郎

郡山華尾山神主

井上 志摩守  
水引新田八幡宮執印職  
執印 吉 太

神領高貳百五拾石三斗壹升貳合五勺

〔朱〕 長日相勤寺之事

鹿兒島 大乘院 鹿兒島 安養院 鹿兒島 抱真院  
曾於郡 華林寺 飯 野 満足寺 坊 津 一乘院  
田布施 金藏院 穎 娃 瑞心院 出 水 幸善寺

右九ヶ寺毎年相勤候

伊 作 海藏院 鹿兒島 大興寺 鹿兒島 智恵光院

右三ヶ寺四年目相勤候

鹿兒島 勝軍院 大乘院坊中 善聚院 鹿兒島 宝持院  
大乘院坊中 文珠院 鹿兒島 宝珠院 鹿兒島 潮音院  
伊集院 莊嚴寺 高 原 錫杖院 市 来 大日寺  
国 分 金剛寺 鹿兒島 善行院

右拾壹ヶ寺五年目相勤候

大乘院坊中 薬師院 大乘院坊中 延寿院 鹿兒島 護國院  
大乘院坊中 威光院 水 引 泰平寺 志布志 大性院  
串木野 頂峯院 隈之城 金剛院 始 良 幸田寺  
諸県郡高城 東竜寺

右拾ヶ寺六年目相勤候

水 引 観樹院 諸県郡高城 勅詔院 国 分 正高寺  
大 口 郡山寺 末 吉 光明寺 加久藤 二宮寺  
帖 佐 増長院

右七ヶ寺七年目相勤候



鹿兒島 西寿院 鹿兒島 普賢院 飯野 端山寺  
 高岡 高福寺 飯野 保寿院 加世田 今泉寺  
 財部 仏性院 高山 高崇寺 出水 成願寺  
 鹿兒島 千手院 鹿兒島 福藏院  
 右拾壹ヶ寺八年目相勤候  
 合寺数五拾壹ヶ寺  
 右長日寺之内大乘院・華林寺・満足寺・瑞応院・金藏院・安養院・幸善寺  
 抱真院此九ヶ寺、従前、毎年長日番相勤申候、其外ハ正保四丁亥年より  
 連々相増申候

〔朱〕 達 貴聞住職被 仰付寺院之事

附御家老承任職申渡候寺院之事

鹿兒島 南泉院 鹿兒島 福昌寺 郡山 平等王院  
 鹿兒島 大乘院 鹿兒島 浄光明寺 坊津 一乘院  
 国分 弥勒院 鹿兒島 大龍寺 鹿兒島 寿国寺  
 南泉院 代 志布志 宝満寺 高原 神徳院  
 野田 山内寺 国分 正興寺 志布志 大慈寺  
 伊集院 広濟寺 野田 感応寺 鹿兒島 不断光院  
 鹿兒島 正建寺 出水 幸善寺 鹿兒島 千眼寺  
 高岡 本永寺 国分 遠寿寺 帖佐 願成寺  
 国分 正国寺 大崎 飯限山 鹿兒島 般若院  
 鹿兒島 安養院

右住職交替之節ハ達 貴聞、住職之儀於敷舞台、御家老より申渡有之  
 但平等王院住職之儀ハ大乘院兼帶被仰付置候、以後別立而住職被仰付  
 候節ハ右之通申渡有之

伊集院 妙円寺 鹿兒島 南林寺 鹿兒島 妙谷寺  
 鹿兒島 興国寺 福昌寺会中 惠燈院 加世田 日新寺

曾於郡 華林寺 鹿兒島 抱真院 鹿兒島 竜洞院

右住職交替之節ハ達 貴聞、住職之儀於虎之間、寺社奉行より申渡  
 但鹿兒島諏訪神主・水引新田宮執印職之儀も達 貴聞於虎之間、寺社  
 奉行より申渡、

南泉院寺中 実相院 南泉院寺中吉祥院 南泉院寺中 觀樹院  
 谷山 皇徳寺 田布施 常珠寺 市来 竜雲寺  
 伊集院 梅岳寺 志布志 永泰寺 市来 金鐘寺  
 福昌寺会中 深固院 鹿兒島郡 津友寺 鹿兒島 隆盛院  
 国分 竜昌寺 加治木 長年寺 鹿兒島 良英寺  
 福昌寺会中 月香院 伊作 海蔵院 飯野 満足寺  
 鹿兒島 本立寺 顯 娃 瑞応院 鹿兒島 大興寺  
 田布施 金藏院 清水 水台明寺 志布志 即心院  
 坊泊 海印寺 加治木 本誓寺

右住職交替之節ハ御家老承、住職之儀、於虎之間寺社奉行より申渡

御家老承任職之儀於寺社所寺社奉行直申渡寺院之事  
 鹿兒島 妙頸寺 今和泉 日潤寺 伊集院 来迎院  
 小林 円岳寺 都城 明観寺 今和泉 福寿院  
 華岡 真如院 重富 円明院 鶴田 祁答院  
 厚地 本地院 厚地 普賢院 厚地 曼茶羅寺  
 厚地 多聞院 国分 正善院 小根占 安樂寺  
 鹿兒島 西田寺 鹿兒島 延命院 鹿兒島 了性寺

〔朱〕 御元祖以来 御居城之事

出水郡 出水之内山門院  
 一 木牟礼城

右城地文治二年 御元祖忠久公御下向之節より被成御座五代之 太守  
 貞久公迄御居城ニ而候

薩摩郡  
平佐之内天辰村

一 碓山城

右城地、五代 太守貞久公も暫被成御座候趣相見得申候、其後 師久  
公御居城ニ而候

鹿兒島郡  
鹿兒島

一 東福寺城

右城地、曆応四年之時分より 太守貞久公被成御座候、東福寺と申候  
ハ只今之安養院ニ而候

肝属郡

一 大始良城

右城地、六代之 太守氏久公御居城ニ而候

諸県郡

志布志

一 内 城

右城地、氏久公御居城ニ而候

桑原郡

国 分

一 咲隈城

右城地、氏久公御居城之地ニ而候

鹿兒島郡

鹿兒島

一 清水城 或本城

右城地、七代之 太守元久公至徳年間志布志内城より清水城ニ被成御

移 久豊公・忠国公・忠昌公・忠治公・忠隆公・勝久公御在城ニ而候、

貴久公御事も御若年之時暫被成御座候

諸県郡

穆 佐

一 高 城

右城地、八代之 太守久豊公御ニ男之内御在城之地ニ而候

日置郡

一 伊集院城

右城地、十五代之 太守貴久公天文十四年之比暫被成御座候

鹿兒島郡  
鹿兒島

一 本御内

右 貴久公天文十九年伊集院之城より被成御移 義久公・家久公も被

成御座候

諸県郡

一 飯野城

右城地、永祿七年之比 義弘公被成御座候、加久藤之城ニハ 惟新様  
之御前様被成御座、家久公御誕生之地ニ而候

始羅郡  
帖 佐

一 岩剣城

右城地、天文二十三年之比 義弘公被成御座候

桑原郡

一 栗野城

右城地 義弘公天文十七年飯野より被成御移、此御城より朝鮮国ニ被

成 御出陣候

始羅郡

一 帖佐城

右城地文祿四年 義弘公栗野より被成御移、慶長二年再朝鮮国ニ 此御  
城より被成御渡海候

曾於郡  
国分之内浜之市

一 高隈城

右文祿四年 義久公鹿兒島本御内より被成御移候

鹿兒島郡

鹿兒島上之山

一 当御城

右慶長七年 家久公山下ニ御屋敷構ニ而本御内より被成御移、夫より  
御代ニ様被成御座候

响吹郡

國分

一新城

右慶長十年 義久公富隈より被成御移候

始羅郡

一 加治木城

右慶長十二年之冬 義弘公帖佐平松より加治木<sup>五</sup>被成御移候

阿多郡

一 伊作城

右代、伊作家之城地ニ而 日新公・竜伯公・惟新公御誕生之地ニ而候

阿多郡

一 田布施城

右 忠国公之長庶子相模守友久之領地ニ而友久嫡子相模守運久御養子

相模守忠良公被成御座候

河辺郡

一 加世田城

右薩州家領地ニ而候処天文七年以来 日新公御領地罷成右城地之脇御

屋敷構ニ而被成御座候

〔朱〕 御関狩并吉野御牧之事

一 御関狩ハ十六代之

太守義久公御代天正四年近衛前久公御当国<sup>五</sup>御滞在之節御馳走事と相見得、段々ケ条書有之候、右之内春山之御関狩と書記有之候、其節前久公御一覽有之候儀究而相知不申候得共、右通御譜中被召置候得ハ其砌ニも御関狩有之候と相見得申候

一 古老之者共申伝候ハ

御関狩之旧例ハ 頼朝卿御代富士牧狩有之候付、御家之儀も頼朝卿御子孫之儀御座候故、御関狩之儀も御家ニ相残候、尤武備之ならしニ而有之由候、且亦 惟新様・中納言様朝鮮御帰陣之節寺沢志摩守様・宇久<sup>後称</sup>五島大和守様鹿兒島<sup>五</sup>御見廻之節、被召列候人数踊有之候付、右之為御返礼、御家御旧式之御関狩、於桜島御張行有之、

右御兩人<sup>五</sup>御馳走被成候由申伝候、右通古老之者口碑相伝候迄ニ而御関狩起候基之儀ハ相知不申候得共、惟新様・中納言様朝鮮御帰陣之時分も右之通御旧式之御関狩為有之儀御座候得ハ古来より之御旧式と相見得候由先役共書記置申候

右御関狩場所之儀ハ最前吉野ニ而有之、其後伊集院春山又ハ谷山野ニ而為有之由ニ御座候、尤寛陽院様・泰清院様・大玄院様御三殿様共ニ数度被成 御登、琉球王子被召列見物被仰付候儀も為有之由古老之者共申伝候とは是又先役共書記置候

一説ニ古老之者共申伝候ハ御関狩御馬追之儀ハ軍事之習せニ而御関狩ハ御出陣之御作法、御馬追ハ御帰陣之御作法と申伝候得共、古書付等ニ而ハ見当不申候付、此節段々相糺候得共、右之訳相知不申候、依之御包丁人頭方<sup>五</sup>も右御規式之次第承合候処、御関狩ニハ御盛塩御引渡有之、御馬追ニハ御盛塩式御三献之差別有之、右御規式之品を以御出陣御帰陣御三献共相見得不申、尤右通之申伝も無之由承届候、然共從前々右通申伝儀候得ハ、如何様由來有之事ニ而其通申伝候哉と相考申事候

吉野御牧

右川上家仕立召置候牧ニ而候処、慶長年中当川上久馬先祖川上上野久隅代右之牧 家久公<sup>五</sup>被差上、家久公吉野御馬追被遊御登、久隅も參上為仕由ニ候、且亦慶長九年辰壬八月十九日吉野御牧毛付書寄通、伊勢兵部所持之文書相見得申候、右を以ハ慶長年中より吉野御馬追相初候筋ニ相見得申候、吉野御馬追中古ニハ御名代無之、御家老菅人・惣奉行菅人・川上嫡家御目付式人、羽織袴ニ而罷登御規式無之候得共如旧例可被仰付旨宝永三年被 仰出置候、左候而御家老勤方有之候得共若御年寄勤被仰付候旨享保二十年卯八月相究申候、然ハ自古来 御名代并役ニ被差越、御規式為有之と相見得候得共、何年間より相始候儀相知不申候

右御記録奉行より申出候調書を以載置候事

(朱) 十二 御城代相勤候人之事

御城代之儀前代被 仰付置候儀不分明候、黄門様御代俄ニ被遊 御出陣事も候ハ島津豊後守久賀御留守居可被仰付旨、為被仰付置由候、其後寛文六年 光久公御代数年右御役明キ候而御念遣ニ被 思召候由ニ而北郷佐渡守久加江御留守居役被仰付置候、御留守居役ハ今之御城代之由候事

黄門様御代御留守居

豊後守朝久子

島津豊後守久賀

後豊前守

從 光久公御代御城代

加賀守三久子

北郷佐渡守久加

寛永二十癸未年より明暦二丙申年迄御家老

但寛永十六己卯十一月より御旅御家老

寛文六丙午八月より御城代同九年酉二月御免

佐多丹波久利後嗣

正徳元年辛卯九月

久達島津賜 御名字

佐多内記久達

延宝四丙辰十月より御城代

延宝八庚申年より御家老職兼役

但御家老職之所ニも名書記之

元禄十丁丑年御家老職ハ御免

御城代役ハ如本享保三戊七月御免

吉貴公御代迄

從 吉貴公御代御城代

貞享三寅年より御家老享保四年亥十一月より御城代加判

又六久峯後嗣

島津將監久当

御免御家老職如本享保十四

酉八月御役内死去

継豊公御代迄

但御家老職之場ニも名書記之

(朱) 十三 貴久公以来御家老職相勤候人之事

貴久公御代御家老

天文十四年より弘治永録十一年迄廿四年 御家督

伊集院家六代

弾正忠頼久四男

大和守信久大和守

忠公子

日新公御代より 義久公御代迄

伊集院大和守忠朗

入道孤舟

兵部少輔重平嫡子

重秋祖父遠江守

重秀ハ伊作家家老

三原遠江守重秋

入道昌安

越前守武秀男

経定曾祖父肥前守

経安ハ 立久公より

忠昌公迄御家老

村田越前守経定

大和守忠朗入道

孤舟子

伊集院掃部介忠倉

後 大和守

川上家五代上野守

義久公御代迄

兼久三男左近將監  
忠塞信濃守榮久子

川上上野介忠克

入道意鈞

庶流  
越前守兼演入道

以安子兼演ハ

勝久公御家老

肝付彈正忠兼盛

義久公御代迄  
義久公 永祿十一年比より元龜天正十三年迄十八年御家督

御代御家老

義弘公 天正十三年より文祿慶長五年迄十八年御家督

上野介忠克入道

意鈞子

天正二十癸丑年より永祿  
十一戊辰年迄

川上左近將監久朗

永祿九丙寅年之比より慶  
長四己亥年三月迄

伊集院右衛門大夫忠金

喜入家四代撰津介

忠俊子

永祿十二年己巳之比より

喜入式部大輔秀久

美濃守貞宗子昌宗

祖父美濃守兼宗迄四代

相統補御家老職

平田美濃守昌宗

天正三乙亥年之比より

平田左馬助光宗

後 美濃守  
入道舜盛

天正四丙子年之比より

武藏守董兼子諏訪

甚六貨兼曾祖父

天正八庚辰年之比

上井伊勢守寛兼

下野守親尚子本田

天正十壬午年之比より

六左衛門親武曾祖父

本田下野守親貞

天正十一癸未年より

入道三省

越前守經定右衛門尉

季久子經平ハ村田五

天正十八庚寅年之比

郎左衛門經行曾祖父

村田右衛門尉經平

文祿之始より慶長五庚戌年迄

貴久公御舍弟

左兵衛尉尚久子

天正十六年之比より慶長  
十四年六月迄

島津囨書頭忠長

入道紹益

義濃守光宗子

平田左近將監藏宗

町田家十六代兵部左衛門尉

久徳子

町田出羽守久信

入道存松

藏人有徳子

山田越前守有信

入道理安

左近將監時麿子

種子島左近太夫久時

入道一琢

因幡守親治子本田

市郎左衛門親昌曾祖父

本田六右衛門尉親正

庶流

宮内少輔国貞入道

咲翁子比志島主膳国治養祖父

慶長之始より

家久公御代迄

比志島紀伊守国貞

畠山中務大輔頼国

入道橋陰軒子島山

式部義扶養高祖父

天正之末より慶長五庚子年

九月迄 義弘公御代迄

長寿院盛淳

左近將監藏宗子

平田太郎左衛門尉増宗

家久公御代

庶流

下野守久通入道

魯笑子

家久公御代迄

伊集院下野守久治

入道抱節

図書頭政勝子

鎌田出雲守政近

樺山家十代兵部大輔忠助

入道紹劍二男後十三代之

家督を継

樺山権左衛門尉久高

文祿元壬辰年三月より

家久公御代迄

後 美濃守

右之人数 義弘公御家督之節も御家老被相勸候、右之外 義久公義弘公御

隠居御家老御座候得共、御蔵入計支配と相見得申候故除之

家久公御代御家老

慶長七年比より元和寛永十五年迄三拾七年 御家督

雅楽助貞真入道

任世二男

慶長十六辛亥年より寛永十八

辛巳四月迄 光久公御代迄

伊勢兵部少輔貞直

出羽守久信子左京亮

忠綱子

慶長十六辛亥年より寛永元年

甲子六月十七日於江戸死去

町田勝兵衛尉久幸

後 図書頭

遠江守重益子

兵部少輔重宗子

慶長十七壬子年之比より元和四

戊午年迄

三原諸右衛門尉重種

後 備中守

図書頭忠長入道紹益

二男兄河内守久信早世

以後家督相続

島津下野守久元

元和四戊亥年より寛永二十癸

未年迄 光久公御代迄

摂津助季久四男兄

式部大輔久通名跡

元和四戊午年之比より寛永十

癸酉年迄

喜入摂津守忠政

後 忠統

紀伊守国貞子

寛永元甲子年より同五戊辰

年迄

比志島宮内少輔国隆

左近將監久辰子

寛永五戊辰年之比より慶安

二己丑年迄 光久公御代迄

川上式部大輔久国

後 將監

下野守常久子

島津彈正大阿久慶

藏人頭政富子

寛永十一甲戌年五月より同十八辛巳

辛巳年迄 光久公御代迄

鎌田出雲守政統

後 治部少輔

寛永十二乙亥年之比より同十七  
庚辰年迄 光久公御代迄

備中重種子三原  
諸右衛門重尚祖父

三原左衛門佐重鏡  
後 重庸

越前守有信入道

理安子

寛永十三丙子年三月より慶安  
三庚寅年迄 光久公御代迄

山田民部少輔有榮

寛永十五戊寅五月八日 御家督

光久公御代御家老

寛永十五年より正保慶安承応明暦万治寛文  
延宝天和貞享四年迄五拾年 御家督

弥一 郎久秀後嗣実父

鎌田出雲守政近

寛永十八辛巳年より正保三丙戌  
年迄

頸娃 左馬頭久政

北郷家十一世加賀守三久子

寛永二十癸未年より明暦二丙  
申年迄

北郷 佐渡守久加

但寛永十六年己卯十一月より御旅御家老

下野守久元子

正保二乙酉年より寛文十二壬  
子年迄

島津 図書頭久通

但寛永年間御旅御家老

五郎右衛門尉入道遊浦

養子久詮祖父伊勢守

康久ハ

日新公御家老

正保二乙酉年より寛文  
三癸卯年迄

新納右衛門佐久詮

敷根中務少輔立頼子

久頼賜 御名字

慶安二己丑年より寛文  
四甲辰年迄

島津筑前守久頼

町田出羽守久信弟

源左衛門尉政子

慶安二己丑年より寛文二  
壬寅年迄

町田勘解由久則

兵部少輔貞昌子

大隅守貞豊後嗣

慶安二己丑年より寛文三  
癸卯年迄

伊勢兵部少輔貞昭

玄蕃充政朝養子

慶安二己丑年より寛文七  
丁未年迄

鎌田源左衛門尉政有

但寛永八未年之比御旅御家老

治部少輔政統後嗣

鎌田藏人正信

明暦二丙申年より寛文丙午年まで

下野守久元二男

万治元戊戌成年より寛文八  
戊申年迄

島津中務久茂

但承応二年御旅御家老

勘解由久則子

寛文三癸卯八月より貞享  
二乙丑年迄

町田勘解由久昌

後 忠代

後 忠貞

右衛門佐久詮子

新納又左衛門久仁

寛文三癸卯年より元禄八  
乙亥年迄 綱貴公御代迄

後 久了

豊後守久賀二男

島津帯刀久元

寛文六丙午年より元禄三  
庚午年迄 綱貴公御代迄

仲右衛門尉兼安子

寛文七丁未年より同十一辛亥年迄

但明暦二年之比御旅御家老

諏訪李右衛門兼利

家久公御四男初而

立家準御三男家

寛文七丁未年より延宝七己未年迄

島津市正忠広

中務久茂子

寛文十庚戌年より貞享二乙丑年迄

島津新八郎久賢

但寛文九年正月六日より御旅御家老

後 久憑

久武

新八

甲斐

伴兵衛兼屋男正忠

兼盛曾孫

寛文十庚戌年より宝永四丁亥正月御免 吉貴公御代迄

肝付弾正兼方

後 主殿

久兼

図書頭久通子

寛文十二壬子年より元禄六癸酉年迄 綱貴公御代迄

島津出雲久胤

後 図書

久竹

安芸守久雄子

延宝二甲寅年より宝永七庚寅正月御免 吉貴公御代迄

島津中務久輝

左近忠時子

延宝七己未年より宝永七庚寅六月御免 吉貴公御代迄

種子島藏人久時

作左衛門尉忠精子

天和元辛酉年より貞享五戊辰年迄 綱貴公御代迄

北郷惣次郎忠昭

市正忠広子

天和二壬戌年より宝永三丙戌年三月御免 吉貴公御代迄

島津大学忠守

後 助之丞

丹波久利後嗣

延宝八庚申年より元禄十丁丑年迄 綱貴公御代迄

佐多豊前久達

又六久岑後嗣

貞享三丙寅年より御家老職享保四亥十一月より御城代加判御免御家老勤如本享保十四酉八月御役内死去 繼豊公御代迄

島津伊賀久寛

後 縫殿

勘解由

将監

久当

撰津介忠長後嗣

貞享三丙寅年より宝永二乙酉九月御免 吉貴公御代迄

喜入右衛門久亮

後 又兵衛

安房

貞享四丁卯七月廿七日 御家督

綱貴公御代御家老

貞享四年より元禄宝永元年迄十八年 御家督

庶流 狩野介宗弘子

貞享五戊辰年より元禄十二己卯年迄 御部屋栖之節より二之御丸方御旅御家老

平田新左衛門宗正

右近重長子

元禄五壬申年より同十二己卯年迄

福寝孫左衛門清雄

後 丹波

図書久竹子

元禄十丁丑年より同十四辛巳年迄

島津 図書久雅

後 久洪

近江久辰子



元禄十丁丑年より宝永七庚寅二月御  
役内死去 吉貴公御代迄

新納四郎左衛門久珍  
後 美作 市正

光久公之御十男初而

立家準御二男家

元禄十四辛巳年より享保二丁酉年四月  
御役内死去 吉貴公御代迄

島津大藏久明

因幡久国曾孫

元禄十四辛巳年より宝永二乙酉十二月  
御免 吉貴公御代迄

川上式部久重

宝永元年申十月廿九日 御家督

吉貴公御代御家老

宝永元年申より享保六年迄十八年

御家督

帯刀久元子

宝永元甲申年より正徳五乙未  
九月御免

島津帯刀忠雄  
後 仲休

主殿久兼子

宝永六己丑年より享保三戊三月  
御役内死去

肝付主殿兼柄

中務久輝養子

宝永七庚寅年より元文四未七月  
御役内死去

島津中務久實

後 内記

藏人久時子

主殿

種子島彈正伊時

宝永七庚寅六月より元文元辰十月  
御免 繼豊公御代迄

後 久基

豊前久邦養子

正徳五乙未十月十八日より享保十六  
亥六月御免 繼豊公御代迄

島津内膳久兵

孫太郎義頼後嗣

正徳五乙未十二月十八日より享保六丑年より  
吉貴公御隠居御方勤延享四年卯十二月御免  
宗信公御代迄 比志島隼人範房

惣次郎忠昭養子

享保二丁酉十月朔日より同八  
卯十一月御役内死去

北郷作左衛門久嘉

佐多備前久達子

享保三戊七月より延享二丑十月  
御役内死去 繼豊公御代迄

島津 奎 久武  
後 久蒙

刑部久弘子

享保五子九月より同二十年卯八月  
御免 繼豊公御代迄

伊集院藏人久矩

享保五子十一月より同十巳九月  
御役内死去 繼豊公御代迄

名越右膳恒渡

享保六年丑六月九日 御家督

繼豊公御代御家老

大藏久明子

享保六年より延享三年迄二十六年  
寅二月御役内死去

島津左仲久春

作助久伴後嗣

久純

享保九辰正月より同十三申七月御  
役内死去 吉貴公御隠居御方勤

義岡 右京久守

島津織部久達子

享保十一年五月より同二十  
卯八月御免

平岡八郎太夫之品

相馬忠郷子

後 内匠

享保十一年六月より寛延三年午  
九月御役内病死 重年公御代迄

樺山主計久初

甚左衛門興善養子

享保二十卯八月より元文六酉  
二月十五日御免

堀四郎太夫興昌

長左衛門久明後嗣

元文元辰十二月より延享五年辰  
正月御役内死去 宗信公御代迄

穎娃左京久周

後 内膳

藏人久時二男

元文四未十二月より延享四年  
卯七月御免 宗信公御代迄

種子島織部時成

後 時守

改 北条

太郎右衛門政高子

寛保元年酉二月より延享四年  
卯七月御免 宗信公御代迄

鎌田太郎右衛門政直

左衛門久林子

寛保三年亥閏四月より寛延二年巳  
二月御役内死去 宗信公御代迄

島津左衛門久甫

左内久知子

寛保三年亥六月より明和四亥二月  
十七日御役内死去 重豪公御代迄

島津右平太久卿

後 右京

主鈴

兵部貞栄子

久品

延享二年丑十二月より宝暦四年戌  
十月御役内死去 重年公御代迄

伊勢兵部貞起

宗信公御代御家老

延享三年寅十一月廿一日 御家督

御家督

島津助之丞忠守二男

延享四年卯七月より同五年辰  
正月御免

郷原転久雄

要人政躬子

延享四年卯七月より宝暦十一  
年巳七月御免 重豪公御代迄

鎌田源左衛門政昌

後 典膳  
新左衛門正房子

延享五年辰正月より宝暦五年亥  
五月御役内死去 重年公御代迄

平田掃部正輔

後 鞆負

大藏久純子

延享五年辰二月より同年七月  
御役内死去

島津大藏久丘

伊織久近子

延享五年辰七月より寛延四年  
未閏六月御免 重年公御代迄

島津矢柄久富

主殿久貫子

寛延二年巳六月より宝暦八年寅十  
二月御役内死去 重年公御代迄

島津主殿久柄

後 久馮

右京久守子

寛延二年巳九月より宝暦十年辰  
九月御役御免 重豪公御代迄

義岡相馬久中

後 弾正

次郎左衛門政分子

寛延三年午十一月より宝暦四  
年戌四月御免 重年公御代迄

市来左中政方

寛延二年巳十一月十日 御家督

重年公御代御家老

寛延二年より宝暦五年迄七年

御家督

左京久敦子

宝暦三年酉七月より同四年戌  
九月御役内死去

新納内藏久品

十藏久達子

宝暦五年亥六月より同六年子十  
一月御役内死去 重豪公御代迄

伊集院十藏久東

後 織部

宝暦五年亥七月廿七日 御家督  
重豪公御代御家老

宝曆五年より天明七年迄三拾三年 御家督

圖書久倫養子

宝曆五年亥九月より同十三年未九月御役内死去

島津圖書久亮

七郎右衛門種房子

宝曆五年亥十一月より明和五年子七月御役御免

高橋縫殿種寿

後 此面

主計久初子

宝曆六年子十二月より同十一年巳七月依願御役御免 明和元年申十月再御免 安永二年未九月十五日依願御役御免

樺山左京久倫

後 久智

藤馬重之子

宝曆九年卯六月より明和六年丑九月十三日御役内於江戸死去

菱刈藤馬実詮

小藤次正甫子

宝曆十年辰七月より同十四年申四月御役内死去

鎌田隼人正芳

後 藏人

左衛門久甫子

宝曆十一年巳八月より明和二年酉二月依願御役御免

島津若狭久定

後 山城

小平太久幸子

宝曆十一年巳八月四日より寛政五年丑五月十九日依願御役御免 齊宣公御代迄

島津左中久金

後 伊賀

助右衛門国陣子

宝曆十三年未十月より安永四年未七月依願御役御免

川田伊織国福

仲久隣子

明和二年酉七月より天明七年未五月依願御役御免後

島津仲久智

後 久健

太七郎久首子

明和四年亥四月三日より同八年卯九月廿一日依願御役御免

桂 織部久中

主膳久茂子

明和六年丑十二月朔日より寛政元年酉八月廿九日死去 齊宣公御代迄

喜入主馬久福

後 安房

内記清方養子

明和六年丑十二月朔日より天明元丑閏五月十八日依願御役御免

小松帶刀清香

齋宮久房子

明和八年卯八月廿八日より安永九年子正月廿九日於江戸病死

山岡齋宮久澄

後 市正

甚右衛門則茂養子

安永四年未七月廿八日より同八年亥八月十五日依願御役御免

赤松造酒則正

林左衛門行通養子

後出右衛門行道家を兼統

安永五年申十月十一日より寛政二年戌九月十五日御役内死去 齊宣公御代迄

二階堂主計行且

十太右衛門久命子

安永九年子六月十一日より天明六年午五月十三日御役御免

島津大進久起

後 近江

甚五兵衛通興子

天明二年寅正月十五日より同七年未五月廿七日依願御役御免

宮之原主膳通直

小右衛門親安子

天明六年午五月十三日より同七年未五月廿七日依願御役御免

川上頼母久品

喜内貞行養子

天明六年午十二月十三日より寛政元年酉十一月十一日到 齊宣公御代御役御免 同四年子五月十九日より再役 文化五年辰二月四日御役御免 齊宣公御代迄

市田勘解由貞夫

後 出雲

天明七年未正月廿九日 御家督  
齊宣公御代御家老

天明七年より文化六年迄貳拾三年 御家督

天明七年未三月九日より寛政三年亥三月十九日御役内死去

李久峯子

島津豊前久邦

後 和泉

石見

藤馬美詮子

天明七年未三月九日より文化三年寅八月二日御役内死去

菱刈大炊実祐

後 下総

実邑

陸邑

軍兵衛金麻子

天明七年未四月十一日より同八年申四月十一日御役内死去

関山糺金暉

登久置子

天明八年申九月三日より寛政二年戌六月廿二日御役内死去

島津登久連

求馬久教養子

寛政元年酉十一月朔日より同八年辰四月廿八日依願御役御免

島津求馬久親

左源大恒素子

寛政元年酉十一月六日より同十一年未八月廿一日依願御役御免

名越右膳時央

後 恒当

兵部貞起子

寛政二年戌十二月廿八日より享和元年酉七月十日御役内死去

伊勢播磨貞矩

隼人範常子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子閏二月十九日御役内死去

比志島要人範章

市正久澄子

寛政三年亥十二月廿八日より同五年丑五月六日御役内死去

山岡雅楽久容

後 市正

主計行且子

寛政五年丑四月十五日より同九年巳三月十五日御役内死去

二階堂主計行充

後 河内

久馬久儔養子

寛政五年丑七月廿八日より享和元年酉十月朔日依願御役御免

川上久馬久致

喜三右衛門有雄子

寛政七年卯八月廿八日より享和二年戌十二月廿六日御役内死去

山田伯耆明遠

此面種寿子

寛政九年巳三月朔日より文化二年丑八月廿五日御役御免

高橋縫殿種央

伊織国福嫡孫

寛政十一年未十一月十五日より文化四年卯二月四日御役内死去

川田伊織佐賢

造酒則正子

享和元年酉十二月六日より文化三年寅七月十一日依願御免

赤松市正則決

内膳久風子

享和三年亥二月朔日より文化十年酉十二月廿七日御役御免 齊興公御代迄

頼娃信濃久喬

内蔵久儔子

文化三年寅四月廿八日より同四年卯十一月十日御役御免 同十一年戌三月廿七日より齊興公御代再役文政九年戌十一月廿八日依願御役御免 齊興公御代迄

新納内蔵久邦

後 久命

伊賀久金子

文化三年寅八月六日より同十一年戌八月十三日 齊興公御代依願御役御免

島津守監久美

典膳政為子

文化四年卯九月十三日より文政二年卯二月廿五日依願御役御免 齋興公御代迄

鎌田典膳政興

後 政詮

(朱) 一左京久智子

樺山主税久言

右文化四年卯十一月十九日より同五年辰四月九日御役御免、右勤役中取扱之儀ハ何も御取用ニ不相成、諸向帳面等都而燒捨候様被仰渡置候」

内藏久昶養子

文化五年辰六月三日より文政七年申七月二日依願御役御免齋興公御代迄

島律安房久備

登久連子

文化五年辰閏六月廿八日より同七年午十二月十九日依願御役御免 齋興公御代迄

島津登久兼

文化六年巳六月十七日 御家督

齋興公御代御家老

久馬久致子

文化七年午八月廿七日より

川上右近久芳

後 美濃 久馬

監物久甫嫡孫

文化十一年戌十月廿九日より

町田監物久視

勘解由盛常子

文政二年卯正月十五日より同五年午四月十四日御役御免

市田長門義宣

佐左衛門久陣養子

文政七年申四月廿八日より

北郷内記久珉

飛驒久亮子

文政七年申十月廿八日より

島津但馬久風

内膳久中子

文政九年戌五月廿八日より

島津丹波久長

(朱) 重豪公御代御側詰

小右衛門親安子

天明五年巳正月十一日より同六年午五月十三日御家老五御役替

川上頼母久品

(朱) 「十四」

家久公以來御談合役御詰役御側詰若御年寄 若年寄相勤候人之事

家久公御代御詰役

越前守有信子

寛永十二乙亥年之比

山田民部少輔有栄

寛永十二乙亥年之比

備中守重理子

寛永十二乙亥年之比

三原左衛門重饒

藏人政富子

寛永十二乙亥年之比より御詰役同十四丁丑年二月御家老御役替

後 重庸

光久公御代御談合役御詰役

鎌田出雲守政統

慶安四辛卯九月より明暦二丙申年二月迄御家老座詰

出雲守政統子

寛文元辛巳年之比より御談合役横目頭兼役

後 藏人 鎌田筑後正信

民部少輔有栄子

山田民部有隆

寛文二壬寅年之比より御談合役ニ而御物座詰寛文三癸卯八月御家老御役替

勘解由久則子

寛文三癸卯年九月より御詰役

町田勘解由久昌

豊後守久賀二男

島津清太夫久共

寛文三癸卯年九月より御詰役

寛文三癸卯年九月より御詰役

島津清太夫久共

寛文三癸卯年九月より御詰役

島津清太夫久共

御談合役ニ而御物座詰年号  
月日不詳

寛文六丙午年七月十三日より同  
十二壬子年九月十六日迄御詰役

寛文六年丙午七月十三日より御詰  
役同十年庚卯八月御家老御役替

寛文六丙午年七月十三日より横目  
頭兼役天和元辛酉年九月六日死去

寛文七丁未年十二月朔日より御談合  
役同八年戊申正月廿三日迄御詰役

寛文九己酉年正月より御詰役

寛文九己酉年二月廿三日より  
御詰役横目頭兼役

寛文九己酉年十月十五日より御談合役  
延宝二甲寅年十一月六日御家老御役替

延宝五丁巳年二月三日より御詰役  
天和元酉八月十日御家老御役替

御詰役横目頭兼役  
年号月日不詳

後 久元

右衛門佐久詮子

新納又左衛門久仁

○書頭久通子

島津又五郎久胤

後 出雲

伴兵衛兼屋子

肝付伴三郎兼方

勘解由久昌子

町田源左衛門久盛

後 久英

中務久茂子

島津新八郎久賢

市正忠広子

島津大学忠守

左近忠時子

種子島左近久時

後 藏人

狩野介宗弘子

平田新左衛門宗正

作左衛門尉忠精子

北郷宗次郎忠昭

三郎右衛門忠朝子

島津丹波忠興

近江忠影子

新納四郎左衛門久辰

延宝五丁巳年三月十九日より  
横目頭兼役  
但元禄十一戊寅年十一月廿七日  
御家老座詰御免 綱貴公御代迄

後 近江

新八郎久賢養子実八

中務久茂三男

天和二壬戌年八月廿一日より御詰役  
同年十一月廿七日より横目頭兼役

島津助太夫久文

後 内記

兵部少輔貞昭子

天和二壬戌年八月廿一日より御詰役  
同年十一月廿四日より横目頭兼役

伊勢兵部貞顕

帯刀久元子

天和二壬戌年八月廿一日より御  
詰役 同年十一月廿四日横目頭  
兼役 貞享四丁卯十二月廿五日  
より御物座詰 綱貴公御代迄

島津主計久年

又六久岑後嗣

貞享元甲子年七月二日より  
同三丙寅年迄御詰役

島津伊賀久寛

光久公之十男初而

立家準御二男家

貞享三丙寅年閏三月十五日より  
御詰役 綱貴公御代迄

島津大藏久明

○書久竹子

貞享三丙寅年閏三月十五日より  
元禄十丁丑年閏二月十四日迄  
御詰役  
後 綱貴公御代迄

島津又五郎久雅

後 久英

久洪

下野

○書

近江久辰子

貞享三丙寅年閏三月十六日よ  
り御詰役横目頭兼役 元禄八  
乙亥年正月廿五日より  
御国遣座御詰役 綱貴公御代迄

新納四郎左衛門久珍

貞享三丙寅年閏三月十五日より御詰役

綱貴公御代御詰役

貞享五戊辰年より御詰役  
但元禄二己巳年より  
光久公御隠居御方御詰役

元禄元戊辰年十二月廿六日より同五壬申年十一月九日迄御物座御詰役

元禄十二己卯年五月十日より同十四辛巳年十月十日迄御園遺座御詰役

吉貴公御代若御年寄

宝永二乙酉年十月十日より同七庚寅年六月廿八日御家老御役替

宝永三丙戌年十二月三日より同七庚寅年四月十四日御家老御役替

宝永四丁亥年九月十一日より同六己丑年十一月十三日御家老御役替

宝永七年庚寅年正月廿二日より  
正徳元辛卯年六月御役内死去

正徳元辛卯年八月廿一日より同五乙未年十月十八日御家老御役替

又左衛門久了養子

新納五郎右衛門久仲

後 民部

十右衛門久朗二男

伊集院越中久照

後 遠江

右近重永子

彌寝八郎右衛門清雄

後 孫左衛門

將監久將嫡孫

川上式部久重

藏人久時子

種子島彈正伊時

中務久輝養子

島津備前久貫

後 内記

主殿久兼子

肝付主殿兼柄

太郎兵衛忠澄養子

桂 織部久祐

豊前久邦養子

島津内膳久兵

孫太郎義頼後嗣

正徳元辛卯年八月廿一日より同五乙未十二月御家老御役替

比志島車人範房

宗次郎忠昭養子

正徳五乙未年十月十八日より享保二丁酉年十月朔日御家老御役替

北郷作左衛門久嘉

備前久達子

正徳五乙未年十二月十八日より享保三戊七月御家老御役替

島津奎久武

刑部久弘子

享保二丁酉年十月十五日より同五子九月御家老御役替

伊集院藏人久矩

享保三戊二月より同五子十二月御家老御役替

名越右膳恒渡

上野久尚子

享保四亥十一月より同十一年七月御免 繼豊公御代迄

川上久馬久東

後 一学

清太夫久近子

享保五子五月より同十六亥六月御免 繼豊公御代迄

島津彦太夫久富

作助久伴後嗣

享保六丑正月より同九辰正月御家老御役替  
享保六丑年より 吉貴公御隠居御方勤

義岡右京久守

繼豊公御代若御年寄

島津織部久達二男

享保八卯十二月より同十一年午五月御家老御役替

平岡八郎太夫之品

八郎左衛門久矩養子

享保十一年十二月より元文二己巳四月御役内死去  
享保十五戊四月より 吉貴公御隠居御方勤

島津登久置

宍岐久侶養子

享保十六亥六月より元文四未五月御免

島津市太夫久雄

源太夫行明子

享保十九寅二月より元文二巳五月御免

二階堂舎人行篤

享保二十卯十二月より元文元辰十二月御家老御役替

穎娃左京久周

元文二巳四月より延享四年卯十二月御免  
宗信公御代迄 吉貴公御隠居御方勤

六郎次郎久基養子  
島津権左衛門久道

元文二巳五月より同四未十二月御家老御役替

藏人久時二男  
種子島織部時成

元文五申十月より寛保三年亥閏四月御家老御役替

左衛門久林子  
島津民部久甫

寛保三年亥十二月より延享二年丑十二月御家老御役替

兵部貞栄子  
伊勢兵部貞起

延享三年寅四月より同五年辰二月御家老御役替 宗信公御代迄

大藏久純子  
島津大藏久丘

宗信公御代若御年寄

伊織久近子

延享五年辰正月より同年七月御家老御役替

島津弥市郎久富

延享五年辰七月より寛延二年巳六月御家老御役替

主殿久貫子  
島津主殿久柄

寛延二年巳九月より宝曆七年丑七月御役内死去

藤次郎久智子  
島津左近久起

新八郎久昌子 後 将監

寛延二年巳九月より宝曆五年亥七月御役内死去

島津内記久臈

寛延四年未閏六月より宝曆二年申九月御免 重年公御代迄 繼豊公御隠居御方勤

藤藏後嗣  
河野八郎左衛門通興

重年公御代若御年寄  
宝曆四年戌二月より同九年卯六月繼豊公思召有之若御年寄御役御免三而御家老座五出勤御用筋御家老申該被相勤不及加判 重豪公御代迄

重豪公御代若御年寄  
佐久象養子  
島津奎久峯

重豪公御代若御年寄

内記清方養子

宝曆六年子二月より明和六年丑十二月朔日御家老御役替宝曆十二年午十二月賜小松称号 禰寝式部清香

宝曆八年寅七月より同十三年未十月御家老御役替 助右衛門國陣子  
川田伊織国福

宝曆九年卯六月より同十一年巳八月御家老御役替 小平太久幸子  
島津小平太久金

宝曆十二年午五月より同十三年未正月御役内死去 求馬久房子  
島津求馬久醇

宝曆十三年未七月より明和二年酉八月依願御役御免 大藏久通後嗣  
島津大藏久近

明和二年酉九月より安永四年未七月廿七日依願御役御免 八郎左衛門通興養子  
河野八郎左衛門通古

明和六年丑十二月朔日より天明元年丑十一月四日依願御役御免 四郎左衛門久邦子  
新納波門久侶



明和八年卯二月廿五日より安永九年子七月十四日御役内死去

主殿久馮子  
島津采女久芳  
十太右衛門久命子

安永二年巳五月十五日より同九年子六月十一日御家老御役替

島津大進久起  
奎久峯子

安永九年子六月十一日より天明七年未三月九日御家老御役替

島津奎久邦  
後 豊前

兵部貞起子

安永九年子十月十一日より寛政二年戌十二月廿八日到 齊宣公御代御家老御役替

伊勢兵部貞矩  
後 伊豆  
播磨

島津備前貴備二男

天明元年丑閏五月十五日より同六年午六月廿九日御免

末川織衛久教  
後 将監

藤馬実詮子

天明二年寅正月十五日より同七年未三月九日御家老御役替

菱刈大炊実祐  
登久置子

天明五年巳正月十八日より同八年申九月三日到 齊宣公御代御家老御役替

島津登久連  
軍兵衛金麻子

天明六年午三月朔日より同七年未四月十一日御家老御役替

関山 札金郷  
後 金暉

久馬久壽養子

天明六年午五月十三日より寛政五年丑七月廿八日到 齊宣公御代御家老御役替

川上久馬久致

齊宣公御代若年寄

求馬久教子

天明七年未四月十一日より寛政元年酉十一月朔日御家老御役替

島津求馬久親  
隼人範常子

寛政元年酉十一月朔日より同三年亥三月廿一日御家老御役替

比志島要人範章  
安房久福子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子七月八日御役内死去

喜入安房久量  
市正久澄子

寛政三年亥三月廿一日より同年十二月廿八日御家老御役替

山岡稚乘久容  
左内政一子

寛政三年亥十二月廿八日より同十一年未十一月廿五日依願御役御免

小林中太兵衛政央  
後 一学

寛政四年子八月十三日より享和三年亥二月朔日御家老御役替

内膳久風子  
顯娃左京久喬  
後 信濃

寛政五年丑五月十九日より文化三年寅八月六日御家老御役替

伊賀久金子  
島津左中久美  
後 将監

寛政七年卯八月廿八日より同九年巳三月朔日御家老御役替

此面種寿子  
高橋縫殿種央

寛政七年卯八月廿八日より享和元年酉十二月六日御家老御役替

造酒則正子  
赤松造酒則方  
後 市正

小右衛門親安子  
則決

寛政九年巳三月朔日より同十二年申六月廿四日御役内死去

川上頼母久品  
仲久健子

享和元年酉十二月十二日より文化元年子九月廿八日依願御役御免

島津 仲久美

享和三年亥二月朔日より文化五年辰六月三日御家老<sup>五</sup>御役替

島津安房久備

享和三年亥二月朔日より若年寄大目附勤文化三年寅四月廿八日御家老御役替同九年申正月十一日より到齊興公御代再役大目附勤同十一年戌三月廿七日御家老御役替

内藏久備子  
新納駿河久邦  
後 内藏

文化二年丑五月廿八日より同五年辰閏六月廿八日御家老御役替

島津登久兼

文化四年卯正月十一日より同八年未八月十五日御役内死去 齊興公御代

右膳久命養子  
島津仁十郎久芳

文化五年辰九月廿九日より同十四年丑五月十三日到 齊興公御代依願御役御免

頼母久克子  
島津相馬久臨

齊興公御代若年寄

文化九年申正月十一日より同年四月十八日御役内死去

安房久量子  
喜入主水久欽

文化九年申十二月朔日より同十一年戌十月廿九日御家老<sup>五</sup>御役替

監物久甫嫡孫  
町田監物久視

文化十一年戌十月廿九日より文政五年午三月廿七日御役御免

市正則決子  
赤松造酒則敏

文化十一年戌十一月朔日より文政七年申四月廿八日御家老<sup>五</sup>御役替

作左衛門久陣養子  
北郷作左衛門久珉  
後 主膳

佐渡  
内記

文化十四年丑六月廿一日より文政二年卯正月十五日御家老<sup>五</sup>御役替

勘解由盛當子  
市田壬生義宣  
後 長門

文化十五年寅二月十五日より

河内行充子  
二階堂伊豆行典

文政二年卯二月六日より同四年巳十一月七日病死

矢柄久鶴子  
島津矢柄久宅

文政五年午三月朔日より

伊織佐賢子  
川田信濃佐摸

文政七年申十月廿八日より同九年戌五月廿八日御家老<sup>五</sup>御役替

内膳久中子  
島津内膳久長  
後 丹波

文政九年戌六月十五日より

主殿久謙子  
島津主殿久輔

〔十五〕

光久公以来横目頭大御目附大目附格相勤候  
人之事

光久公御代横目頭

中務忠榮養子

寛文二壬寅年より同七年七月十二日死去

島津安芸久雄

御役被仰付候年号月日不詳

長寿院盛淳子

阿多内膳忠栄

寛文二壬寅年之比

勘解由久則子  
町田勘解由久昌  
右衛門佐久詮子

御役被仰付候年月日不詳

承応三甲午年之比

寛文六丙午年七月より

寛文六年午七月より

寛文八戊申十月四日より延宝  
二甲寅年迄

寛文十一辛亥年二月より延宝  
七己未年四月九日迄

寛文年間之比より宝永元甲申  
年二月十五日迄

寛文十一辛亥年二月より天和  
二壬戌年御家老御役替

御役被仰付候年号不詳貞享二  
乙丑年九月迄

延宝元癸丑年之比

延宝四丙辰年九月廿日より同  
五年二月三日御談合役御役替

新納又左衛門久仁

又六重通子

入来院石見重頼

勘解由久昌子

町田源左衛門久盛

後 久英

伴兵衛兼屋子

肝付伴三郎兼方

安芸久雄子

島津中務久輝

左近忠時子

種子島左近久時

後 藏人

松千代養子実八

家久公御子

伊集院十右衛門久朝

市正忠広子

島津大学忠守

三郎右衛門忠朝子

島津丹波忠興

因幡久国子

川上將監久将

作左衛門慰忠精子

北郷宗次郎忠昭

近江忠影子

延宝五丁巳年三月十九日より  
天和二壬戌十一月廿七日迄貞  
享五戊辰年三月八日寄役被仰  
付同年九月三日御免

新納四郎左衛門久辰

後 近江

豊後守久賀子

延享五丁巳年四月より天和三  
癸亥年二月御免

島津豊前久邦

諸右衛門久広子

延宝六戊午年之比より元禄四  
年辛未十二月十八日迄

樺山権左衛門久清

弥三郎忠康養子

天和元辛酉年九月より同三年  
癸亥十二月廿七日迄

桂太郎兵衛久澄

兵部少輔貞昭子

天和二壬戌年十一月廿四日より  
貞享四丁卯年八月十四日迄

伊勢兵部貞顕

带刀久元子

天和二壬戌十一月廿四日より  
但貞享元甲子年より寺社奉行兼役  
元禄八乙亥年二月廿一日迄到  
綱貴公 吉貴公御代二度御役

島津主計久年

後 带刀

新八郎久賢養子

忠雄

天和二壬戌十一月廿七日より元禄十一  
戊寅年十二月十七日御免 綱貴公御代迄

島津助太夫久文

後 内記

主殿久兼子

貞享二乙丑年三月三日より元禄三庚午  
年三月三日迄同十二己卯三月四日より  
宝永四丁亥年九月十日迄若御年寄御役  
替到 綱貴公 吉貴公御代再御役

肝付左門兼柄

後 带刀

典膳

主殿

綱貴公御代横目頭

近江久辰子

貞享五戊辰年九月廿三日より  
元禄八乙亥四月廿四日迄

新納四郎左衛門久珍

藏人久時子

元禄十二己卯年三月二日より宝永二乙酉年十月九日若御年寄御役替 吉貴公御代迄 種子島彈正伊時

光久公御十男初而立 家準御二男家

元禄十三庚辰年正月十日より同十四辛巳年迄

元禄十四年辛巳より宝永二乙酉年十月御免到 吉貴公御代

島津大藏久明 又兵衛親重後嗣 入来院主馬重矩

吉貴公御代大御目附

宝永二年乙酉九月十一日より正徳元辛卯年八月廿日若御年寄御役替

宝永二乙酉年九月廿一日より同七庚寅年七月廿一日若御年寄御役替

宝永三丙戌年三月十一日より同年十二月二日若御年寄御役替

宝永四丁亥年九月廿一日より正徳五乙未年十月十八日若御年寄御役替

宝永五戊子年三月六日より正徳五乙未年十二月十八日若御年寄御役替正徳元辛卯年九月賜島津之御称号

宝永六己丑年五月廿三日より大御目附格御側詰正徳元辛卯年八月廿日若御年寄御役替

宝永七庚寅年正月廿五日より正徳二壬辰年八月御免

豊前久邦養子

島津内膳久兵

太郎兵衛久澄養子

柱 宇右衛門久祐 後 織部

中務久輝養子

島津備前久賈

宗次郎忠昭養子

北郷作左衛門久嘉

備前久達子

佐多内記久武 後 島津左

孫太郎義頼後嗣

比志島隼人範房

源左衛門政恒子

鎌田源左衛門政躬

後 要人

刑部久弘子

正徳元辛卯年八月廿一日より享保二丁酉年十月十五日若御年寄御役替

伊集院十右衛門忠覚 後 藏人

久重 久矩

正徳元辛卯年八月廿一日より大御目附格御側詰享保三戊二月若御年寄御役替

名越右膳恒渡

三郎右衛門忠朝二男 清太夫久近子

正徳二壬辰年八月十一日より享保五子五月若御年寄御役替

島津彦太夫久富

正徳五乙未年十月廿一日より享保三戊二月御役内死去

伊集院織部久富 後 久郷

作助久伴後嗣

正徳五乙未年十二月十八日より享保六丑正月若御年寄御役替

義岡右京久守

孫兵衛重敦子

享保二丁酉十月十五日より同八卯五月御役内死去 継豊公御代迄

菱刈孫兵衛重之 後 藤馬

八郎左衛門久矩養子

享保三戊戌年二月廿八日より同十一月二十日若御年寄御役替 継豊公御代迄

島津十郎左衛門久置 後 登

島津織部久達二男

享保五子五月より同八卯十二月若御年寄御役替到 継豊公御代

平岡八郎太夫之品

継豊公御代大御目附

新右衛門長隆子

享保六丑七月より大御目附格 同七年寅十月御免

相良新右衛門長賢

享保七寅九月より同八卯十二月御家老御役替

享保七寅十二月より同十九寅二月若御年寄御役替

享保八卯十二月より同二十卯七月御免

享保八卯十二月より同九辰三月御役内死去

享保九辰六月より同十一年六月御家老御役替

享保九年辰八月より同十九寅七月御役内死去

享保十一年六月より元文二巳五月若御年寄御役替

享保十一年十一月より同十六亥六月若御年寄御役替

享保十二未十二月より同二十卯八月御家老御役替

享保十九寅二月より同二十卯十二月若御年寄御役替

後 大藏  
大藏久明子

島津左仲久春

源太夫行明子

二階堂舎人行宏

後 行生

行篤

帯刀仲休子

島津主計久名

後 帯刀

外記忠鎮子

新納左京久敏

相馬忠郷子

樺山主計久初

監物宗浄後嗣

平田平太左衛門住充

藏人久時二男

種子島織部時成

菅岐久侶養子

島津市太夫久雄

甚左衛門興嘉養子

堀四郎太夫興昌

長左衛門久明後嗣

穎娃左京久周

享保二十卯七月より元文五申七月御役内死去

享保二十卯十二月より寛保三年亥六月御家老御役替

元文二巳五月より延享三年寅六月依願御役御免

元文二巳十一月より寛保元年酉十一月御免

寛保元酉正月より同年二月御家老御役替

寛保元辛酉年二月より延享四年卯七月御家老御役替 宗信公御代迄

寛保元辛酉年三月より同二年戌十月御役内死去 吉貴公御隠居御方

寛保元辛酉年三月より同三年亥六月御免 吉貴公御隠居御方

寛保元辛酉年十一月より延享五年辰正月若御年寄御役替到 宗信公御代

寛保三年亥閏六月より延享五年辰正月御家老御役替到 宗信公御代

織部久郷子

伊集院十藏久達

左内久知子

島津右平太久品

後 久郷

御旗本小笠原郷左衛門 信孟子

小笠原郷左衛門長賢

市郎兵衛有英子

山田新助有從

太郎右衛門政高子

鎌田太郎右衛門政直

島津助之丞忠守二男

郷原金太夫久雄

大藏長賢子

相良典礼長以

十左衛門政常子

鎌田衛衛政興

伊織久近子

島津弥市郎久純

新左衛門正房子

平田新左衛門正輔

後 掃部

延享三年寅四月より同四年卯七月御家老御役替到 宗信公御代  
宗信公御代大御目附

延享四年卯七月より寛延二年巳八月十四日御役内死去

延享五年辰正月より寛延四年未閏六月御免到 重年公御代

延享五年辰正月より寛延二年巳九月朔日継豊公御方勤 寛延四年未閏六月若御年寄御役替到 重年公御代

延享五年辰八月より宝曆三年四月御家老御役替到 重年公御代

寛延二年巳六月より同年九月御家老御役替

寛延二年巳九月より宝曆八年寅七月若御年寄御役替

寛延二年巳九月より同三年午十一月御家老御役替到 重年公御代

重年公御代大御目附

寛延四年未二月より宝曆二年申八月御免

要人政躬子

鎌田源左衛門政昌

次郎左衛門苞親子

本田作左衛門由親

十郎太夫久英子

山岡齋宮久房

藤藏後嗣

後 久柄

河野八郎左衛門通興

左京久敦子

新納次郎兵衛久品

後 内藏

右京久守子

義隆左平太久中

後 相馬

助右衛門国陣子

川田与右衛門国福

後 伊織

次郎左衛門政分子

市来次郎左衛門政方

後 左中

島津中務久輝

小林左内政一

七郎右衛門種房子

寛延四年未閏六月より宝曆五年亥十一月御家老御役替

高橋縫殿種展

甚左衛門庵兼子

宝曆二年申七月より同四年戌二月御役内死去

諏訪勘解由邦兼

十藏久達子

宝曆三年酉七月より同五年亥六月御家老御役替

伊集院十藏久東

御旗本小笠原郷左衛門信孟子

宝曆五年亥正月より再役被仰付同年十二月依願御免

小笠原郷左衛門長賢

重蒙公御代大御目附

主計久初子

宝曆五年亥九月より同六年子二月御家老御役替

樺山左京久倫

後 久智

小藤次正甫子

宝曆五年亥九月より同十年辰七月御家老御役替

鎌田隼人正芳

藤馬重之子

宝曆六年子十二月より同九年卯六月御家老御役替

菱刈藤馬実詮

太七郎久音子

宝曆七年丑十月より同十二年午十一月依願御免 明和二年西七月再役明和四年亥四月御家老御役替

桂太郎兵衛久中

仲久隣子

後 織部

宝曆八年寅七月より明和二年西七月御家老御役替

島津仲久智

左源太恒索子

宝曆九年卯六月より同十四年申二月御役御免

名越左源太恒篤

宝曆十年辰六月より明和二年酉九月若御年寄御役替

宝曆十四年申三月より明和六年丑十二月朔日御家老御役替

明和二年酉九月より安永二年巳五月十五日若御年寄御役替

明和四年亥四月十三日より明和六年丑十二月朔日若御年寄御役替

明和六年丑十二月朔日より同八年卯八月廿八日御家老御役替

明和六年丑十二月十八日より安永六年酉十二月十二日依願御免

明和七年寅七月廿六日より大御目附格安永二巳五月十五日より大御目附四年未七月廿八日御家老御役替

明和七年寅七月廿六日より大御目附格安永二巳五月十五日より大御目附五年申十月十一日御家老御役替

明和八年卯二月廿五日より天明二年寅三月朔日依願御免

安永二年巳五月廿八日より同九年子十月十一日若御年寄御役替

八郎左衛門通興養子

河野八郎左衛門通古

主膳久茂子

喜入主馬久福

十太右衛門久命子

島津十太右衛門久起

四郎左衛門久邦子

新納四郎久侶

齋宮久房子 後 波門

山岡齋宮久澄

矢柄久富子

島津矢柄久鸞

甚右衛門則茂養子

赤松甚右衛門則正

林左衛門行通養子 後 造洒

出右衛門行道家兼統

二階堂 節 行且

内藏久品子 後 主計

新納内藏久儔

兵部貞起子

伊勢兵部貞矩

郷九郎久儔養子

町田監物久連

御和九年辰六月十九日より大御目附格天明三年卯九月廿三日より大御目附御役替同七年未二月廿六日病死

甚五兵衛通興子 宮之原甚五太夫通直

安永七年戌正月十一日より天明二年寅正月十五日御家老御役替

藤馬実詮子 後 主膳

安永七年戌六月朔日より天明二年寅正月十五日若御年寄御役替

安永八年亥十二月朔日より同九年子六月十一日若御年寄御役替

李久峯子 島津 李 久邦

島津備前貴儔二男

安永八年亥十二月朔日より天明元年丑閏五月十五日若御年寄御役替

末川織衛久教 後 将監

久馬久儔養子

天明元年丑閏五月十五日より同六年午五月十三日若御年寄御役替

川上久馬久致

左源太恒素子 名越左源太時央

天明二年寅正月十五日より寛政元年酉十一月六日到 齊宣公御代御家老御役替

小右衛門親安子 後 右膳

天明二年寅二月朔日より同五年巳正月十一日御側詰御役替

川上頼母久品

天明五年巳正月十八日より寛政七年卯八月廿八日到 齊宣公御代若御年寄御役替

赤松造酒則方

軍兵衛金麻子 関山 札金郷

天明四年辰十二月十五日より大御目附格同六年午三月朔日若御年寄御役替

齊宣公御代大目附

主計行且子

天明七年未四月十一日より寛政五年丑四月十五日御家老御役替

二階堂部行充  
後 主計

安房久福子

寛政元年酉十一月朔日より同三年亥三月廿一日若御年寄御役替

喜入右衛門久欽  
後 安房久量

内膳久風子

寛政三年亥三月廿一日より同四年子八月十三日若御年寄御役替

穎娃左京久喬

内藏久品子

寛政四年子九月十三日より享和三年亥二月朔日若年寄御役替文化五年辰九月廿九日再役同九年申正月十一日若御年寄御役替大目附勤

新納次郎四郎久邦  
後 駿河内藏久命

喜三右衛門有雄子

寛政五年丑五月十五日より同七年卯八月廿八日御家老御役替

山田司有儀  
後 伯耆明遠

伊織國福嫡孫

寛政七年卯八月廿八日より同十一年未十一月十五日御家老御役替

川田伊織佐賢

登久運養子

寛政七年卯八月廿八日より文化二年丑五月廿八日若年寄御役替

島津登久兼

内藏久昶養子

寛政十二年申六月九日より享和三年亥二月朔日若年寄御役替

島津市太夫久備  
後 安房

右膳久命養子

享和三年亥二月朔日より文化四年卯正月十一日若年寄御役替

島津仁十郎久芳

典膳政為子

文化二年丑五月廿八日より同四年卯九月十三日御家老御役替

鎌田源左衛門政興

後 典膳

左京久智子

文化四年卯正月十一日より同年十一月十九日御家老御役替

樺山権左衛門久言

後 主税

監物久甫嫡孫

文化四年卯正月十一日より同九年申十二月朔日到 齊興公御代若年寄御役替

町田監物久親

太郎右衛門政方子

文化二年丑二月廿五日より大目附格御御役勤同三年寅十二月十九日御役内死去

鎌田愛太夫政詮

佐次右衛門方峯子

文化三年寅四月十八日より大目附格同四年卯二月六日大目附同一年十一月十九日御役御免

岩下佐次右衛門方恭

安房久量子

文化四年卯九月十三日より同九年申正月十一日到 齊興公御代若年寄御役替

喜入主水久欽

久馬久致子

文化五年辰閏六月六日より同七年八月廿七日到 齊興公御代御家老御役替

川上右近久芳

齊興公御代大目附并大目附格

河内行充子

文化九年申正月十一日より同十五年寅二月十五日若年寄御役替

二階堂左門行孝

後 行典

伊織佐賢子

伊豆



文化十年西十二月廿三日より文政  
五年午三月朔日若年寄御役替

川田伊織佐櫻  
後 信濃

文化十年西十二月廿三日より文政  
六年未六月十七日依願御役御免

内膳義額子

崑山救馬義矩  
後 式部

休八兼通子

伊集院準衛兼当  
後 久珍

文化十二年亥十二月九日より大  
目附格御用人勤文政二年卯  
三月朔日依願御役御免

波門久侶子

久直

文政二年卯二月六日より大目附  
格寺社奉行勤同七月十六日病死

新納織部久武

源左衛門久亮子

文政二年卯九月十三日より大  
目附格寺社奉行勤同四年巳四  
月廿日病死

町田主馬久諱

文政五年午三月朔日より

播磨貞矩養子

伊勢伊織貞咬

文政五年午四月朔日より大目  
附格同七年申八月六日病死

上野善兵衛篤貫  
後 帯刀

下総隆邑子

菱刈奎之介隆観

文政六年未九月十一日より

右近清家養子

小松式部清透

〔朱〕  
〔十六〕 御檢地高之事

一 高頭八拾九万九千六百七拾壹石壹斗壹升壹合七勺五才  
内

三万五千貳百五拾壹石壹斗四升三合八勺六才

享保十巳年より天明七未年迄增高

八千九百拾三石四斗四升四合四勺

天明八申年より享和三亥年迄增高

六百八拾五石八斗九合四才

文化十三年より文政九戌年迄增高

外

壹万四百三拾四石九斗九升九合壹勺五才

文化元子年より同十二亥年迄引入

九千七百四拾九石壹斗九升壹勺壹才

文化十三年より文政九戌年迄引入

内

高拾七万四千貳百五拾九石五斗七升五勺六才

内

壹万六千七百七拾八石貳斗九合五勺九才

壹万八百三拾六石五斗八合五勺七才

壹万五千三百拾八石四斗四升三合八勺壹才

六千四百拾石貳斗四升貳合八勺八才

貳千四百拾三石貳斗三升五合貳勺四才

千三百八拾四石貳斗五升四合壹勺七才

百八拾四石八斗壹升四合五勺八才

百貳拾七石五斗貳升九合壹勺七才

七拾五石八斗三合壹勺貳才

三百九拾五石六斗四升四合七勺九才

三石九斗九升六合八勺七才

八拾貳石三斗五升四合壹勺七才

三拾五石貳升貳合九勺壹才

百拾石八斗壹升三合壹勺貳才

表 方 御 蔵 入

大 島

喜界 島

徳之 島

沖永良部 島

与論 島

屋久島 奉  
行支配

口永良部 島

御船手付  
七島之内

諏訪瀬 島

平 島

宝 島

臥蛇 島

中之 島

同 惡石馬  
同 口之 島

四拾五石壹斗六升四勺壹才

御船手付 黒 島

三拾六石五斗六升五合六勺貳才

右 同 硫 磯 島

貳拾石六斗八升九合五勺八才

右 同 竹 島

拾貳万石貳斗八升壹合九勺六才

薩 隅 日 諸 所

一 高四万八千三百三拾石六斗四升四合貳勺三才

帖 佐 与 御 蔵 入

内

三千九百六拾七石四斗四升八合貳勺八才

申 年 御 買 入 高

百五拾八石三斗貳升九合貳勺

寺 院 御 買 入 高

但 出米掛

百四拾四石貳斗貳升九合貳勺四才

鹿 籠 金 山 附

但 出米掛

三百九拾貳石六斗壹升七合四才

山 夕 野 金 山 附

内

三百拾四石貳斗八升貳合六勺六才

山 夕 野 金 山 附

但 出米掛

貳千百八拾八石貳斗貳升三合四勺九才

山 夕 野 金 山 附

但 出米掛

内 千九百四拾壹石九斗五升八合五勺九才

山 夕 野 金 山 附

右 四 行 帖 佐 組 方 込 込 被 仰 渡 候

山 夕 野 金 山 附

御 内 証 様 御 渡 方

千六百石

伯 耆 殿 於 隣 殿

所 務 二 而 渡

千三百石

御 合 力 高 所 務 二 而 渡

福 昌 寺 良 英 寺

貳百七拾石

御 仏 餉 料 所 務 二 而 渡

鹿 児 島 士

五拾石

家 二 付 所 務 二 而 渡

貳百石

一 世 御 養 料

三拾石

弥 勤 院 五 所 務 二 而 渡

七千七百四拾四石貳斗七升六合九勺五才

右 御 蔵 入 諸 給 地 部 下 リ 二 而 所 務 渡 并 帖 佐 与 御 蔵 入 高 之 内 御 用 地 損 高

引 高

六千八拾五石三斗九升五合五勺七才

質 物 上 地

一 高三千三百七拾八石四合壹勺八才

御 内 用 方 御 蔵 入

一 高壹万七千五百四拾九石壹斗貳升五勺六才

新 田 御 蔵 入

一 高六百四拾六石貳斗六升五合壹勺

享 保 新 田 御 蔵 入

一 高三百五拾九石五斗壹升六合四勺六才

尾 畔 御 假 屋 付 御 蔵 入

一 高貳拾五石

月 桂 院 様 御 仏 餉 料 御 蔵 入

一 高百七拾石

慈 德 院 様 御 仏 餉 料 御 蔵 入

一 右 貳 行 寺 社 方 支 配 御 代 官 所 附 取 納

御 蔵 入

一 高貳万石貳合壹勺九才

貳 万 石 方 御 蔵 入

一 高三万石貳才

三 万 石 方 御 蔵 入

一 高壹万八千六百貳石五斗三升四才

國 分 与 御 蔵 入

内

百石

月 桂 院 様 御 仏 餉 高

但 出米掛

外 六拾五石三斗七合九勺壹才

質 物 上 地

一 高三千七百拾壹石八斗五升三合四勺七才

御 納 戸 御 蔵 入

一 高五千石

御 鷹 方 御 蔵 入

一 高千貳百拾石九斗四升貳合壹勺貳才

御 納 戸 付 御 蔵 入

内

貳拾石

御 内 証 御 蔵 入

一 貳百八拾七石壹升七合七勺五才

御 納 戸 永 代 上 地

一 三拾九石九斗四升壹合壹勺四才

御 納 戸 一 往 御 買 入

但 定 式 出 米 迄 掛

一 四百八拾四石七斗五升八合貳勺四才

御 納 戸 御 買 入

内

三百三拾五石七斗貳升九合八勺壹才

但 定式出来迄掛

御納戸御私方

御買入

外

三百七拾九石貳斗貳升四合九勺九才

御納戸付方

質物上地

一 高四拾五万八千五百拾九石九斗五升貳合九才

諸給地

内

三拾四万六千六百七石三斗壹合七勺九才

鹿兒島士

内

六千拾九石四斗六升八合三勺

帖佐与御藏入方<sup>五</sup>

質物上地

六拾六石三斗七合九勺壹才

国分与御藏入方<sup>五</sup>

右 同

六百四拾石八斗四升九合五勺四才

御納戸御藏入方<sup>五</sup>

右 同

拾壹万六千九百拾貳石六斗五升三勺

諸郷郷士

内

壹石

帖佐与御藏入方<sup>五</sup>

質物上地

一 高九万四千貳百三拾石七斗九勺四才

琉球国司領

一 高壹万五千四百九石五斗四升三合九勺六才

神社仏閣領

内

六百貳拾四石貳斗壹合四才

御仏餉料

内

百石

但 出来掛

貳百七拾七石貳斗六升五合壹勺

護摩所領

三拾石貳合八才

大乘院

仁王門附

拾五石貳斗四合八勺九才

萩原天神領

拾五石貳斗九合五才

野元薬師領

拾九石九斗八升九合五勺八才

愛宕領

拾九石

三石

六拾九石九斗九升九合九勺壹才

貳拾石壹斗七升七合七勺壹才

四拾九石五斗七升貳合貳勺九才

四拾貳石

右拾貳行御代官所附取納

八千拾四石七斗九升八合九才

内

貳百七石五斗三升三合四勺壹才

但 出来掛

右壹行正八幡宮油田領白鳥山領市来阿弥陀領

七千三百九拾四石七斗四升五合八勺七才

内

九石三斗四升三合五勺

帖佐与

御藏入上地

一 高七千拾三石四斗六升九勺四才

諸屋敷高

内

千五百八拾七石七斗五升九勺七才

鹿兒島

五千四百貳拾五石七斗九合九勺七才

諸郷

一 高千貳百五拾四石四合八勺九才

神社仏閣

屋敷高

内

百拾七石九斗三升五勺七才

鹿兒島

千百三拾六石七升四合三勺貳才

諸郷

〔宋〕 諸給地出物米之事

文政九戌年分

一 出来六万貳千三百貳拾貳石壹斗六升貳合

高五拾七方千三拾壹石三斗壹升四合七勺六才

内

高壹万五百六拾石八斗六升九勺貳才

内

壹万三百六拾七石六斗三升七合四才

米千五百五拾石八斗八合

高壹石二付八升壹合 重出来三升宛

百九拾三石貳斗貳升三合八勺八才

米拾五石六斗五升壹合

高壹石二付出来八升壹合

但永損当損并上見引入重出来御免

右金山附高諸御買入高上地高御藏入方取納有之候諸御仏餉高

高七石九斗壹升三合五勺三才

但金山附新仕明高二而出来不相掛候

高貳百七石五斗三升三合四勺壹才

但園分正八幡宮油田并白鳥山市來阿弥陀領出来不相掛候

高七合九勺七才

但勺才高二テ出来不相掛

高六拾九石九斗六升五合貳勺壹才

右島津助之丞門松覺右エ門持高二而候處、桜島燃ニ付無納地相成、出

米御免

高三拾四万千六百七石三斗壹合七勺九才

内

三拾三方四千五百九拾貳石七升五合六勺九才

米三方七千三百三拾八石七斗貳升

高壹石二付出来八升壹合重出来三升宛

七千拾五石貳斗貳升六合壹勺

米五百六拾八石貳斗三升三合

高壹石二付出来八升壹合

但当損永損上見見掛并桜島燃ニ付引入高重出来御免

高拾貳万四千三百七石三斗九升三合壹勺七才

内

拾貳万三千七百九拾壹石五斗六合貳勺八才

米壹万四千三百五拾九石八斗壹升五合

高壹石二付出来八升壹合重出来三升五合宛

五百拾五石八斗八升九合八勺九才

米四拾壹石七斗八升七合

高壹石二付出来八升壹合

但永損当損上見引入高重出来御免

高三拾九石六斗三升四合八勺貳才

右老行桜島郷士持高桜島燃ニ付出来御免

高九万四千貳百三拾石七斗九勺四才

米九千四拾六石壹斗四升七合

高壹石二付出来九升六合

右出来ハ江戸・京・大阪琉球并諸島在番之諸士賦銀ニ引飯米其外 御

上下、又ハ間之上下共乗船取仕立他国行之時、万賦銀相掛候

諸士之外壹身賦以下之者

右賦飯米并乘船取仕立賃飯米帖佐組御高より相払

御召塗青龜丸

右同小早小鷹丸

御足次小蝶丸

御挽船吉行丸

御挽船粟島丸

水伝間

御次鯨船三艘

使船拾壹艘

御網船釣流船

行列直船小早弥生丸

御玄関船小早常盤丸

御乗物船関千年丸

諸 郷

琉 球

- 一 御湯殿船関行吉丸
- 一 御納戸船関崎行丸
- 一 御数寄屋并表方関栄寿丸
- 一 御膳所船関若江丸
- 一 御馬船関根占丸
- 一 御馬船荷方大崎丸
- 一 右同荷方五代丸
- 一 右同荷方観音丸
- 一 右同荷方松原丸
- 一 右同荷方末行丸
- 一 宿船小早浮好丸
- 一 合船数三拾五艘
- 一 右御船取仕立之儀ハ御物方より相払候
- 一 御家老船塗関住江丸
- 一 御側御用人船関権現丸
- 一 御側役船関野崎丸
- 一 奥掛船関永吉丸
- 一 右同関潮行丸
- 一 右同関松田丸
- 一 御留守居御使番乗合船関武吉丸
- 一 御供目付船関鶴崎丸
- 一 表方乗合船関国吉丸
- 一 右同関宮内丸
- 一 御船奉行乗合船関音羽丸
- 一 合船数拾壹艘
- 一 右御船取仕立摸合方より相払候
- 一 御兵具所船関早海丸
- 一 右同荷方川内丸
- 一 合船数貳艘
- 一 右御船取仕立帖佐組より相払候

〔朱〕十八 半出物米高之事

当時無之候

給地方新田皇正徳二辰享保二酉三月高奉行書出之趣を以書載申候、半出物高と申候ハ郡奉行檢地仕、竿入高相究候得共、御支配不相濟内ハ古高之出米半分上納仕儀ニ而漸々支配相濟次第、古田同前之出米上納仕御法様ニ候、依之右高ハ給地高頭ニ書載不申候

但右之通支配相濟、古田同前之出米仕御法様候得共、宝永六丑年より郡奉行檢地、竿入高相究候得ハ古田同前之出来相掛候付、当時半出米高無之候、然共支配無之内ハ現高ニハ相込不申候